宮崎駿の雑想ノート

Hayao Miyazaki's Daydream note

増補改訂版

宮崎 駿

miyazaki hayao

大日本絵画

宮崎駿の
雑想ノート
Hayao Miyazaki's Daydream note
【増補改訂版】
宮崎 駿
miyazaki hayao
大日本絵画

H a y a o
M i y a z a k i ' s

●

あんまり人に自慢できる趣味じゃないんですが、
ようするに軍事関係のことが好きなんですね。
くだらないなァと思いながらも、軍事関係のことが好きなんです。

なんと愚かなことをするんだろう…と思いながら、なんてバカなんだろうと思いながら戦記などを読んでいるんです。でも、愚かだとわかりつつも、狂気の情熱みたいなものが、どこかで好きなんですね。

しかし、肯定しているかというと、そうではなく否定しているんですが、そういう矛盾が整理されないまま、ずーっとこの趣味を、もうかれこれ40年近くやっていると、色々たまってくるんですよね。で、それを出したくなるんです。ただ、自分はこういうことを知ってるよ！っていうのを出すんじゃなくてね。

実は、こういう趣味をやって行くっていうのは、人にはとても言えないことですけれども…頭の中で無数の空中戦をやり、無数の海戦をやっているんです。だから僕はシミュレーションゲームをやる気が全然起こらないんですね。ゲームなら、もう頭の中で死ぬほどいっぱいやっているから…死ぬほどっていうのはオーバーで、全然死なないけど（笑）。 **だから、いったいどれほどの数の航空母艦や、どれほどの航空戦隊や、どれほどの数の飛行機や、どれほどの数のその飛行機のための工場なんかを、色々と頭の中で練り上げたかわからないんです。**

そういうことを、ああだこうだとやっているうちに…なにもそれは第2次大戦の飛行機とか、戦車に限らず…いろんなことをやっているうちに、何と変な物があるんだろう！とか、何と不思議なんだろう！っていうような妄想のカタマリを、まァ“妄想ノート”っていうんじゃつまらないから、色々な雑学の集まりとして描きたくなって描いたのが、“雑想ノート”というわけなんです。

ホントは、いつもこれだけをやっていられると楽しいんですけれど、
これはまったくの趣味ですからね（笑）。
ようするに、自然保護の問題をどうのこうのとか、
少女の自立がどうのこうのとかね、そういうのは一切ヌキ！ もう、とにかく!!

宮崎 駿
miyazaki hayao

目次

contents

Daydream note

Hayao Miyazaki's Daydream note

第1章

Hayao Miyazaki's Daydream note

第1話

知られざる巨人の末弟

ヨーロッパの小国、ボストニア王国の、

若き国王ペトルⅢ世。

飛行機を愛する彼が夢見た空中艦隊は、

やがて押し寄せる第2次世界大戦の

荒波にかき消されて行ってしまう…。

巨人機が物語る、

歴史から消え去った小国の悲劇。

初出：月刊モデルグラフィックス1984年11月号
（連載第1回、執筆・1984年9月）

雑想ノート 連載第11回

ボストニア王国空軍史より

知られざる巨人の末弟

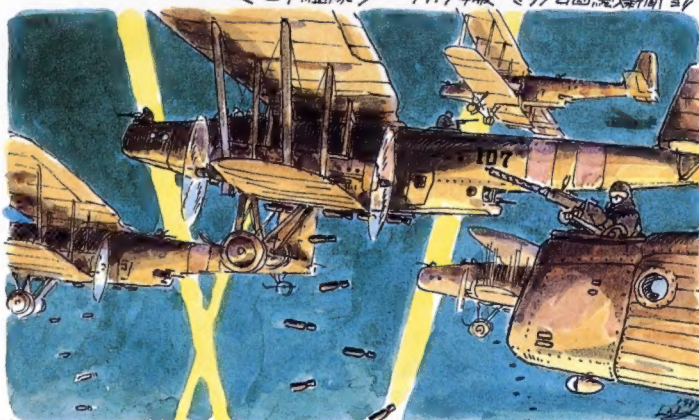
ユンカース G-38

＜三ッ首の鷲＞
ボストニア王国王家
ヘルツゲヴォイ家の紋章
ボストニア空軍の正式
マークである

ヨーロッパの歴史地図をひもとくと聞いた事もない小国の名前にぶつかる。ボストニア王国は第一次大戦の后、ヴェルサイユ条約で旧オーストリー・ハンガリー帝国から分離独立を認められ(1918年)1932年にはオーストリーに併合、つづいてドイツ第三帝国に飲み込まれて消えてしまった短命の国家であった。ボストニアの空軍について現在入手出来る資料は皆無といってよい。ただわずかに大英帝国図書館に残るボストニア王室公報によって この国が財政事情に不釣合なユニークな空軍の創建をめざしていた事がうかがえる。その空軍は若い国王の狂気と道楽から生れたのである。

飛行王子として国民に親しまれ、兄皇太子の暗殺による突然の死で即位したペトルⅢ世は単純で子供っぽい飛行機きちがいの青年だった。ご婦人達に関心を持たず 政治にも冷ややかな王がひたすら夢見たのは 空中艦隊だったのである。

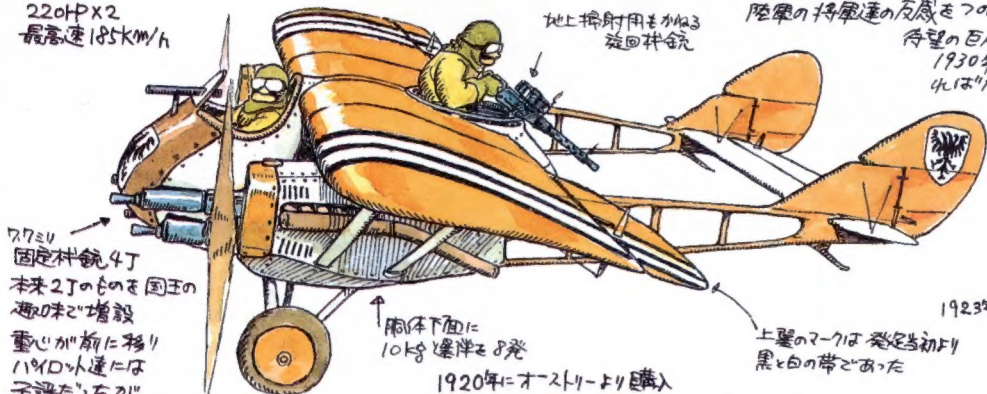
ボストニア王 ペトルⅢ世
(在位1919〜1931)

＜空中艦隊＞ 1919年版 ミラノ公国絵入新聞より

空中艦隊とは 第一次大戦の経験から生れた戦略空軍思想である。開戦となるや 重武装の巨人機の群が 長駆 敵国の心臓部をおそい 群がる敵機をけちらし、爆弾と焼夷弾の雨を降らして 一挙に勝敗を決しようというものである。実際には B-29の大群といえども 一挙にとはいかなかったのだが この頃 無敵の空中艦隊の想像図に 多くの少年達が胸をおどらせたのであった。

最初の制式機
クジネフスキー R17
重地上襲撃機
220HP×2
最高速185km/h

地上掃射用もかねる
旋回機銃

自国に航空産業を持たない小国で 軍事費の多くを空軍に注ぎこみ 国王は陸軍の将軍達の反感をつのらせていたが 待望の巨人機の入手は1930年まで待たなければならなかった。

尾部マーク
あまりにも
識別が困難
なために改変

7.7ミリ
固定機銃4丁
本来2丁のものを国王の趣味で増設
重心が前に移り パイロット達には不評だったが 写真うつりは強そうで ペトルは気に入っていた

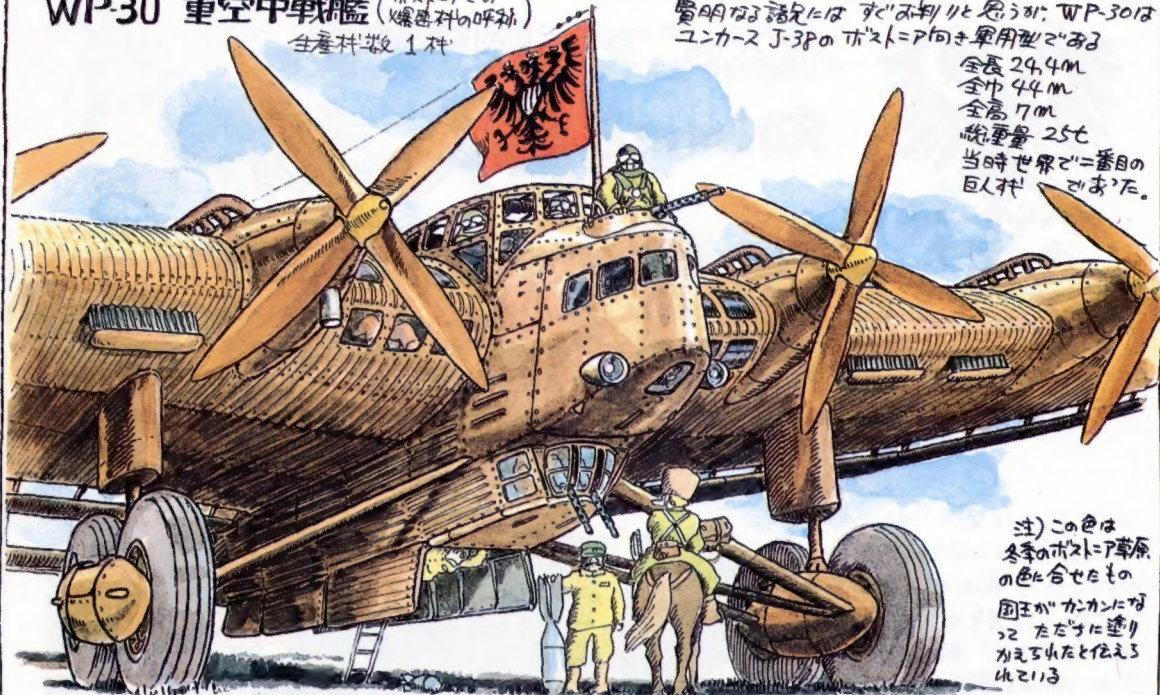
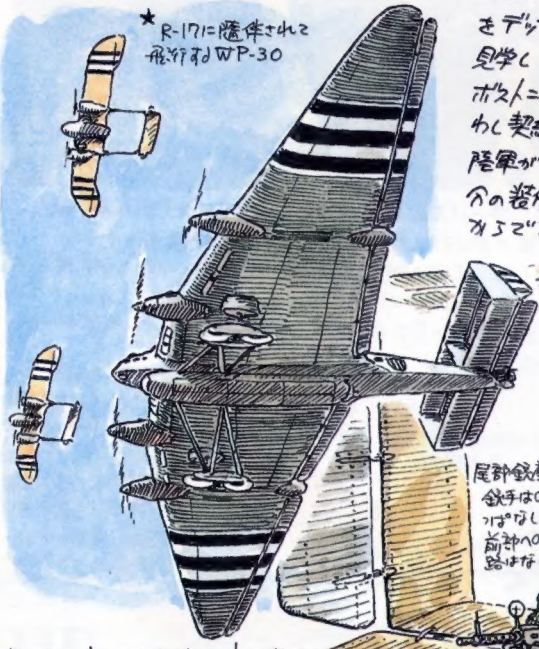
胴体下面に
10kg爆弾を8発

1920年にオーストリーより購入
合計12機で一飛行団を編成し 30年代まで使用した

上翼のマークは 発足当初より
黒と白の帯であった

1923年に
白地に黒い三本線に変った。三本の線は王国を形成する三つの地方を表わす。

★ボストニア空軍は この他にも奇妙な機体を数種保有していたが その紹介は別の機会にするとして、ここでは国王陛下の巨人機についてのみ述べることとする。

WP-30 重空中戦艦（ボストニアでの爆撃機の呼称）
生産機数 1機
賢明なる諸兄には すぐお判りと思うが WP-30は
ユンカース J-38の ボストニア向き軍用型である
全長 24.4m
全巾 44m
全高 7m
総重量 25t
当時世界で二番目の
巨人機 であった。
注）この色は
冬季のボストニア草原
の色に合せたもの
国王がカンカンにな
って ただちに塗り
かえられたと伝えら
れている
誕生まで）
1928年 かねてより その天才に傾倒していた ヒューゴー・ユンカース教授
をデッサウに訪問した国王ペトルは 組立中のJ-38 4発旅客機を
見学し 興奮 ただちに空中艦隊の旗艦として購入を決意したが…
ボストニア王国の国庫は カラッポ同然で 財政当局の猛反対に出く
わし契約は難渋した。その間に 東洋のかたすみから やって来た 日本
陸軍が製造権を獲得（92式重爆である）。ようやく 陸軍一個連隊
分の装備とひきかえにして 購入契約が成立したのは 1929年になって
からであった（ひきわたしは 1930年である）
★R-17に随伴されて
飛行するWP-30
←ユンカース特有の
波板構造
やたらに描きにくいので
まいるのである
この塗装が制式
カモフラージュである
尾部銃座
銃手はのり
っぱなしで
前部への通
路はない
クソッ！
デッサウにとってかえしたペトルは
ユンカース工場に三ヶ月間かよいつめ
細々と自分の理想とする空中戦艦の
実現のために注文を出して、技師達
を辟易させた。しかし直感に支えられた
いくつかの提案には先見性がみられ
彼がただの我儘なオーナーではなか
った事を示している。フィリッピンの コレヒドール要塞に
1t爆弾を降らせる為に開発された92式重爆とは目的が
ちがうにしても WP-30の方が空力的にすぐれた点も多いのである
92式重爆にはなかった
尾部銃座も 国王がユンカースの
技師達と大論争のすえ追加された。
箱型の尾部は 後方射界の巨大な邪魔もの
だったが、中央方向舵の下端を削り、空力
的な損失にもかかわらず 総合において克服したといえる

空中戦艦たるもの 難攻不落であらねばならない。かくて
出来あがった機体は　いたる所に銃座をもち（なんと9ヶ所）
翼内のチョーチン型ガソリンタンクは ゴムでおおわれ 空気抵抗
の多い むき出しの爆弾架をやめて ゴンドラをくっつけ 戦斗時
に飛行性能を低下させる垂下銃塔(その頃流行だった)をなくし
正規でも100kg爆弾を18発に12名の乗員、時にはプラス国王
1名を つめこんだのだから 重くなったのは無理もない
空力的に洗練させても馬力不足はおおいがたく
おまけに あまりに高価な機体に パイロットの
ヒザがふるえる始末だから 飛び方は 荘重
そのものだった。

最高速度 約200km/h
武装 20ミリMG×1
7.7ミリMG×8
(他に予備2)

児童分（6機製作）
92式重爆
翼下面の垂下銃塔（おちずと飛行性能ガタオチ）
爆弾架むき出し

末弟
WP-30
機首の形状は原型をとどめている
側方銃座アリ
尾部銃座
腹部にゴンドラ式爆弾倉
前後に銃座アリ

★両機を比較しても WP-30の方がはるかに
強力な武装であることが判る

翼面銃座
航法机
前方射手&爆撃手
無線器
風よけ
20ミリ機銃
はって行ける
予備銃
蛇腹式フード
パラシュート
着陸灯
爆撃照準窓
これはあやまり
WCはあるが風呂はない
エンジンルーム
ゴム被覆燃料タンク
延長軸
機関席
翼内通路
コモI水冷12気筒エンジン　(飛行中に点検可能)
紙面がなくて ゴンドラの素晴らしい前下方銃座を紹介出来ないのは残念

1930年の冬季大演習の際 WP-30は 初めて全弾装備で姿をあらわした。しかし 離陸はしたものの 30m以上の高度がとれず 爆弾投下は勿論出来ぬまま 地上スレスレを はいまわりつづけ ガソリンを使い果した後、ソッと草原に着陸したのであった。とはいえ ボスニア陸軍の馬達は 頭上をのしかかるように とびまわる巨大な怪物に パニック状態となり その意味では 演習は空軍の大勝利となった。が実用化のためには より強力なエンジンが どうしても必要な事が判明したわけである。

◄ 国王の死 ►

1931年になって、ボストニア空軍の空中艦隊計画は突然終りを告げた。国王ペトル3世が飛行機事故で急死したのである。しくまれた事故死であったのは 当時でも公然の秘密であった。この後 ボストニアは 王位空白のまま 陸軍と親オーストリー共和派が 対立し政治的混迷をつづけ、ついに 旧宗主国オーストリーに併合されたのである 1932年 ボストニア王国空軍は短い歴史を終えたのであった

昭和11年版 国防文庫社刊「航空機の驚異」所載の写真より模写
『かっての陸の王者 騎兵も最新航空機の攻撃に算を乱して退却』とある。飛行中のWP-30の唯一の写真である

最後のフライト

その後 WP-30は 格納庫で埃をかぶったまま 永い間忘れられていたが、1938年3月 オーストリーがナチスドイツに併合される時 最後の飛行を行っている。ペトルの弟子であり熱烈な民族主義者の旧ボストニア空軍のパイロット達が 密かに WP-30を整備し ベルリンへ 民族自決とナチスの横暴を訴えるビラを撒きに とび立ったまま 行方不明になってしまったのであった。※

※ベルリン上空に WP-30が あらわれたとの記録はない。おそらく 慣れぬ夜間飛行か老朽化した機体が原因で 途なかばにして 人知れず墜落したのであろう。ユンカース教授もペトルも既になく、その一年後には 欧州は第二次大戦に突入しようとしていた。私は 祖国をすてた WP-30が 永世中立の スエーデン目指して 灰色のバルト海を 朝陽をうけつつ飛ぶ姿を想像するのが好きだ。

1984.9.7

第2話

甲鉄の意気地

時に1862年3月、

南北戦争の真っ最中のアメリカ合衆国、

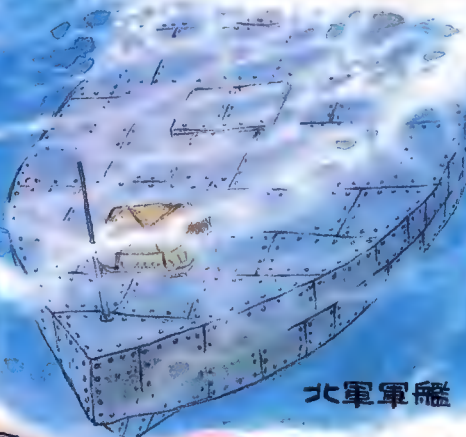
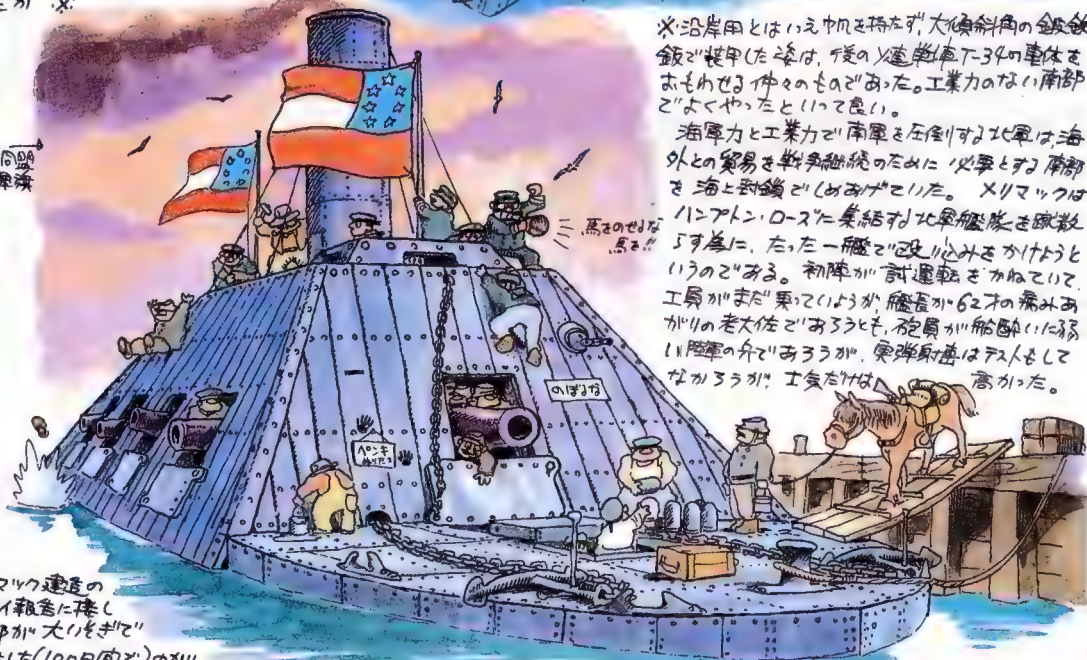
ハンプトンローズで2隻の

奇妙な軍艦がぶつかりあった！

北軍軍艦モニターと南軍軍艦メリマック、

世界初の装甲艦による海戦の勝敗は…!?

初出：月刊モデルグラフィックス1984年12月号
（連載第2回、執筆・1984年11月）

雑想ノート
連載第2回
甲鉄の意気地
当時の北軍(合州国)の海軍旗 星35ヶ
1862年3月7日　アメリカ合州国 メリーランド沖を
荒天にもみくちゃにされつつ 一隻の奇妙な鉄の艦が
ヨタヨタと南下していた。潜水艦ではない。世界初の装甲
砲塔艦「モニター」である。乾舷のほとんどない同艦の
通気口からは、もろに波がうち込み 乗員はヘトヘトに
なりながら バケツリレーをつづけていた。
目指すは ハンプトン・ローズ 時あたかも南北戦争の真最中のことである。
★右の絵には 煙突と砲塔背後の通気筒が描かれている。このような資料は何処にもない。しかし私は 外洋を航行する時に 戦闘時には取りはずす煙突と通気筒を つけたものと想像している。そうでなきゃ沈んじまうもの
同じ日、ハンプトン・ローズに近いバージニア州 ノーフォークの港で もう一隻の鉄の艦が 翌朝の出撃を目指して 準備に忙殺されていた。装甲砲郭艦「メリマック」である。装甲艦そのものは1854年にクリミア戦争に現われていたから こいつは 世界初とはいえなかったが ※
北軍軍艦 モニター
排水量987t
乗員 50名
※沿岸用とはいえ帆を持たず、大傾斜角の鍛鉄鈑で装甲した姿は、後のソ連戦車T-34の車体をおもわせる仲々のものであった。工業力のない南部でよくやったといって良い。
海軍力と工業力で南軍を圧倒する北軍は、海外との貿易を戦争継続のために必要とする南部を 海上封鎖でしめあげていた。メリマックは ハンプトン・ローズに集結する北軍艦隊を蹴散らす為に、たった一艦で殴り込みをかけようというのである。初陣が試運転をかねていて 工員がまだ乗っていようが、艦長が62才の病みあがりの老大佐であろうとも、砲員が船酔いにふるい陸軍の兵であろうが、実弾射撃はテストもしてなかろうが、士気だけは高かった。
南部同盟の海軍旗
馬をのせるな 馬を!!
のぼるな
ペンキぬりたて
メリマック建造のスパイ報告に接し北部が大いそぎで建造した(100日間で)のがモニターであった。
南軍軍艦 メリマック(本名ヴァージニア)
排水量約4000t
乗員 350名

メリマックの要目
ノーフォーク沖で沈んだ北軍フリゲートをひきあげ その上部をとり払って造った
全長84m 幅12m 速力は9ノットとも5ノット(9km/h)ともいう。舵の効きが悪く回頭がむずかしかった。
操舵室
厚さ50cm松
厚さ約10cm(4吋)の鉄鈑
10cm厚オーク材
砲郭
ブルックライフル砲(先込め)
砲装
17.8cm ライフル砲 2門
15 cm ライフル砲 2門
23cm 滑腔砲 6門
小砲 2
回転式砲架(チェーンによる)
石炭
ブルックライフル砲弾
無炸薬実体弾
炸薬
榴弾
信管
信管とりつけ
信管はシェンクル撃発信管である。
砲弾のこの部分がガスで拡張してライフルにくいつくのである。滑腔砲は球形弾を使っている。
メリマックの砲力はたいしたものではない。その不足をカバーするために艦首にするどい鉄製の衝角(ラム)がつけられていた。装甲で身を守りつつ、敵艦に近づき横腹に風穴をあけようというのである。かくて3月8日メリマックはハンプトン・ローズの北軍艦隊めざして進みはじめた。敵は蒸気フリゲート2、帆走フリゲート2、スループ1 砲 23cm以上200門、兵員2200名。おまけに陸上砲台にまもられた大兵力である。この時 モニターはまだ外洋にいた。
左下へつづく
ドデッ
ドカー
コーン
ドーン
ギーン
ガーン
ゴーン
デーン
ゴーン
ドカッ
ズドーン
ドバッ
右上より
モニター
こめ矢(ランマー)は砲門から尻尾を出して操作した(はずである)
乾舷をなくす事で艦側装甲を省略した。水線下の防禦は分厚い木材にはった1.27cmの鉄鈑で充分だった。甲板は25ミリの鉄板。艦砲がたいした迎角をとらず大落角弾など なかった時代なので 命中弾はみな滑って海の中に消えてしまったという。
砲弾の雨の中をメリマックは這うように進んだ。ソフトスキンの煙突は穴だらけになったが 装甲鈑は立派に役目を果し、北軍の25cm、23cmのダールグレン砲の弾丸をことごとくはねかえし、ついにメリマックの衝角は北軍スループ カンバーランド(24門艦)の横腹にとどいたのであった。カンバーランドは沈没した。南部の喜びやおもうべし、老水兵がバンザイ大爆発になった位である。
ズズーン
3月8日の海戦はたそがれまでつづき暗闇と共に メリマックはノーフォークへとひきあげた。いれかわりに モニターはようやくハンプトンローズに到着した。
バケツリレーでヘトヘトになった乗員と共に とにかく間にあったのだ。
★球形実体弾(単なる鉄の球)
★球形榴弾
★シェンクル榴弾 もっとも一般的なライフル砲弾である
この部分が拡張してライフルにくいこむ
ダールグレン砲
アメリカの砲術家ダールグレンにより改良された先込め砲 南北戦争で両軍に広く使用された 滑腔砲とライフル砲の二種アリ
ラッキョのような砲身の形状は火薬ガス圧の分布を調べて決定された
モニターは個人による発明品である。南軍の装甲艦対策に窮した北部政府は装甲艦の設計を公募した。スウェーデン人技師エリクソンは、自分のアイデアが斬新すぎるのをよく心得ていたので、海軍当局へは図面を提出せず、政府中枢に直接送りつけた。それでもスンナリ決ったわけではない。たった100日間で造るという彼の言で 政府はようやく採用を決定したのであった。メリマックは既に5ヶ月前から工事を開始していた。水はすでにあけられていた。
エリクソンは 技術の○のように働いた。すべての図面を自分でひき陣頭指揮で突貫、約束どおり100日間で建造してしまったのである。このモニターが その後の軍艦の形を決定してしまった。全周に射撃可能な蒸気駆動の砲塔、射界をさまたげるものは煙突までとり払う徹底した合理主義。そのかわり、動力による強制通風、ついでに艦内の換気も動力、同じく動力による揚弾装置。多くの発明がこのヴァイキングの子孫の頭から生まれ出たのであった。
初代エリクソン
(A.D 632〜678)
奇矯とヤッカミは 常に天才者を苦しめる。世間の風あたりは 彼にも相当あったようである。「モニター(警告者)」という艦名は彼自身の命名だそうという。「あんたら モタモタしとると ヒドイ目に会いますぜ。時代は変ったんだ」というエリクソンの皮肉である。
この照準器は まったく私の想像である。ダールグレン砲は尻がでかいので 小さな砲門からは照準出来ないと確信するね
▲となると砲塔上部より狙うしかない。旋回は上で指示して、俯仰は砲尾のネジでやるから、部分上から大声で号令したにちがいない(と思う)
10吋の鉄鈑を重ね厚さ約20cmの砲塔
装填の際は砲塔を回転させて 砲門から万一敵弾が飛び込むのをふせいだ。
各砲砲員8名 他に士官達さぞあつくるしかったはずである。
1862年3月9日は
モニターの初陣であると共に 世界ではじめて装甲艦同士の海戦が行われた日であった。
1吋厚(2.5cm)の鉄鈑
要目 全長52.5m 幅12.6m
速力 9ノット(16km/h)
砲塔直径 6.1m
高さ 2.73m
砲装 ダールグレン28cm滑腔砲2門。単なる90kgの鉄の球をぶっぱなすのである。
砲塔旋回用蒸気機関
注) 左右がゆがんでいるのはエリクソンの設計のせいではない。絵をかいた奴のせいである。
両艦は100m以内の至近距離に近づき猛然と撃ちまくった。しかし一弾も相手の装甲を貫ぬく事が出来なかった。勿論 弾片がスキ間からとび込んで負傷者は出た。メリマックの老艦長は前日の戦斗で傷つき退艦している。いくら撃っても無駄だと判ると、両艦とも自分の艦で相手の横腹をぶち抜こうと試みた。しかし硝煙はあたり一面にたちこめ 排煙筒はすっかり吹きとばされて煤煙が水上船内にたちこめ 相手すら良く見えなくなってしまった。おまけに鈍足で舵の効きも悪いとなると衝角もむずかしい。両艦とも浅瀬にのりあげたりの4時間の大さわぎのすえ ついにたそがれと共にひきわけになったのであった。
ドガーン
グワーン
ズン
ボカッ
スカッ
北部のブタめ
南部のブタめ
ドテーン
カーン
US NAVY
ジ〜〜〜!
この海戦に参加した両艦の兵員は、その後一週間耳なりがやまなかった。
アメリカ海軍には 新しい国にふさわしい伝統にとらわれぬ良さがあった。南北戦争にはそれが良くあらわれている。だが ミサイルの台に老朽戦艦をひっぱり出し、大艦巨砲のおどしが必要だと思うようになると 様子がちがって来る。世界一を誇るようになったかつてのスペインの無敵艦隊のように 国家も海軍も内部からくさり始める証拠であろう。レバノン沖に出動した老朽戦艦は 何の役にもたたず 笑いものになっただけであった。
1984.11.3

メリマックの要目
ノーフォーク沖で沈んだ北軍フリゲートをひきあげ その上部をとり払って造った 全長84m 幅12m 速力は9ノットとも5ノット(9km/h)ともいう。舵の効きが悪く回頭がむずかしかった。
操舵室
厚さ50cm松
厚さ約10cm(4インチ)の鉄鈑
10cm厚オーク材
砲郭
ブルックライフル砲(先込め)
砲装 17.8cm ライフル砲 2門
15 cm ライフル砲 2門
23cm 滑腔砲 6門
小砲 2
回転式砲架(チェーンによる)
石炭
ブルックライフル砲弾
無炸薬実体弾
炸薬
榴弾
信管
信管とりつけ
信管はシェンクル感発信管である。
弾尾のこの部分がガスで膨張してライフルにくいつくのである。滑腔砲は球形弾を使っている。
メリマックの砲力はたいしたものではない。その不足をカバーするために 艦首にするどい鉄製の衝角(ラム)がつけられていた。装甲で身を守りつつ、敵艦に近づき横腹に風穴をあけようというのである。かくて3月8日メリマックは ハンプトン・ローズの北軍艦隊めざして進みはじめた。敵は蒸気フリゲート2、帆走フリゲート2、スループ1 砲23cm以上200門、兵員2200名、おまけに陸上砲台にまもられた大兵力である。この時 モニターはまだ外洋にいた。
左下へつづく
ドテッ
ドカー
ドーン
ギーン
コーン
ガーン
ゴーン
デーン
ゴーン
ドカッ
ズドーン
モニター
乾舷をなくす事で 舷側装甲を省略した。水線下の防禦は分厚い木材にはった1.27cmの鉄鈑で充分だった。甲板は25ミリの鉄板。艦砲がたいした仰角をとらず 大落角弾などなかった時代なので 命中弾はみな滑って海の中に消えてしまったという。
こめ矢(ランマー)は砲門から尻尾を出して操作した(はずである)
右上より
砲弾の雨の中をメリマックは這うように進んだ。ソフトスキンの煙突は穴だらけになったが 装甲鈑は立派に役目を果し、北軍の25cm、23cmのダールグレン砲の弾丸をことごとくはねかえし、ついにメリマックの衝角は北軍スループ カンバーランド(24門艦)の横腹にとどいたのであった。カンバーランドは沈没した。南部の喜びやおもうべし、老大佐がいっぺんに大将になった位である。
ズズーン
3月8日の海戦はたそがれまでつづき暗闇と共に メリマックはノーフォークへとひきあげた。いれかわりに モニターはようやく ハンプトンローズに到着した。
バケツリレーでヘトヘトになった乗員と共に とにかく間にあったのだ。
★球形実体弾(単なた鉄の球)
★球形榴弾
★シェンクル榴弾 もっとも一般的なライフル砲弾である
この部分が膨張してライフルにくいこむ
ダールグレン砲
アメリカの砲術家 ダールグレンにより改良された先込め砲 南北戦争で両軍に広く使用された 滑腔砲とライフル砲の二種アリ
ラッキョのような砲身の形状は 火薬ガス圧の分布を調べて決定された

モニターは伯人による発明品である。南軍の装甲艦対策に窮した北部政府は装甲艦の設計を公募した。
スウェーデン人技師エリクソンは、自分のアイデアが斬新すぎるのをよく心得ていたので、海軍当局へは図面を提出せず、政府中枢に直接送りつけた。それでもスンナリ決ったわけではない。たった100日間で造るという彼の言で政府はようやく採用を決定したのであった。メリマックは既に5ヶ月前から工事を開始していた。水はすっかりあけられていた。

エリクソンは狂気のように働いた。すべての図面を自分でひき陣頭指揮で突貫。約束どおり100日間で建造してしまったのである。このモニターがその後の軍艦の形を決定してしまった。全周に射撃可能な蒸気駆動の砲塔、敵弾をさえぎるものは煙突までとり払う徹底した合理主義。そのかわり、動力による強制通風、ついでに船内の換気も動力、同じく動力による揚弾装置etc. 多くの発明が、このライキングの子孫の頭から生れ出たのであった。

初代エリクソン
(A.D 632〜678)?

冷笑とヤッカミは常に先駆者を苦しめる。世間の風あたりは彼にも相当あったようである。「モニター(警告者)」という船名は彼自身の命名だという。「あんたらモタモタしとるとヒドイ目に会いまっせ。時代は変ったんだ」というエリクソンの皮肉である。

この照準器はまったく私の想像である。ダールグレン砲は尻がでかいので小さな砲門からは照準出来ないと確信する▲

▲となると砲塔上部より狙うしかない。旋回は上でやるとして、俯仰は砲尾のネジでやるから、多分上から大声で号令したにちがいない(と思う)

10吋の鉄鈑8枚重ね厚さ約20cmの砲塔

装填の際は砲塔を回転させて砲門からちがー敵弾がとび込むのをふせいだ。

各砲砲員8名 他に士官達など。あつくるしかったはずである。

1吋厚(2.5cm)の鉄鈑

砲塔旋回用蒸気機関

注) 左右がゆがんでいるのはエリクソンの設計のせいではない。絵をかいた奴のせいである。

1862年3月9日は

モニターの初陣であると共に、世界ではじめて装甲艦同士の海戦が行われた日であった。

要目 全長52.5m 幅12.6m
速力 9ノット(16km/h)
砲塔直径 6.1m
高さ 2.73m

砲装 ダールグレン28cm滑腔砲2門。要するに90kgの鉄の球をぶっぱなすのである。

ドガーン
ズー
グワーン
ガツッ
ボカッ
スガッ
北部のブタめ
南部のブタめ!!
ドデーン
カーン

両艦は100m以内の至近距離に近づき猛然と撃ちまくった。しかし一弾も相手の装甲を貫く事が出来なかった。勿論弾片がスキ間からとび込んで負傷者は出た。メリニックの老艦長は前日の戦斗で傷つき退艦している。いくら撃っても無駄だと判ると、両艦とも自分の舳で相手の横腹をぶち抜こうと試みた。しかし硝煙はあたり一面にただよい、排煙筒はすっかり吹きとばされて煤煙が水上船内にたちこめ相手すら良く見えなくなっちまった。おまけに鈍足で舵の利きも悪いとなると衝角もむずかしい。両艦とも浅瀬にのりあげたりの4時間の大さわぎのすえ、ついに夕ぐれと共にひきわけになったのであった。

この海戦に参加した両艦の兵員は、その後一週間耳なりがやまなかった。

アメリカ海軍には新しい国にふさわしい伝統にとらわれぬ良さがあった。南北戦争にはそれが良くあらわれている。だがミサイルの台に老朽戦艦をひっぱり出し、大艦巨砲のおどし外交が有効だと思うようになると様子がちがって来る。世界一を誇るように(なったかつての)スペインの無敵艦隊のように国家も海軍も内部からくさり始める証拠であろう。レバノン沖に出動した老朽戦艦は何の役にもたたず、笑いものになっただけであった。 1984.11.3

第3話

多砲塔の出番

堅陣突破こそ男の花道!?とばかりに、

夢の多砲塔戦車「悪役一号」は

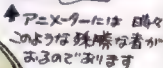
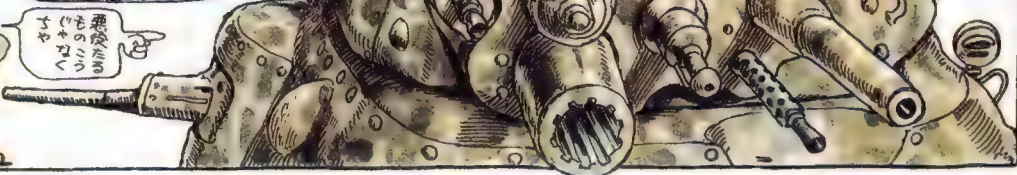
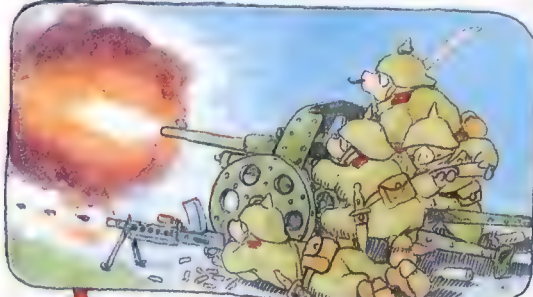
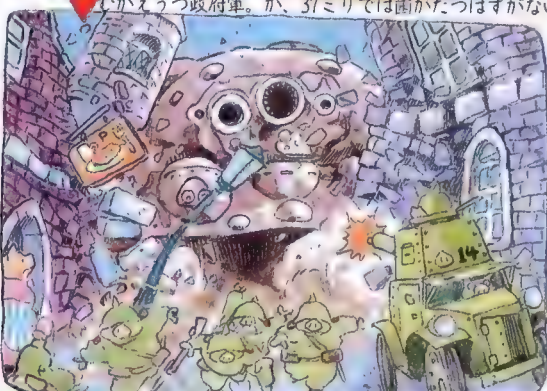
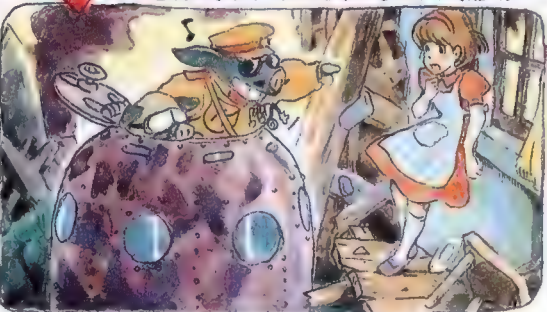
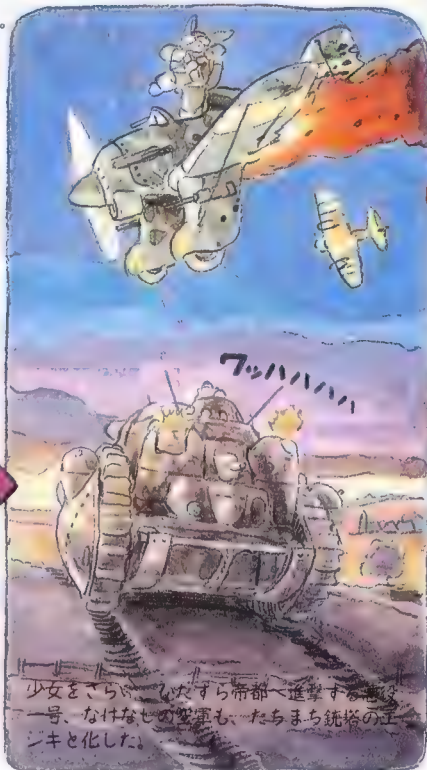
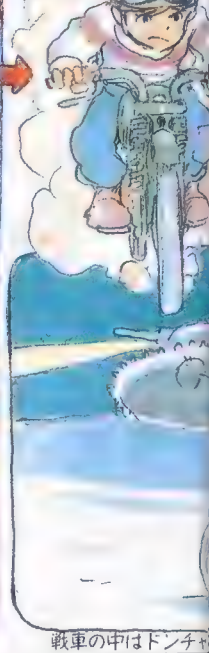
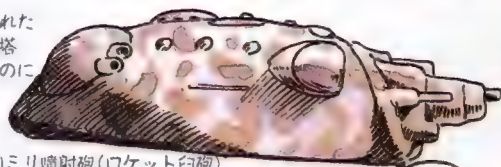
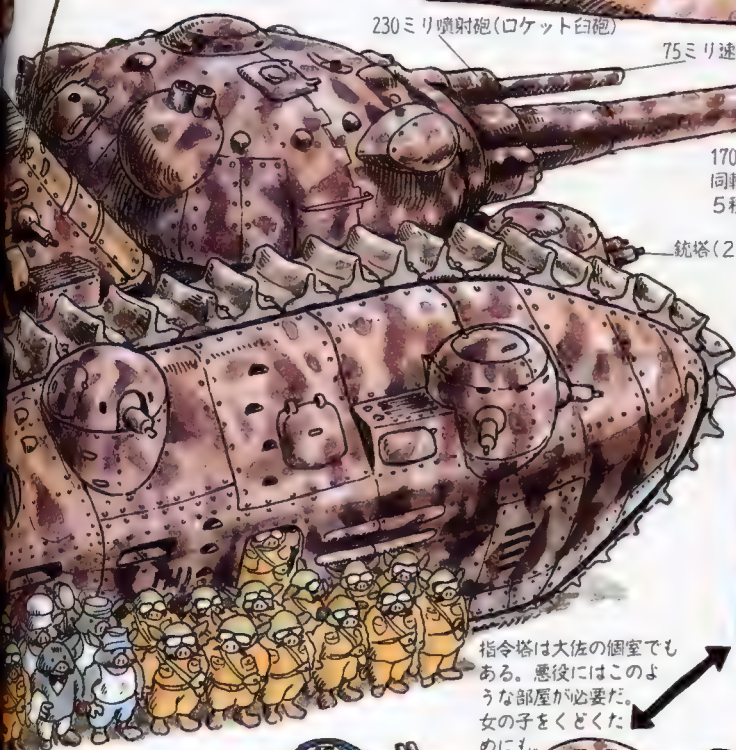
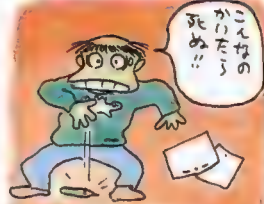
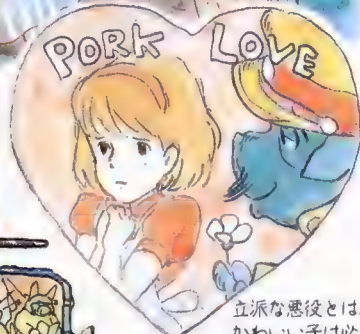
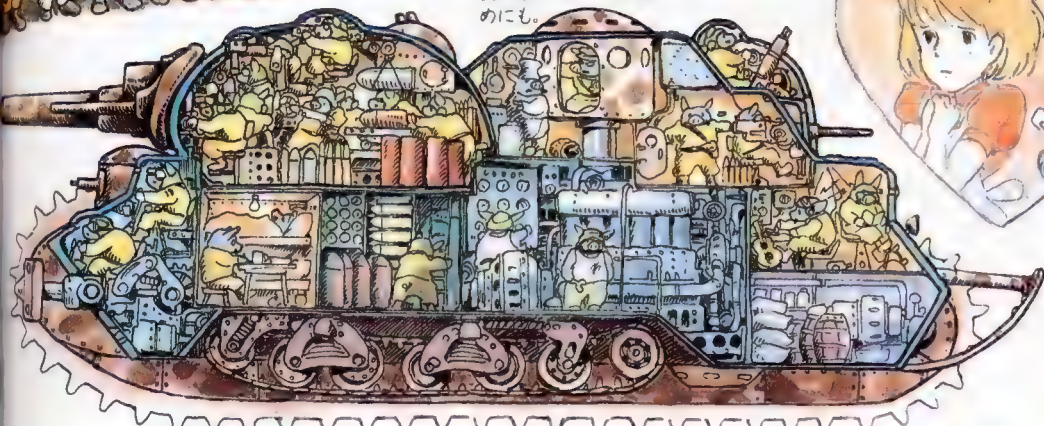
悪役大佐の指揮のもとに反乱を起こし、

一路帝都へ進撃開始！

悪役大佐が町でさらった少女への恋は、

豚と人間との壁を越えて成就されるのか!?

初出：月刊モデルグラフィックス1985年1月号
（連載第3回、執筆・1984年12月）

雑想ノート
連載第3回
VSB-2 ボストニア王国陸軍超重戦車 (1932年試作)
全備重量 76t 最大速力 12km/h
装甲最大60ミリ 兵装
150ミリ榴弾砲×1
50ミリ歩兵砲×3
37ミリ速射砲×1
7.7ミリMG ×6
兵員 14名
生産台数
1輌
多砲塔の出番
50年も昔の少年雑誌には、よく左のような絵がのっていたものである。その名も多砲塔重戦車。鉄条網を踏みにじり、トーチカを粉砕し、いかなる堅陣をもたちまち突破する、無敵の鉄牛というわけだった。が、第2次大戦がはじまるや、活躍どころか、たちまち姿を消してしまったのが、この多砲塔なのだ。
職業柄、戦車を時々フィルムに登場させるのだが、どうも最近の戦車はスマートすぎる。戦車はだいたい悪役むきなのであって、悪役には多砲塔がぴったりだ。というわけで、いつか、せめてフィルムの中で活躍させたいとおもうようになった。
戦車かきたい!!
アニメーターには時々このような殊勝な者がおるのであります
どうも本物はもうひとつピンとこないのである
ソヴェト T-35
バルバロッサの初期に全滅
フランス 2C 戦車 独仏戦で輸送中に全滅
イギリス インデペンデント重戦車 使われずじまい
日本 92式重戦車
「のらくろ」によくにあう
悪役たるものこうじゃなくちゃ

かくして造られたのがこの夢の多砲塔戦車
「悪役1号」である
時あたかも1930年代中頃のこと
全備重量　200t
出力　1000HP×2
速力最大28km
（カタログ上）
兵装かずしれず
工兵塔
火焔放射器と
ダイナマイト砲標準装備
隠顕式指令塔
スルスルとのびれば
なんと地上高10m
の視野を楽しめる
のである。
ドーザープレートは
油圧で操作する。
この戦車の最大の特徴は腹部にもう一本の
キャタピラーを持つことである。これにより
戦車障害物を易々と乗りこえるのである!!
ものがたり
バークシャー連隊が悪役大佐にひきいられて反乱を
おこした。同連隊は戦車にのって帝都に進撃を開始。
後向き
操縦室
そのまま
帰れる
便利なもの。
後にドイツ軍が
重装甲車でまねた。
兵員は小柄な者をそろえている。
のちに、この思想はソ連軍にうけつがれた。
むかえうつ政府軍。が、37ミリでは歯がたつはずがない。
そこへ主人公登場!!
昔の主人公は、たいてい
このような少年だった。
昔はよかっ
たのだ!!!
14
みよ！悪役一号をくい止める事はもはや不可能だ。
ワッハハハハ
少女をさらい、ひたすら帝都へ進撃する悪役
一号、なけなしの空軍も、たちまち銃塔のエ
ジキと化した。
「みつけ!!戦利品第1号だ」「ワーイ、大佐イイナァ」
戦車の中はドンチャ

世紀の悪役
バークシャー連隊大佐
悪役一号の生みの親である
試作段階でつくられた
短砲身タイプの砲塔
すぐに長砲身のものに
かえられた
230ミリ噴射砲（ロケット臼砲）
75ミリ速射砲
170ミリ加農砲
同軸装備の各種機銃は
5種7丁をかぞえる
銃塔（2丁装備）
こんなのかいたら死ぬ!!
シンプル
ぼ ぼくのいう戦車って こういうのです…
フン! 今さら ジタバタしても おそいのである
大佐の好物はポークコロッケ
指令塔は大佐の個室でもある。悪役にはこのような部屋が必要だ。女の子をくどくためにも。
PORK LOVE
立派な悪役とは、かわいい子は必ず口説いてあげねばならない。結果はどうあれ。
そしてついに!!悪役一号と大佐の野望はついえた
説明ナシでこわすな!!
おわり
このようなマンガ映画を観たい方は、2億円ほど持参して下さい。1年ほど待って下されば、70分の総天然色マンガ映画を創ってさしあげます。（PR）
ここから先は
上の図を見つつ
演出が必死に
考えるのである
どうもぐ こみ
どうこわし
どう火をつけるかと…
さわぎの前祝中、今こそ乗り込むチャンス
1984. 12. 3.

第4話

農夫の眼

1930年代後半に起こったスペイン市民戦争で、

反ファシズムの闘士としてその身を投じた

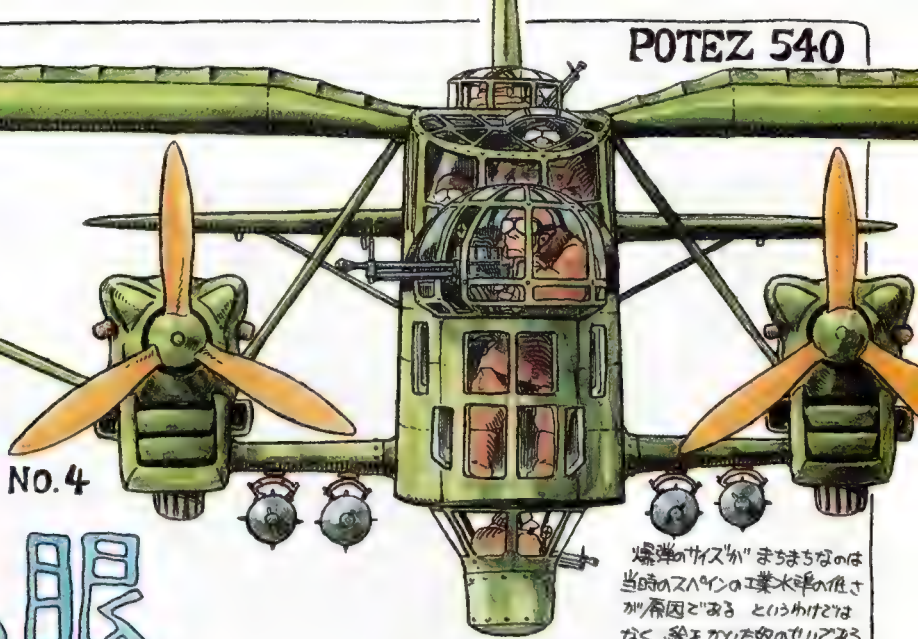
フランス人作家、アンドレ・マルロー。

彼の著作『希望』に登場する

エピソードに基づく、

フランス旧式機による決死の爆撃行！

初出：月刊モデルグラフィックス1985年2月号
（連載第4回、執筆・1985年1月）

雑想ノート　No.4
農夫の眼

爆弾のサイズがまちまちなのは当時のスペインの工業水準の低さが原因であるというわけではなく絵をかいた奴のせいである

96式陸攻とほとんど同じ時期に造られたフランスのポテーズ540は、産れた瞬間から旧式機という、みじめな爆撃機だった。木金混成の四角い胴体、支柱と張線だらけの羽布張りの高翼、空気抵抗を減らす努力をしたとは思えぬのに、武骨なエンジンカウリングに引き込まれる脚。設計者達が何を考えていたか判らん機体である。カタログ上はどうか知らないが、水平全速300km／時は絶対に無理だったはずだと思う。しかし、この飛行機に乗って自身の思想と信条のために戦った男達がいた。スペイン市民戦争（1936年～39年）に、人民戦線政府（共和派）の国際義勇航空隊に身を投じてファシズムと戦った男達（フランス人、イタリー人、アメリカ、ドイツ、アラビアその他の国々から集まった人々）である。各国労働者のカンパに支えられて購入されたポテーズ540で、彼等は、独伊が送り込んだ正規空軍（名前だけは義勇軍）を相手にスペイン上空へ出撃していった。

ポテーズ540
全長16m
全幅22m
最大速力310km／時
航続距離1200km
7.7ミリ機銃×3
爆弾200kg×4
又は 50kg×10

このノートは、アンドレ・マルローの小説「希望」をもとにしている。「征服者」「人間の条件」等の著者として知られるマルローは、国際義勇航空部隊の創建にたずさわり、自身もポテーズでの爆撃行に参加したのである。

赤色の帯のみというマーキングが共和政府軍の正式のものとはおもえない。が少くともこのエピソードがあった時期には、国際義勇空軍のポテーズは、このようにマーキングされていた。

尾翼に小さく描かれたこのマークは、ソ連を指すのではない。この時代は、共産主義運動が世界から戦争をなくすと信じられていた最後の時代だったのだ。そして、裏切りが明らかになった時代でもあった

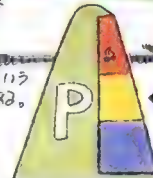
ポテーズ540

イスパノスイザ水冷12気筒 780HP

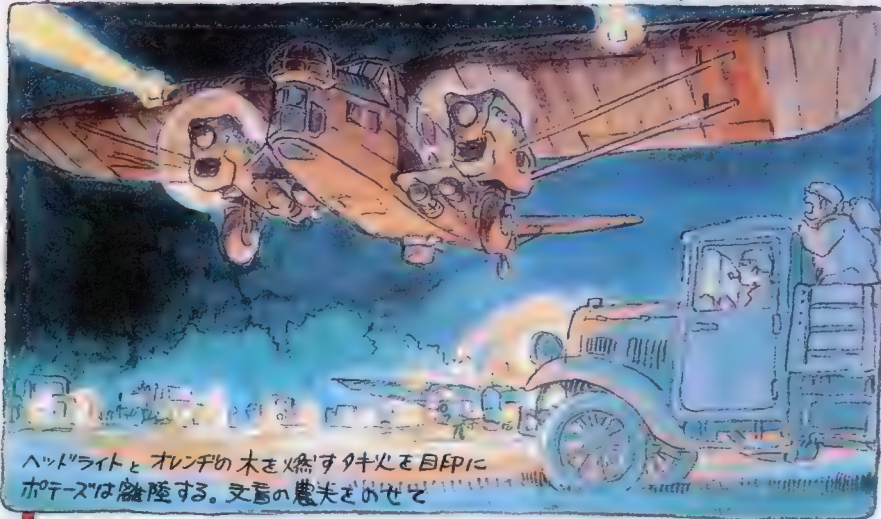
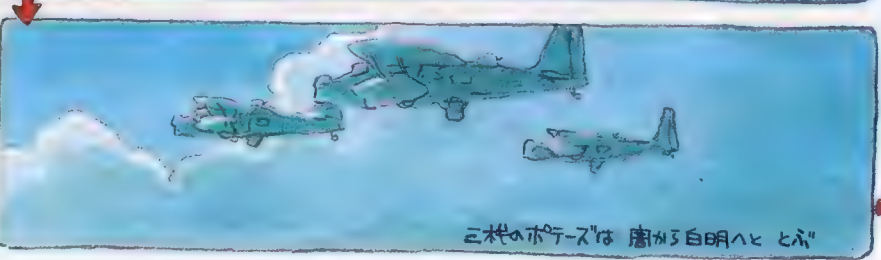
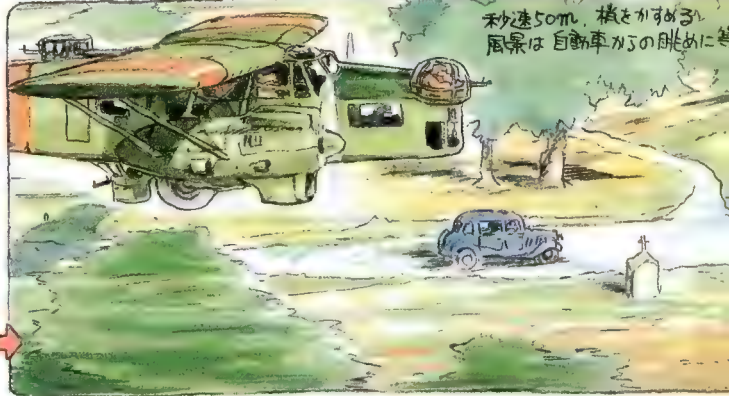
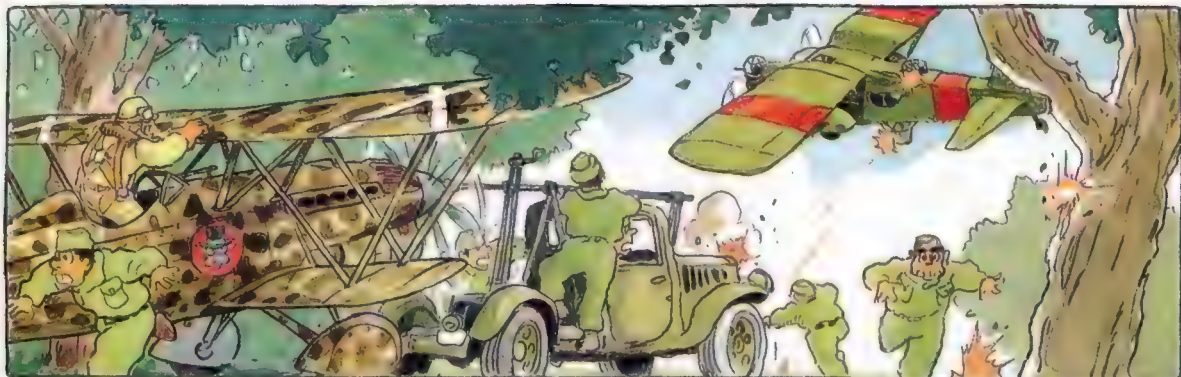
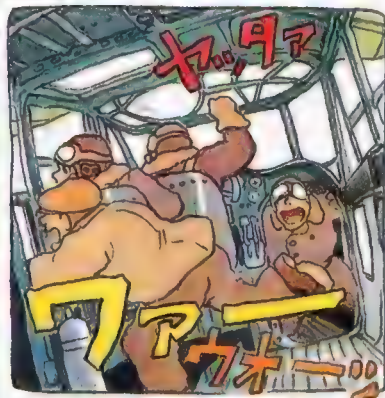
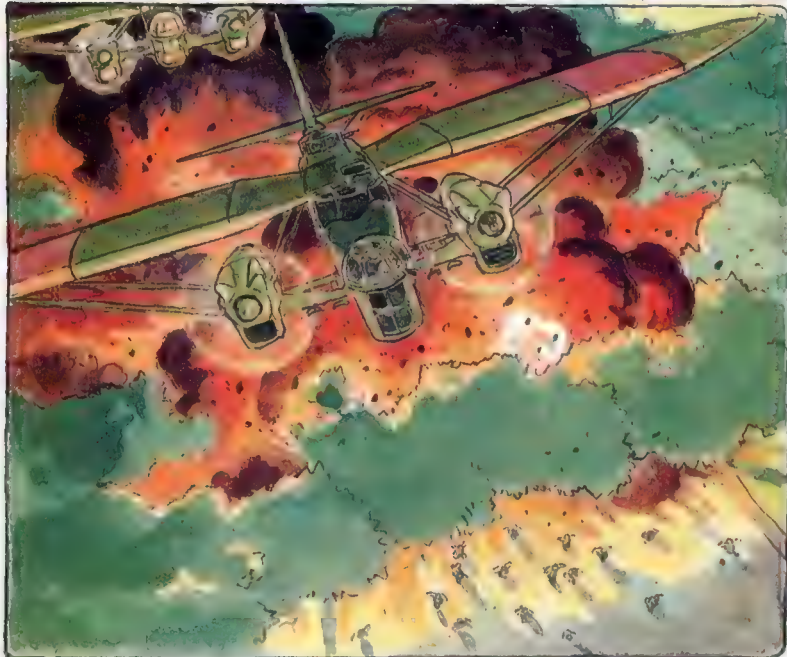
足かけ

半引込み式銃座

カモフラージュといっても翼下面までダークグリーン一色とは、これも又ナゾではある。
それにしても、こんなに描く甲斐のない機体も珍しい。
どのアングルから描いても まるで風邪をひいたワトソン → にしかならない。

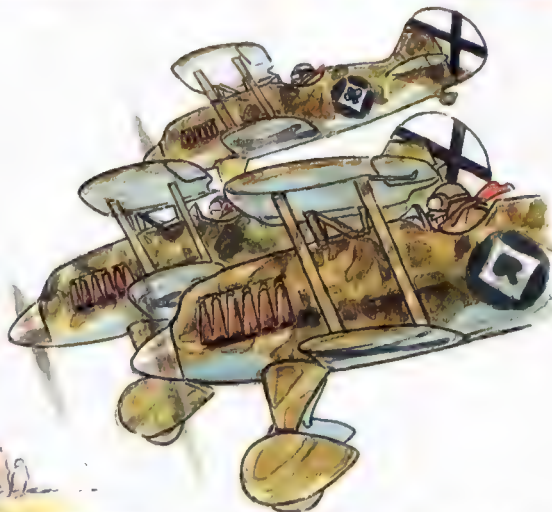
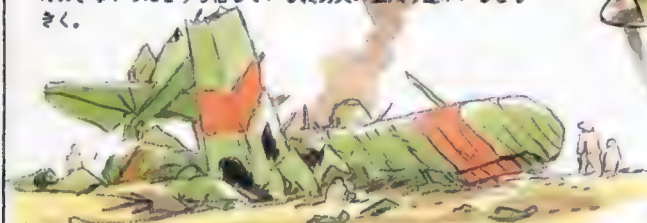
ジュラルミンのカウリングは無塗装という機体が多いが、ダークグリーンのもある。ぼくはこの方が好きだ。

P

← このマーキングがおそらく正式のものであるが、まちまちの時期もあったようだ

1937年(昭和12年)2月9日 スペイン地中海戦線
ひとりの農夫が義勇航空隊の基地にたどり着く。ファシスト軍に占領されたテルエル近郊の自分の村を脱け出し戦線をこえて通報に来たのである。やつらの秘密の飛行場があると…
ファシスト軍のハインケルHe-51 平凡な機体だったが、ポテーズには脅威だった。
小さいの六つ 大きいの 六つ以上いるだ
村の近くに散在する森のひとつにかくされているという。農夫は文盲だった。地図が読めない。いったいどの森なのだ…。農夫は飛行機に乗って道案内すると申し出た。指揮官は攻撃を決意する。
木がメリメリッと裂ける音…と被弾の様子をマルローが書いている木製の胴体
ファシスト軍の識別マーク。有名な独のコンドル部隊も同じである。
フィアットCR-32
攻撃は早朝の奇襲しかない。援護の戦闘機は望めないのだ。村々からトラックが集まって来る。
ヘッドライトとオレンヂの木を燃すタキ火を目印にポテーズは離陸する。文盲の農夫をのせて
三機のポテーズは闇から白明へととぶ
明るくなって来た 各銃手は銃座につく やがて朝陽がさす

正副操縦席は直列である
正規の乗員は5名となっているが7名位は乗っていたらしい。
ルイス旋回機銃
この豆鉄砲に射手達はウンザリしていた。せめてブローニングならと嘆いている。
銃口がのぞく穴にはガラスがない 鳥カゴ型銃塔
モチロン人力
射手達は手袋をきらい素手で射撃するのを好んだと書かれてある
マガジンラック
こんな処にガソリンタンクがあったかどうか これは推測である
しまった気化器の空気取入口を描き忘れた!!
腹部銃座は一番撃たれやすい銃座である。96陸攻でもB-17でも同じ事が報告されている。銃手が負傷すると無キズの者がすぐ交代して撃ち続けた。
クソッ!!俺たちゃズーッと後までこいつを使わせられたんだ!!
日本軍留式旋回銃（ルイス）
テルエル上空で、編隊は雲の下へ出た。
おやじさん 村だ!!
エッ エエ?!
ど どこ…!?
農夫はガク然となる
自分の村が判らない!! すみからすみまで知りつくした土地なのに
秒速50m、樹をかすめる風景は自動車からの眺めに
ポテーズは地上スレスレへと降下していく。農夫にみなれた眺望を与えるために… どの森だ!?
「もし人間が見ること、探すことのために死ぬことがあったら、この農夫は死んでいただろう」とマルローは書く。見開かれた眼から涙がこぼれほおをつたい、アゴはケイレンしている。時間がない、敵機にとび立つ間を与えてしまう
そして、ついに農夫は気がつく

あそこだ!! 森のかげに廻り始めたプロペラが見えた。ポテーズは 鉄量を加えつつ 上昇旋回に移る。爆撃に必要な4000mの高度を稼ぐために、そして全速力で森へとって返す。本当にギリギリだった。イタリア兵は離陸を断念する。

ファシストの秘密飛行場は壊滅した 農夫はうれしさと寒さで機関に足踏みをしている

帰途、ポテーズの編隊は、別の飛行場から飛び立ったHe51の7機に襲われた。ポテーズの二番機が撃墜され、アラビア人の国際義勇航空兵が死に、フランス人、ベルギー人、イタリア人が負傷している。負傷兵達は農民達の担架ににになわれ、基地に帰って来た。

ポテーズの編隊を指揮したマニヤンという名のフランス人が、マルロー本人だと伝えられている。おそらく、このエピソードは本当にあった事なのだろう。私は観ていないが、マルローの同名の映画「希望」には、実際にポテーズによる空襲のシーンがあるという。

1939年3月、スペイン内乱は人民戦線政府の敗北で終りを告げた。自信をつけたヒトラーは、同じ年に第二次大戦を開始する。スペイン内乱でナチスとファシストを破っていれば、戦争はおきなかったと今も信じている義勇兵の生残り達がいるともきく。

内乱終結時、人民戦線側の数十万の労働者・農民が虐殺された。その後1975年に独裁者フランコが死ぬまで、スペインにはファシスト政権が続くことになる。私は文盲の農夫がなんとか生き残り、天寿をまっとうしたと信じたい。

1985.1.7

第5話

竜の甲鉄

清国北洋艦隊が、

世界に誇る最新鋭甲鉄艦、定遠(ていえん)と鎮遠(ちんえん)。

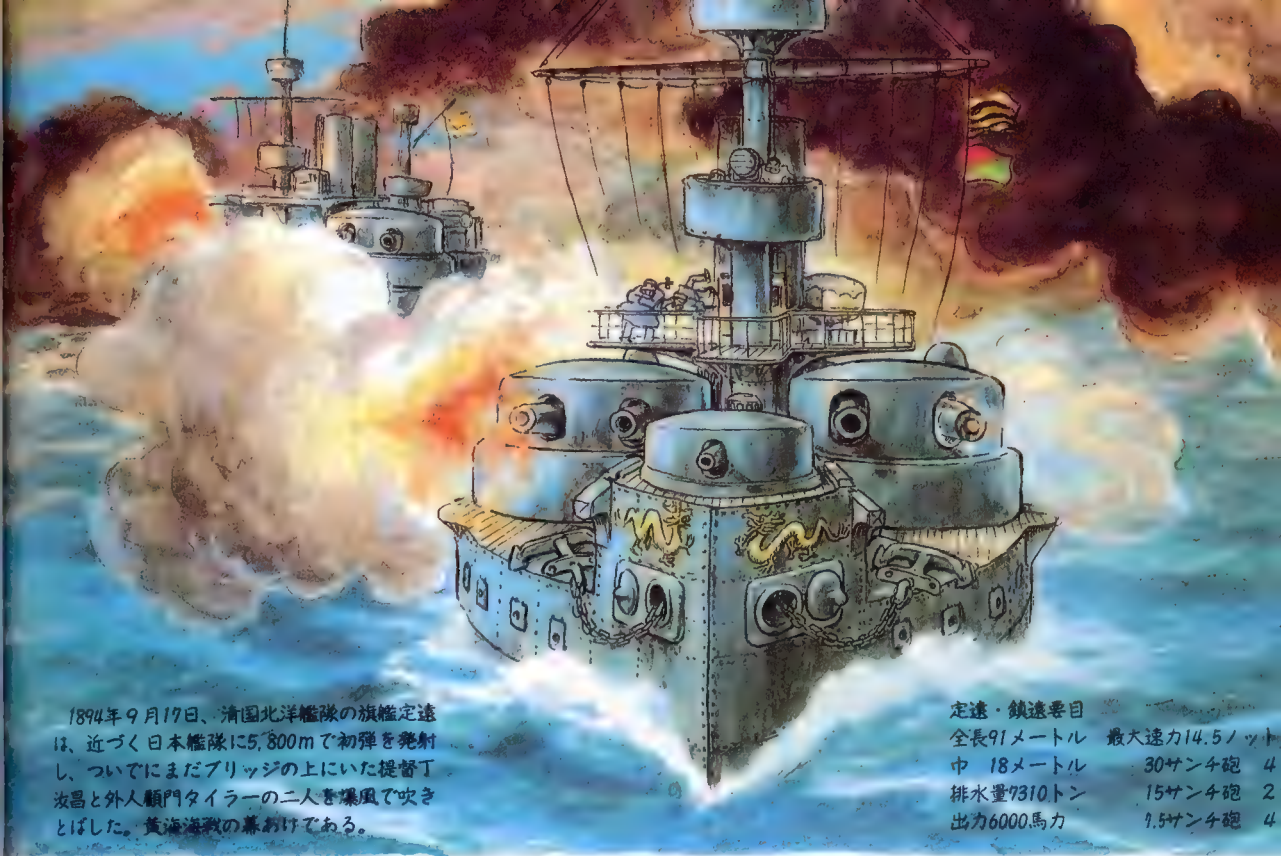
圧倒的な装甲防御と

大火力を持った両艦は、1894年9月、

黄海にて日本艦隊と激突！

日清両国の間で咆哮する

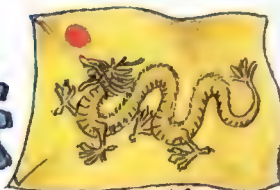
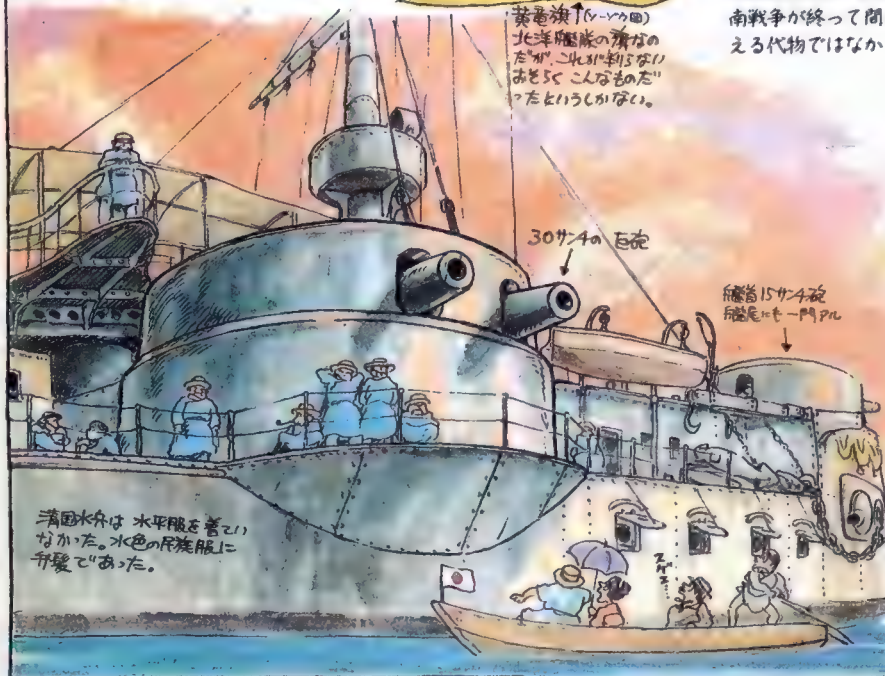
2頭の竜の運命はいかに…!?

初出：月刊モデルグラフィックス1985年3月号
（連載第5回、執筆・1985年2月）

1894年9月17日、清国北洋艦隊の旗艦定遠は、近づく日本艦隊に5,800mで初弾を発射し、ついでにまだブリッジの上にいた提督丁汝昌と外人顧門タイラーの二人を爆風で吹きとばした。黄海海戦の幕あけである。

定遠・鎮遠要目

全長91メートル	最大速力14.5ノット
巾　18メートル	30サンチ砲　4
排水量7310トン	15サンチ砲　2
出力6000馬力	7.5サンチ砲　4

雑想ノート5回

竜の甲鉄

1882年(明治15年)ドイツのフルカン造船所で、艦首に金の竜をつけた二隻の甲鉄艦が誕生した。清国が、北洋水師(艦隊)の主力艦として発注した定遠、鎮遠の姉妹艦である。黄竜は中国清王朝の紋章であった。当時、列強は1万トンクラスの主力艦建造を始めていたが、二流とはいえ、両艦とも7,000tをこえる堂々たる巨艦である。西南戦争が終って間もない日本なんかにとても買える代物ではなかった。

黄竜旗↑(ソーゾウ図)
北洋艦隊の旗なのだが、これが判らない
おそらくこんなものだったというしかない。

30サンチの巨砲

艦首15サンチ砲
艦尾にも一門アル

清国水兵は水平服を着ていなかった。水色の民族服に弁髪であった。

1891年(明治24年)、北洋艦隊は日本を訪問した。日本人は両艦の砲塔に茫然となった。厚さ30センチの装甲砲塔に、30サンチのクルップ砲を連装し、水圧でゴロゴロと自在に動くのである。日本艦隊は装甲砲塔など持っていなかった。おまけにすさまじい重装甲の船体である。舷側装甲356ミリ、主要部はシタデルと呼ばれる甲鉄の砦であった。不沈艦という言葉が、この頃既に使われている。折しも、日清両国間は風雲急をつげていた。

定遠の装甲
定遠型の砲塔の天蓋には
指揮塔がない。砲側の照準しかない時代なので
おそらくこの辺に照準窓があったと思う
305ミリ
装甲
クルップ20口径
30サンチ砲
砲が斜めのレールを
後退して発砲の反動
を吸収する。
76ミリ
装甲甲板
356ミリ舷側装甲
ボイラー室
石炭庫
このカゲに司令塔がある。装甲200ミリ
305ミリ
356ミリ
艦載水雷艇
この頃の主力艦はつんでいた
後部15サンチ副砲
装甲甲板76ミリ
356ミリ
シタデル CITADEL
前部防御甲板
後部防御甲板76ミリ
石炭庫
衝角
弾薬庫
ボイラー室
機関室(もちろん蒸気機関である)
シタデル
1866年リッサの海戦で劣勢のオーストリー艦隊がイタリア艦隊を体当り攻撃で破って以来つけられるようになった。実際にはその後使われたためしはなく、衝突事故の時に仲間を沈めるだけなので、やがて廃止されていく。
シタデルとは艦の主要部を中央に集め、分厚い装甲でおおった鉄の箱である。機関、ボイラー、弾薬庫、砲塔を集中防御する19世紀の末に流行した方式で、今日の常識からするとまことに奇妙なカッコウだが、全艦くまなく装甲すれば重くて沈んでしまうのだから、堅塁強固な最新式装甲だったのである。
砲塔を両舷に並列させて主砲4門の全火力を前方へ集中し、するどい衝角をかざして敵につき進んでいく艦として定遠と鎮遠は建造され、実際にも黄海海戦では「常に艦首を敵に向けよ」との命令に従って戦った。
防御甲板の効用
防御甲板
というわけである
この時代魚雷は実用化が始まったばかり。まだジャイロによる進路維持器がないので仲々まっすぐ走ってくれなかった。航走距離もたった300mである。
正式の海軍旗とちがいます(筋が足りない)
でっかいな
ワーイ
32サンチ38口径
カネー砲
これは砲塔ではない
露砲塔といい、シッポだけカバーでおおうのである
舷側装甲ナシ
防御甲板40ミリ
アームストロング12サンチ砲11門
この円筒の基部は300ミリの装甲アリ
海防艦 厳島 4335t 16ノット
定遠、鎮遠のシタデルを貫ぬく砲の開発を日本海軍は仏人ベルダンに依頼した。ズングリした20口径のクルップ砲より、はるかに長砲身のカネー式32サンチ砲がそれである。松島、橋立、厳島という観光案内みたいな名の海防艦にカネー砲を一門づつ載っけて定遠の356ミリの舷側装甲をぶちぬこうというわけだった。
4000トンクラスの海防艦にやたらに重くて強力な砲を載せた結果はどうなったか?
強装薬(戦斗時と同じ装薬)でブッ放すと、艦内震動して故障続出、横にむけて発射すると針路が変ったという伝説が残っている。
かんじんの決戦でカネー砲は4~5発は撃ったとか、いや1発だとか、記憶にないとか……勿論命中したという記録はない。要するに役に立たなかったのである。
アームストロング速射砲
日本の艦艇は当時の最新式砲アームストロング社の速射砲をいちはやく採用していた。アームストロング砲で日本海軍は勝ったのである。従来の砲の8倍という発射速度を実現した15サンチと12サンチの速射砲で清国艦隊に砲弾の雨を注いだ!勿論1発も定遠と鎮遠の装甲を貫ぬいた弾丸はなかった。
左舷砲戦中の厳島
これはカネー砲
ウリャッ
40口径
12サンチ
アームストロング砲
尾栓と駐退機の改良で
1分間に12発発射可能
下っ腹がふくらんだ船体はタンブルホームとよばれこの頃のフランス艦の特長である
もっとも現実の海戦では硝煙や艦の動揺、照準のための測距などで、そんなにうてるわけではない
インフレキシブル(1876年進水)の舷側装甲
定遠のシタデルは列強の主力艦に較べればまだかわいいものだった。
左は定遠のモデルといわれる英国戦艦インフレキシブルのシタデルの断片である。錬鉄鈑の厚さは各々30cm、クッションとしてはさまれた木の厚さは1メートル強ある。高張力鋼のないこの時代の装甲は錬鉄で鋼にくらべればモロイものだったが、砲弾の力をはるかに上まわり、砲弾では主力艦は不沈であると思われていた。
この戦車は関係ナシ
19世紀末の軍艦ならフランスが最高である。清国がドイツでなくフランスに発注してたらさぞかし壮烈な甲鉄艦が生れたのにと残念でアル。(その想像図)
甲鉄艦 凶悪
(グチ)先月のポテーズといい
どうもかきにくい艦でまいってしまった。
まるでタライである。すきなんだけど…

定遠の装甲
定遠型の砲塔の天蓋には
将校塔がない。砲側の照準しかない時代なので
おそらくこの辺に照準窓があったと思う
305ミリ
装甲
クルップ20口径
30サンチ砲
砲が斜めのレールを
後退して 発砲の反動
を吸収する。
76ミリ
装甲甲板
356ミリ舷側装甲
石炭庫
ボイラー室
前部防禦甲板
衝角
1866年リッサの海戦で 劣勢のオーストリー艦隊が
イタリア艦隊を 体当り攻撃で破って以来 つけ
れるようになった。実際には その後使われた例
はなく、衝突事故の時に仲間を沈めるだ
けなので、やがて廃止されていく。
防禦甲板の効用
というわけである
この時代魚雷は実用化が
始まったばかり。まだジャイロに
よる進路維持器がないので
仲々まっすぐ走ってくれなかった。
航走距離も たった300mである。
インフレキシブル(1876年進水)の舷側装甲
定遠のシタデルは 列強の主力艦に
比べれば まだかわいいものだった。
左は 定遠のモデルといわれる英国
戦艦インフレキシブルのシタデルの断片
である。錬鉄鈑の厚さは各々30cm
クッションとして はさまれた木の厚さは
1メートル強ある。 高張力鋼のない
この時代の装甲は 錬鉄で 鋼
にくらべれば モロイものだ
ったが、砲弾の力を
はるかに上まわり、砲
弾では主力艦は不
沈であると思われて
いた。
この戦車は関係ナシ
19世紀末の軍艦なら
フランスが最高である。
清国がドイツでなく
フランスに発注してたら
さぞかし壮烈な甲鉄艦
が生れたのにと残念でアル。(その想像図)
(グチ) 先月のポテーズといい
どうも かきにくい艦でまいってしまった。
まるでタライである。すきなんだけど…
甲鉄艦 凶悪

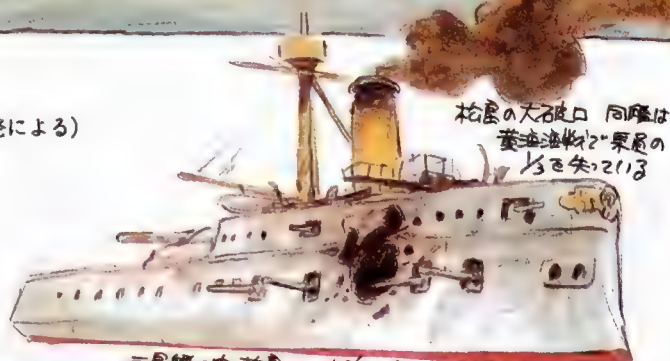
このカゲに司令塔がある。装甲200ミリ
305ミリ
356ミリ
艦載水雷艇
この頃の主力艦はつんでいた
後部15サンチ副砲
装甲甲板76ミリ
356ミリ
シタデル CITADEL
後部防禦甲板76ミリ
石炭庫
弾薬庫
ボイラー室
機関室(もちろん蒸気機関である)
シタデル
シタデルとは 艦の主要部を 中央に集め、分厚い装甲でおおった鉄の箱である 機関、ボイラー、弾薬庫、砲塔を集中防禦する 19世紀の末に流行した方式で、今日の常識からすると まことに奇妙なカッコウだが、全艦くまなく装甲すれば 重くて沈んでしまうのだから、軽量強固な最新式装甲だったのである。
砲塔を両舷に並列させて 主砲4門の全火力を 前方へ集中し、するどい衝角をかざして 敵につき進んでいく艦として 定遠と鎮遠は建造され、実際にも 黄海海戦では「常に艦首を敵に向けよ」との命令に従って戦った。
正式の海軍旗とちがいます(筋が足りない)
これは砲塔ではない 露砲塔という。シッポだけカバーでおおうのである
32サンチ38口径 カネー砲
ワーイ でっかいな!!
舷側装甲ナシ 防御甲板40ミリ
アームストロング 12サンチ砲11門
この円筒の基部は300ミリの装甲アリ
海防艦 厳島 4335t 16ノット
定遠、鎮遠のシタデルを貫ぬく砲の開発を 日本海軍は 仏人ベルダンに依頼した。ズングリした20口径のクルップ砲より はるかに長砲身のカネー式32サンチ砲がそれである。松島、橋立、厳島という観光案内みたいな名の海防艦に カネー砲を一門づつ載っけて 定遠の356ミリの 舷側装甲をぶちぬこうというわけだった。
4000トンクラスの海防艦に やたらに重くて強力な 砲を載せた結果はどうなったか?
強装薬(戦斗時と同じ装薬)でブッ放すと、艦内鳴動して 故障続出、横にむけて発射すると針路が変ったという伝説が残っている。
かんじんの決戦でカネー砲は 4~5発は 撃ったとか、いや1発だとか、記憶にない とか…… 勿論 命中したという記録はない。要するに 役に立たなかったのである。
アームストロング速射砲
日本の艦艇は 当時の最新式砲 アームストロング社の速射砲を いちはやく採用していた。アームストロング砲で日本海軍は 戦ったのである。従来の砲の8倍という 発射速度を実現した 15サンチと12サンチ の速射砲で 清国艦隊に砲弾の 雨を注いだ! 勿論 1発も 定遠と 鎮遠の装甲を貫ぬいた弾丸はなかった。
左舷砲戦中の厳島
これは75ミリ砲
ウリャッ
40口径 12サンチ アームストロング砲 尾栓と駐退機の改良で 1分間に12発 発射可能
下っ腹がふくらんだ船体は タンブルホームとよばれ この頃の フランス艦の特長である
もっとも 現実の海戦では 硝煙や船体の動揺、照準のための時間等で そんなにうてるわけではない

死傷者数　定遠　戦死17名　負傷38名
鎮遠　戦死13名　負傷28名
松島　戦死35名　負傷78名（命中弾13発による）

松島の大破口　同艦は黄海海戦で乗員の1/3を失っている

４時間半の黄海海戦が終った時、両艦の装甲のない部分はスクラップになっていた。しかし、沈まない。シタデルはビクともせず、砲塔も機関もまったく健康だった。これ程の弾丸を受けたにしては、死傷者の数も、おどろく程わずかで、鎮遠の30サンチ弾を一発くらって、日本艦隊の旗艦松島が90数名の死傷者を出したのと対照的である。兵員の訓練不足、戦術のまずさにより清国北洋艦隊は破れたが、清国そのものの老大国の腐敗ぶりにしては、よく戦ったというべきだった。むしろ勝った日本は、相手より速く、守るより攻撃を好み、大きいものより小さなものを好む、という性癖を増長させる事となる。白村江で新羅の大船に破れ、秀吉水軍が李朝水軍の大船に破れた経験は忘れられ、第二次大戦で大和、武蔵を持ちながら空母にたよって戦を始めるに至るのである。

三景艦の内 松島のみ主砲をうしろにつけていた。

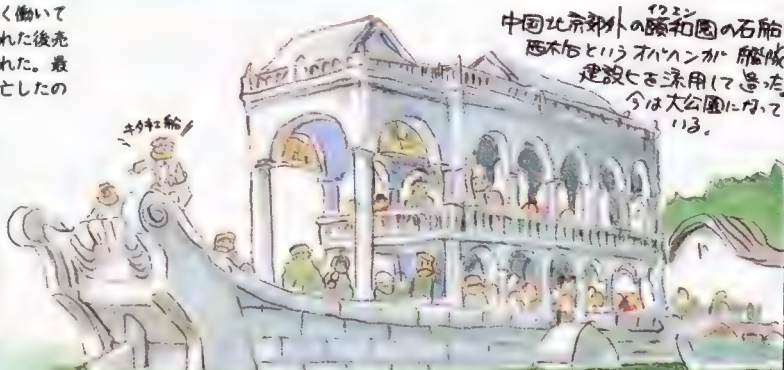
根拠地に退去して包囲された北洋艦隊は、日本軍の水雷攻撃で、定遠が被雷沈没、やがて降服する。おどろくべき事は、提督と鎮遠の艦長は毒をあおぎ、定遠の艦長はピストルで自決したことであった。

明治38年５月27日、対馬へむかうバルチック艦隊に接触する二等戦艦「鎮遠」。当時、鎮遠の副砲は15サンチ４門に増強されていた。

その後、鎮遠は艦首に竜をつけたまま日本艦隊に編入され長生きした。日露戦争にも旧式艦なりによく働いている。明治44年（1911）に実弾射撃の標的にされた後売却、スクラップ代は兵学校の講堂建築費に使われた。最後の竜の甲鉄が死んだ翌年、清国そのものも滅亡したのであった。

中国北京郊外の頤和園（イワエン）の石舫
西太后というオバハンが艦隊建設七き流用して造った。今は大公園になっている。

キタナイ船！

西太后が離宮に金を注ぎこまなかったら、北洋艦隊は何倍もの勢力になるはずだった
そしたら日清戦争はどうなったか判らない。でも公園をのこした方がエラかったともいえるかー

そうだ!!
次は豚の多砲塔
不沈戦艦
凶悪１号の
映画を
計画しよう!!

スポンサー
ボシュ!!

再起をはかる子豚のブタ

第6話

九州上空の重轟炸機

日中戦争のさなか、劣勢ながらも

奮戦した中国空軍パイロットたち。

その中に、2機のアメリカ製爆撃機を駆り、

日本本土を目指す者たちがいた。

彼らの目的はいったい…？

秘められた航空戦史！

初出：月刊モデルグラフィックス1986年11月号
（連載第6回、執筆・1986年10月）

雑想ノート NO.6

九州上空の重轟炸機（じゅうごうさくき）

中山雅洋氏の「中国的天空」(サンケイ出版)は たいへんな労作である。うすうす察してはいたがやはり 日中戦争(1937〜1945)の航空戦は ノモンハン同様 日本の一方的勝利ではなかったのだ。戦史を書く者は公正でなければならない。自国の過大評価は国を誤まらせる。

フィンランド空軍がソ連空軍を相手に よく戦ったように 弱小後進の中国空軍はよく戦った。

腐敗的な政府も、公正で機能的な軍組織も望めない状態にもかかわらず 中国のパイロット達の闘志は はげしかった。

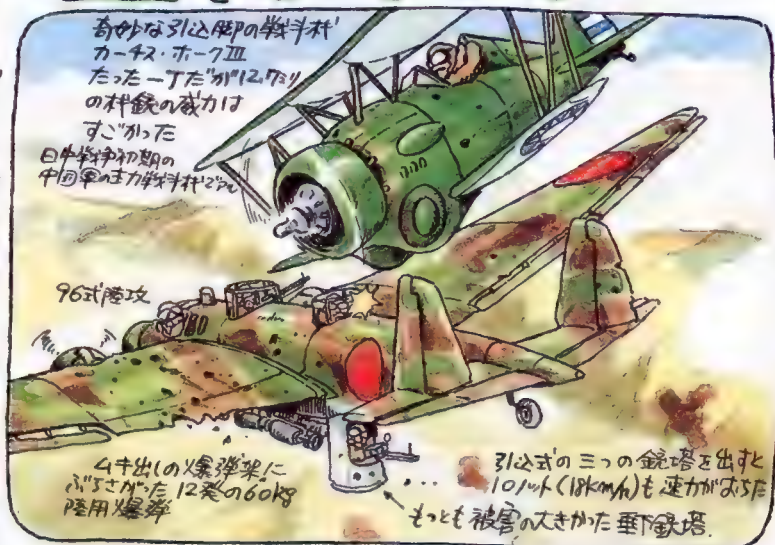
このエピソードは「中国的天空」の中でも 僕がいちばん 心をひかれたものである。

奇妙な引込脚の戦斗機
カーチス・ホークIII
たった一丁だが12.7ミリの機銃の威力は
すごかった
日中戦争初期の中国軍の主力戦斗機でした

96式陸攻

ムキ出しの爆弾架にぶらさがった 12発の60kg陸用爆弾

引込式の三つの銃塔を出すと10ノット(18km/h)も速力がおちた

もっとも被害の大きかった垂下銃塔

▲大宣伝された96式陸攻の渡洋爆撃も その被害は決して少くなかった。太平洋戦争開幕までに 失われた陸攻のクルーは70組に達している。

日中戦争勃発の年 1937年(昭和12年)に中国は アメリカから9機の重爆撃機 マーチン139W(B-10Bの輸出型)を購入した。中国風に書くなら 馬丁式重轟炸機である。

1938年(昭和13年)5月20日 薄暮(ハクボ)
東シナ海に近い寧波(ニンポー)の粗末な飛行場に、二機のマーチン重爆がこっそり着陸した。上海、南京はすでに日本軍に占領され、9機のマーチンも この2機をのこして他はすべて失われていた。
搭乗員達は黙々と ニンニクの茎の炒めもので夕食をとる。
(注) おかずについて中山氏は言及していない。これはぼくの確信的推測である。
この二ヶ月間、奥地で極秘に訓練して来た成果がいよいよ試されるのだ。
その間に、マーチンの両翼のタンクに燃料が注入される。勿論ギリギリ満タンに。手動ポンプでは骨の折れる仕事である。
ついに出発の時が来た
二基のライトサイクロン エンジンを轟かせてマーチン139WCは 闇空へと消えていった
目的地は日本本土。初の日本空襲!!
銃手兼無線士は 遠ざかる中国をみつめている
大陸国中国のパイロットにとって 夜間の洋上飛行は 緊張の連続である。暗い照明の中で、ナビゲーターの眼は はりつめている。
日本軍に夜間戦闘機はない(中国軍に夜間爆撃機がないからだ)が、見張りに専念する。無線の仕事は当面ないのだ
パイロットは 闇に目をこらすために計器盤の照明を最低限にしぼっている カウリングの動力計器が見にくいのが気がかりだ。

夜の東シナ海を一路日本へと二機はとぶ
カタログどおりマーチンにとって九州南部は
航続距離ギリギリなのだ。
編隊を組むために
オートパイロットは使えない
このせまい機首では
ナビゲーターはたいへん
だったろう
消炎排気管
マホービンのお茶
水がわりにお茶をのむ中国では
マホービンが日本より早く普及して
いた。
翼内メインタンク
中央翼に左右二つづつ
防弾ゴムはまだない。
正規の乗員数は4名だが、この
爆撃行では3名づつで一名減ら
している。少しでも航続力をのばす
ためだったのだろう。
日本軍
南京
上海
長江
約900km
寧波
(ニンポー)
東シナ海
出発からおよそ3時間半、九州上空予定時刻
眼下は一面の雲だ。搭乗員は必死に目をこらす
突然雲のきれ目にまたたく
沢山の地上の灯が見えた
日本だ!!
ゆるやかな弧をえがいて
二機は爆撃体勢に入る
爆撃照準器は使わない
ナビゲーター兼務の爆撃手は
ただ爆弾倉の扉のハンドル
を握りしめている。各個に機長
が叫んだ「ひらけ!!」
当時、蛍光灯は勿論、水銀灯も信号機もなかったから本物の星のように見え
たはずだ

闇空に無数の紙片が舞った
アッ こういうの
オレもやったこと
ある ニセ札で
マーチンが九州に投下したのは 爆弾ではなく 日本軍の非人道
行為を 日本国民にうったえるビラだったのだ
月が出ていたかどうかは
定かではない
日本の国民の
みなさんへ
粗末な紙にガリ版で
印刷したビラだったという
実際 前年の末 南京占領の時、日本軍は軍民とわない、
すさまじい虐殺を行った。このビラを見て 少しでも日本の中に
戦争に反対する動きが生ずるのを期待したのだった。
任務を達成したマー
チンは高速巡航で
離脱する やがて東
シナ海に陽がのぼった。
妙なもので ここまでかくと
139型が好きになってしまった
しかし、ビラは何の効果も現わさなかった。翌日の
新聞に小さく「九州上空に怪飛行機…云々」と出た
だけであった。この時、戦争に反対する人々は、みん
な牢獄につながれてしまっていたのである。
日本軍はマスマス戦火を拡大し 中華民国の臨時
首都 重慶に 長期的な都市無差別爆撃を行うよ
うになる。
ぼくは想う 中国の搭乗員達は どんな気
持で 日本の灯を見つめたのだろう…と
この爆撃行は もう一度行われ その時はつい
に 中国本土に帰りつけず 行方不明になってしま
ったようだ。都合の悪い事を書かないのは 中国
も 日本も同じだった。くわしい事はも判らない
国民に真実を伝える自信のない軍は国をほろぼす。
それから6年
マーチンの次に 日本に来たのは 米国のB-29の
大群だった。重慶以上の無差別爆撃で 日本中の
主要な都市は すべて炎上し、二発の原爆がとど
めをさした。
ぼくは 4才で 焼夷弾の雨の中を 父の
手にひかれて 逃げまわっていた。
1986.10.5

第7話

高射砲塔

ドイツの小都市リュースバルクに、

空爆から魚雷工場を守るために

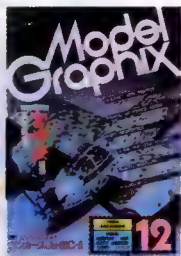
高射砲塔が建造された。

だがやがて、強力すぎる

高射砲塔自体が連合軍爆撃機の

攻撃目標とされてしまう。

戦いが済んだ時、姿を現したものは

果たして何か？

初出：月刊モデルグラフィックス1986年12月号
（連載第7回、執筆・1986年11月）

雑草ノート
（想）
第7回

リュースバルク市の旧市街にたつベルタ塔 1943年10月頃 ▼

128ミリ 高射砲連装砲塔

20ミリ四連装砲塔

第二次大戦中に建設されたベルリンの高射砲塔は有名である。しかし リュースベルクという聞いたこともない町に建てられ、連合軍のパイロット達に『ど田舎の人々』と憎しみをもって語られた高射砲塔について知る人は少ない。

リュースベルク…人口3万にもみたない平和な小都市が Uボートの魚雷のエンジンとホーミング装置のすべてをまかなう工場を持ったために重要な戦略目標になってしまったのであった。

折しも1943年、英国の夜間爆撃は次第に激しさを増し、魚雷生産の確保は重要課題のひとつになった。しかし、城壁にかこまれた同市と工場は、森におおわれた低地に突出した台地の上にあり、防空部隊が何処に砲座をすえても射角がいちぢるしく制限されてしまう。この難問にとり組んだのが左の男であった。

エルンスト ジグラー博士
（1887～1951）

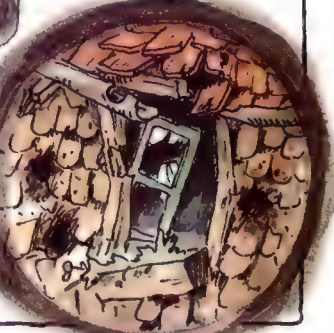
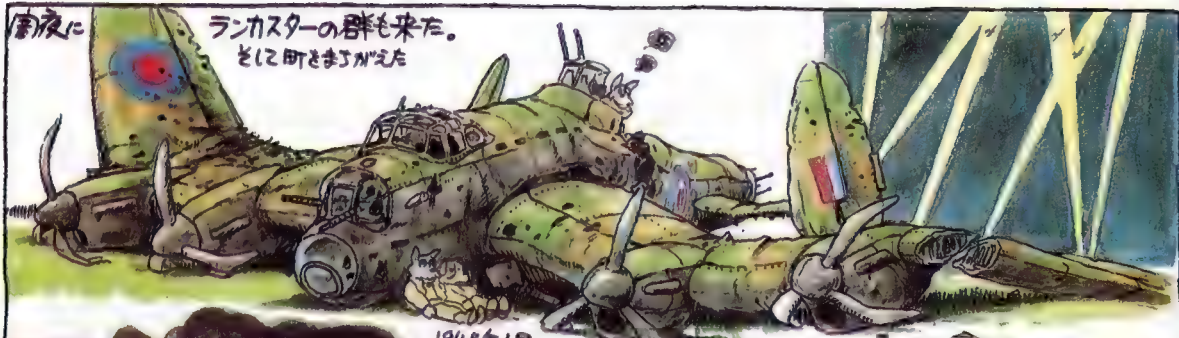
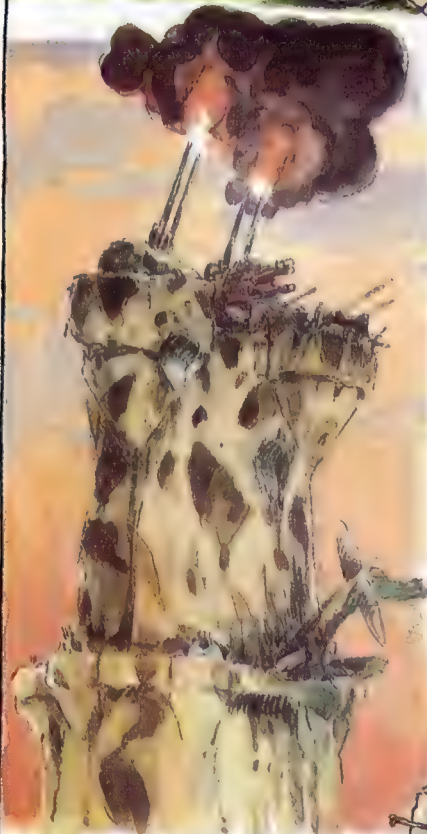
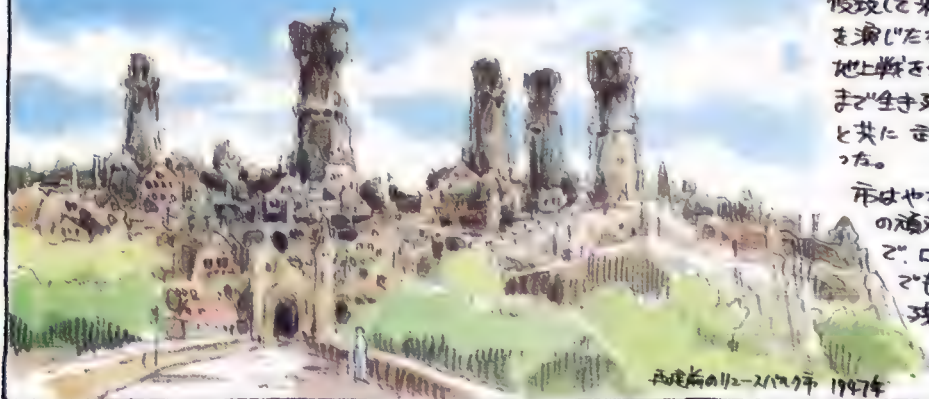
高射砲塔の建設が彼の答である。彼はドイツ的完全主義で、この小さな町を1ダースもの高射砲塔と射撃管制塔ですき間なく固めるというプランを提出した

おどろくべきは、この土建屋万才的計画が承認され、しかも建造中止となった新造戦艦のための最新式砲が このど田舎にふりわけられたことであった。

キール軍港に近いリュースバルク市は中世ハンザ同盟都市のひとつ。古い城壁にかこまれた静かなたたずまいの小都市だった。

正式にはリュースヴルグと発音すべきだが地元ではバルクに近く発音している。

射手
指揮官は下士官
8ミリ装甲鈑
装填手
有名な四連装20ミリ
塔加装甲 プラス8ミリ
近距離からの20ミリ機銃弾に抗甚する
カモフラージュネット用のフック
結局ネットは使わなかったらしい
20ミリ装甲天蓋
給弾室
おそろしい事にドイツ人はつりかごずの給弾装置をこの後につくってしまった。なんという完全主義!!
高射砲塔 128ミリ×8 20ミリ×3
128ミリ 40年式連装高射砲は
1門あたり4〜5秒に1発の速度で
26kgの砲弾を 高度14800メートル
まで撃ち上げるという おそるべき
半自動砲であった。
88の大兄貴である。
こいつがひとつの塔に8門
6塔で計48門も集中させて
るのだから よほどのもの好き
でないと町の上空に侵入
する気はおこらない。
低空で近づけば死角なしに
はりめぐらした192門の20ミリと36門の
37ミリ砲の弾幕にとび込むことになる。
1t爆弾にもびくともしないベトンの天井
射撃管制塔
37ミリ×6
ところが 当局は気がついたのだ。
なんという コンクリートと鋼材の無駄だと。
要するに 魚雷工場を疎開させれば すむじゃないかと。だが、おそすぎた 既に三つの砲塔と
二つの管制塔は完成間近かになっていたのである。
もともとが艦載砲塔なので
水平射撃用の照準窓がついてる。
最終的に砲塔を
完成させる力は
宣伝省からやって来た。
絶好の宣伝材料
「かくもスゴイ高射砲
塔で全ドイツの都市
は武装するのだ!!」
というわけで、
無駄はかくごで
ベルダ、ドーラ、アンナの
三高射砲塔と
ローザ、ワンダの
二つの管制塔
は完成したので
あった。
しかし、その時に
は 魚雷工場の
疎開計画は
着々と進められて
いたのである。
高射砲兵はぼやいた。いったい
何を守るのだ
このど田舎の中世都市をか…!?
<射撃管制塔>
4.5m測距儀
射撃管制室
37ミリ機関砲回廊 計6門
とにもかくにも
空襲もなく
しばらく平和な日がつづいた
ローザ塔の測距儀
装甲厚150ミリ
みせて
揚弾筒
給弾筒 この中を弾丸がのぼる
弾薬庫
PORK LOVE

まずアメリカ人がやって来た。
白昼の強襲。400機のB-17がキール軍港をめざし、内60機が防空戦斗機の目をくらまして まんまとリュースバルク上空に侵入したのである。1機当り12丁の12.7ミリブローニングMGに250kg爆弾を8発ずつかかえて、勿論 目標は魚雷工場への精密爆撃である。
128ミリ全砲列が射距離15000mで砲撃開始。初弾から不気味なほどの至近弾。そのまま かっきり4分半撃ちに撃った。空中は鉄片と爆煙に充ちる。爆弾投下前に2機がはやくも火を発した。アメリカ人の不運は照準を受けもつ先頭機がやられたために、投弾が数秒おくれたことであった。爆弾は市民の散歩道として親しまれた森をほりかえしただけであった。市上空で更に5機が喪失。帰途途上におちたもの2機。
★(着陸時に大破したもの他に3機。被弾機はほぼ全機)
損失率なんと20%!!
次にイギリス人が来た。
モスキートで低空スレスレに…16機
あの化物の塔をなんとかしなければ…。トゲぬきをイギリス人がかって出た。巡洋艦の片舷斉射と同じ火力を持つロケット弾装備のモスキートで森をかすめて殺到する。
しまった
1943年末なのに
木が枯れてない!!冬なのに
天井の厚さ 7m
損失率なんと81%
今度は対空砲回廊の出番であった。37ミリと20ミリの火の中に突進した木製機の運命はもっと悲惨だった。
帰りついたモスキートはたった3機。塔はみなロケット弾をくらったが損害はわずか。コンクリートの壁はドイツ的頑丈さを証明した。
今やリュースバルクの高射砲塔は全ドイツ防空隊のかがみとなった。
魚雷工場はもうとっくにいなくなったのに高射砲塔はアメリカとイギリスの飛行機をひきよせるシンボルになってしまったのだ。迷惑なのは市民の方で、火のついた飛行機は降って来るわ、俯角をつけて撃ち出される対空砲弾はとびこむわで 美しい町並はメチャクチャになっていくのである。

同夜に ランカスターの群も来た。
そして町をまちがえた
1944年1月
300機のランカスターの大群が リュースバルクを襲った。よくあった事なのだが、夜間戦斗機の群につきまとわれた イギリス夜間爆撃隊は 町をひとつまちがえて隣のノイシュタットを爆撃してしまった。この夜 ランカスターの損害は42機、内3機は リュースバルク上空にまよいこんで 高射砲塔にくわれたものである。
タイフーンも来た。
その後 終戦まで
イギリス人もアメリカ人も
とりつかれたように リュースバルク市にやって来た。
B-17, B-24, P47, P51
ランカスター、タイフーン、スターリング、
ハリファックス、ボーファイターまで
やって来て「ど田舎のトゲ」と
わたりあい 刺された。
とうとう トゲは抜けなかった。
何発も直撃をくいながら
最後まで 128ミリは火をはきつづけた。ドイツの土建屋が勝ったのか……
サンダーボルトも来た。
キルマークをかくのも
途中でやめた。
しかし 火を吐きつづける塔の下で リュースバルクの美しい町は姿を消してしまった。全市 まったくの廃墟になってしまったのである。高射砲塔は まるで リュースバルクの墓標のようであった。
ベルリンの高射砲塔の128ミリは 侵攻して来たスターリン戦車と砲撃戦を演じたが、リュースバルクの128ミリは 地上戦を経験せずに終った。最後まで生き残った一門は ドイツ降服と共に 武装解除されて終ったのだった。
市はやがて 再建されたたが、五つの頑丈な塔の撤去がたいへんで、ローザ塔の基部だけは今でも 給水塔の一部として生き残っているという。
再建前のリュースバルク市 1947年
おわり。
1986 11.5

第8話
Q.ship

雑想ノート NO.8

Q-ship

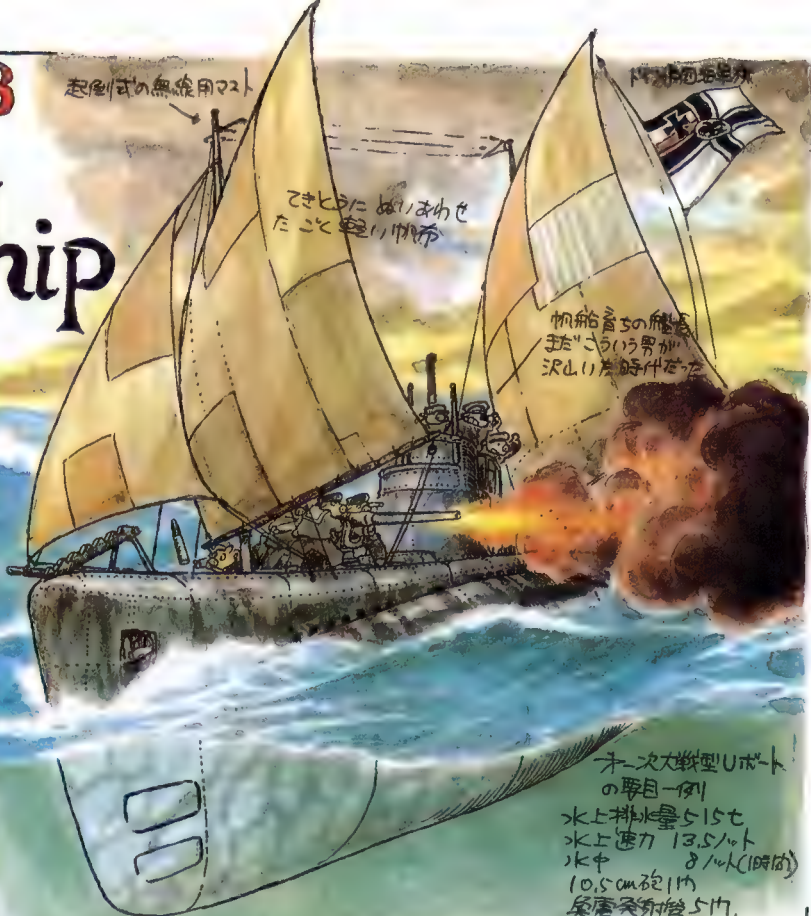
起倒式の無線用マスト

ドイツ帝国海軍旗

てきとうに ぬいあわせた ごく軽い帆布

帆船育ちの艦長 まだこういう男が沢山いた時代だった

無線用のマストに ニセの帆をはって 帆船に化け、敵の商船に近づいて 突然ドカーンと発砲する。ウソのような話だが、第一次世界大戦(1914〜1918)に、あるドイツ潜水艦が本当にやった事である。

当時のUボートは、魚雷の搭載数が少い上に高価なので、浮上して砲弾で商船狩りをする方が圧倒的に多かったのだ。それに、末期に護送船団の戦法が採用されるまで 商船は単独に行動する方が多かったので、こんな戦法を発明したUボート艦長もあらわれたのであった。

第一次大戦型Uボートの要目一例
水上排水量 515t
水上速力 13.5ノット
水中 8ノット(1時間)
10.5cm砲1門
魚雷発射管5門。

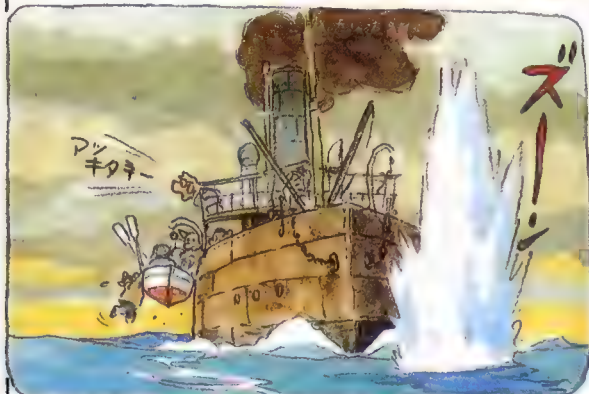
アッ キタキー

ズー!

やられる方も たいてい ボートで逃げ出すヒマがあった。

ブタヤロー

196 +5 万トン

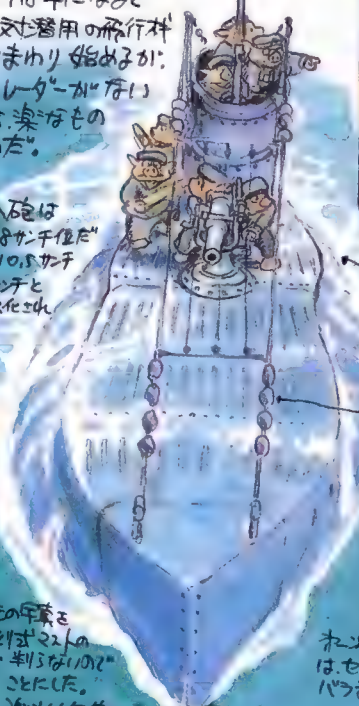
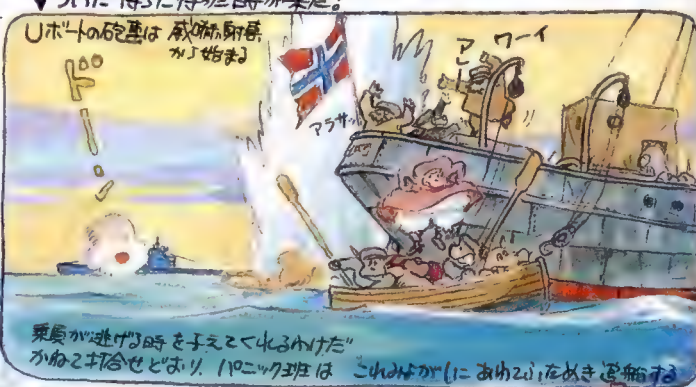
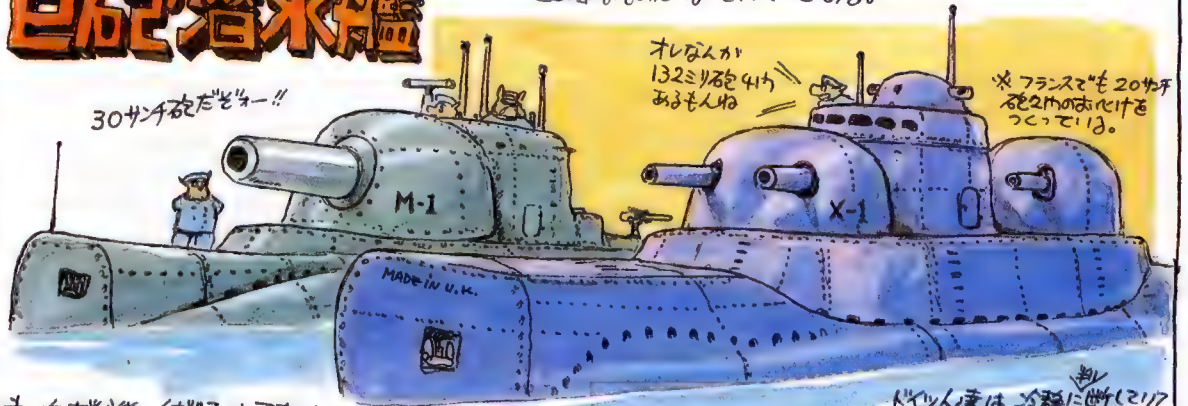
フォン・アーノルド・ド・ラ・ペリエール

第一次大戦こそ、もっともUボートが活躍しやすい時代だった。なにしろ、ソナーやレーダーが発明されてなかった上に、頭の上から突然!爆雷をおっことす飛行機なんていうやっかいな代物が発達していなかったのだから。船乗りは皆 自分の目と耳をたよりに戦争をやっておられたのである。

6394隻 1,194万8,702総トン

この数字は 1914年から1918年までにドイツのUボートが沈めた商船のかずである。他に軍艦100隻、イギリスが大戦中に失った戦艦13隻の内5隻はUボートがあげた戦果であった。上の絵のペリエール艦長は並いるUボートの艦長中の最高のエースで、なんと194隻の商船と2隻の軍艦を沈めちまったのである。

この大戦果の代償に198隻のUボートが失われたのだが、その内12隻はQシップのためとある。Qシップとは何か? これが今回のおはなしである。

これがQシップだ
日本では囮船と訳されている
要するに小型の沿岸貨物船（帆船も使われた）に大砲をかくして、Uボートの攻撃を待ちかまえるという代物。
Uボートが油断して、魚雷は勿論、砲弾も節約したくなるような船が選ばれた。
このボートはQシップではない
このボートはQシップの主兵装である。ハッチの上に短艇をのせるのは当時あたり前のことだった
オスナヨ！
ヒソヒソ
前部ハッチ上の短艇、その正体は左図のごとし
いざとなれば
パカッ
というわけである。
10.5サンチ砲
本当だぞ!!
勿論 乗組員は 船長以下すべて海軍軍人から選抜され、彼等は民間人に変装して、ひたすらイギリス近海をいったりきたりして、エサがかかるのを待ったのであった。
ネムイ
↑つかれると つい字が右下りになるのである。ゴメンナサイ
第二次大戦に較べると夢のように楽だったとデーニッツ提督が回想しているように、この頃の潜水艦はまっ昼間 堂々と水上を航行して エモノを探しまわることが出来た。1918年になると ずい分 対潜用の飛行機がとびまわり始めるが、なんせレーダーがないのだから楽なものだったのだ。
▼ついに 待ちに待った時が来た！
Uボートの砲撃は威嚇射撃から始まる
ドーー
アー
ワーイ
アラサッ
乗員が逃げる時を与えてくれるわけだ
かねて打合せどおり、パニック班は これみよがしに あわてふためき退船する
Uボートの砲は はじめ8.8サンチ位だったが、10.5サンチから15サンチと次第に強化されていく
ハッチが司令塔の一つだけだったので砲弾運びは楽ではなかったと思う
防潜網とか障害物にひっかからないようにはるワイヤー
空中線もついていた
近づいて しとめろ
ニゲロ
Uボートは接近しつつ おもむろに浮上
いくら手元の写真をみても潜望鏡マストのしまい方が判らないので かかないことにした。
例によって資料的価値はないのだ ワッハハハ…。
第一次大戦のUボートは、セッセッと機雷をバラまいて歩いた
機雷のおとし穴 この中にたてにはってある

当時の汽船はみな石炭をたく蒸気エンジン船だった
エントツの印も船会社にあわせてぬりかえる
航路によってはあやしまれんように中立国の旗をたてた。もちろん、ワザとボロの色あせた旗を使った
このデッキハウスの正体は右図のごとし
ノールウェー旗
変装は念入りにおこなわれ口ヒゲまでつけた指揮官もいた。
上から のぞくなよナ
後部デッキハウスの75ミリ砲
船倉にはありったけ木材をつめ込んだ 被弾した時に浮力を得るためである。
女装した者がいたかどうかは定かでない。
船名もせっせと変えた
LARU
よその国の旗をたてても、国際条約に違反するわけではない。だまし、だまされるのも戦術の内と認められていたのである。ただし、砲火をひらく直前に、その旗は降ろさねばならない。Qシップでも、ドッカーンとやる前に イギリスの海軍旗ととりかえたはずである。
イギリス海軍旗
何処にUボートがいるか判らないのである。大砲を持った武装商船もいたから、Uボートもけっして油断しなかった。
いざやってみると、なかなかUボートが見つけてくれなくて空しいさすらいの日々がつづいた。それがQシップ乗りの生活である。
ドカン
ズーン
遠くから撃ち始めると
逃げられる可能性
ある。ギリギリまで待つ。
ウリャッ!?
アッ
ドカバカボカーン
アレー
ヤロオ…イヌコロめ
ブクブク

戦すんで 日がおちて……
ガチャン
ガチャン
ほんとにあった話
しっかりこげ
イヌコロめ
ウルヘー
捕リョがイバルナ
Uボート対Qシップの戦は 相討ちで終る事が多かった。
相方損傷にもの別れに終ったり、両方とも沈んじゃったり、Qシップが発砲するヒマもなく、Uボートの砲戦が片をつけてしまった事もあった。幸運にもQシップが勝利をおさめても、穴だらけの船体の浸水と戦う仕事が待っていた。Qシップの本には半分沈みながら なんとか帰投しようと苦斗するQシップ達の写真がいく枚ものっている。イギリスにとっては 相討ちに終っても Uボートとボロ船との交換なら ず〜っと得だという判断があったのである。
Q対Uの戦いをヒントにした ケダラン戦争映画が アメリカくんだりで つくられたりしたが、第二次大戦中に Qシップは 使われなかった。レーダーの発明が すべてを変え、戦争はさらに酷薄なものに なっていくのである。
巨砲潜水艦
30サンチ砲だぞォー!!
オレなんか
132ミリ砲4門
あるもんね
※フランスでも20サンチ砲2門のお化けをつくっている。
M-1
X-1
MADE IN U.K.
第一次大戦後 イギリスはアホみたいな 巨砲潜水艦を つくった。
要するに、Uボートの大砲にひどい目にあった経験からか、潜水艦にでーっかい大砲をつんだらスゴイ!!とおもいついたのであった。
勿論、この潜水艦達は 多砲塔戦車と同じで 第二次大戦では まったく役にたたなかった。科学雑誌をにぎわしただけであった。
もっとも、日本人が笑う資格はない。なんせ わが大日本帝国海軍は 第一次大戦と大差ない対潜装備で 太平洋戦争にのぞみ、アメリカ潜水艦にコテンパンにやられ、でも相変らず 潜水航空母艦(たった三機しかつめない)などという お化けをつくったりしていたのだ。
ドイツ人達は 冷静に判断していて
第二次大戦のUボートは 一次の改良型ですませている。
スポンサーボム!!
そうだ!!
次は多砲塔
潜水カンの
映画だ
当るゼヨ
1986 12.7

第2章

第9話

特設空母
安松丸物語

太平洋戦争初期、

貨物船改造の特設空母と護衛艦による、

たった2隻の機動部隊が極秘裡に

アフリカ沖へと向かった。

その目的は、アフリカとアジア方面への

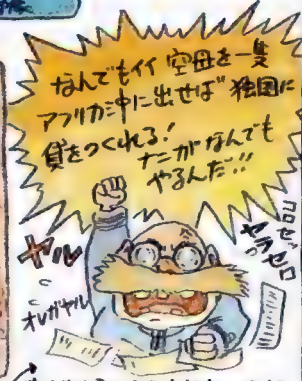
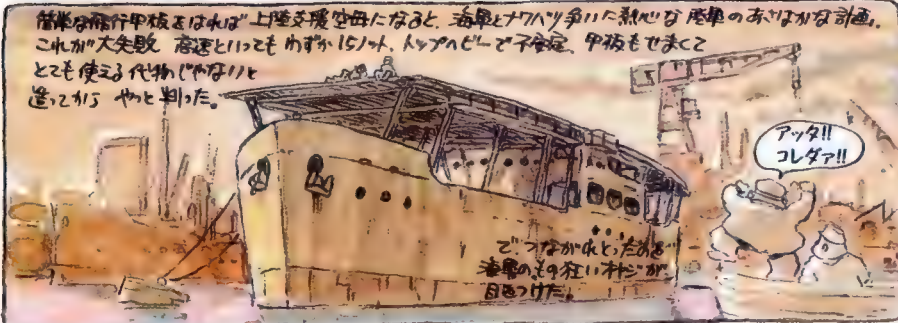
イギリス補給路の分断！

大胆不敵で奇想天外な作戦の全貌が、

今、明かされる。

初出：月刊モデルグラフィックス1987年2,3月号
（連載第9,10回、執筆・1987年1,2月）

雑想ノートNo.9 特設空母 安松丸物語
アンショーマル
翼の張線は省略。
日本機には珍しいイボつきカウリング
金属骨格羽布バリの胴体
木製骨格、羽布バリの翼
96式艦攻
全幅 15m
全長 10.15m
エンジン
光2型 公称 700HP
離昇 840HP
最大速力 280km/h
最小速力 92km/h
合成風力14ノット時の着艦速力は約70km/hとなるッ。
91式改一魚雷
785kg(炸薬150kg)
真珠湾で使われた改二と較べ炸薬が50kg少い。
この迷彩はボロの羽布にあてたつぎに色をぬっている内に考案された。海軍機でこのパターンが使われたのは安松丸の搭載機だけである
96式艦攻はほとんど忘れられてしまった機体である。第一線にいた期間が短く、生産数もわずかで、派手な戦歴もないから97艦攻のカゲにかくれてしまったのは当然としても、同時期の英国のソードフィッシュのしぶとさと対照的であ★
★った。太平洋戦争ではまったく使われてないとおもわれた機体なのだが、一度だけ、しかもとんでもない戦歴を持っている。これまで、まったく知られていない特↗
↗設空母 安松丸の搭載機として なんとアフリカ沖で船団護衛をやっていたのであった。
(艦上攻撃機)
雷撃機の歴史:技術停滞の証明
(この他試作機はにたようなのがゴチャマンとある)
日本に於ける艦上攻撃機の歴史はガラクタの歴史といえるが、なんせ800kgの魚雷をぶらさげて、小馬力(当時としては高出力)のエンジンで、せまい空母の甲板からとぼうというのだから 高揚力装置も可変ピッチペラもない時代には やたらとドン重な機体になるのは無理もなかった。
ゴミゴミ
ゴミ
ゴチャゴチャしとるけ みな同じようなもんや!
チェッ イイナー
10年式
(1921年)
設計者イギリス人
日本唯一の三葉機
魚雷がつめることを証明、されど実用性ナシ、ひとり乗り
450HP、10機生産
13年式
(1924年)
同じくイギリス人設計、三座機となり、実用性高し、上海上空で日本初の機上戦死者を出す
450HP、440機生産
89式
(1929年)
英ブラックバーン社に設計依頼、故障、災発、不時着かぎりなし、悪評、殺人機
日中戦争ではじめての一個小隊全滅も経験
600HP 200機
92式
(1932年)
国産イスパノエンジン
信頼性ナシ
いじくりまわす内に旧式化
600HP、130機
要するに このクラスの出力になると もう水冷エンジンは日本の工業力では どうにもならなかったのだ
96式
(1936年)
光エンジンのおかげで実用性高く、されど出来たとたんに旧式となる
700HP、200機
10年式から15年かけて50km/h速くなっただけ。
▼これより全金属製、フラップ、引込脚定速ペラ
97式
(1937年)
96式と同じ光で90km/hも速くなる。栄エンジンの3型もふくめ1250機。
13年式以来 機銃たけはズ〜〜ッとルイスなのがオソロシイ
空中魚雷は91式改一になってはじめて実用性を持ったが、このお話をのぞいて97式以外に雷撃を行った複葉艦攻は一機もない。中国相手に水平爆撃だけをやっていた。
三座機とは 長時間の洋上飛行をするため 推測航法を受けもつ偵察員が必要であった。この人である
これだけ知っていると日本機の時たいてい横においてあるルイス機銃
通信士&銃手
偵法&爆撃
ロールバーもかねてる
コレ 雷撃照準器
操縦&雷撃
のみものはサイダーが多い。サイダービン入りの水も多い。
航空べんとーはオニギリ、オイナリさん、のりまきが主なメニュー。
では いよいよ かくされた戦記 安松丸物語のはじまり はじまり
日本機になると、ヤタラ字が多くなるんだ?

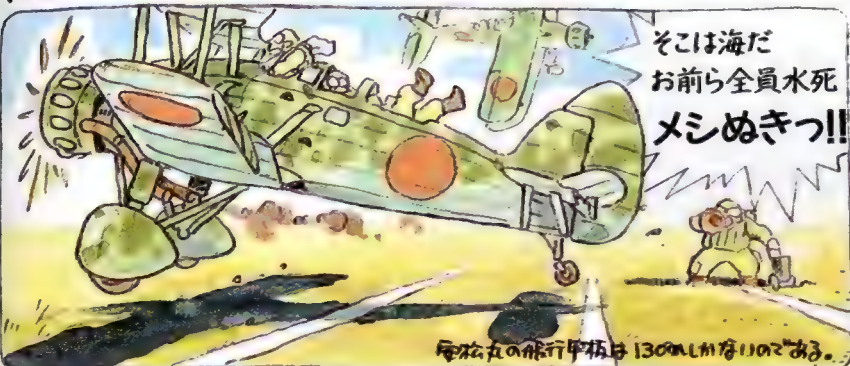
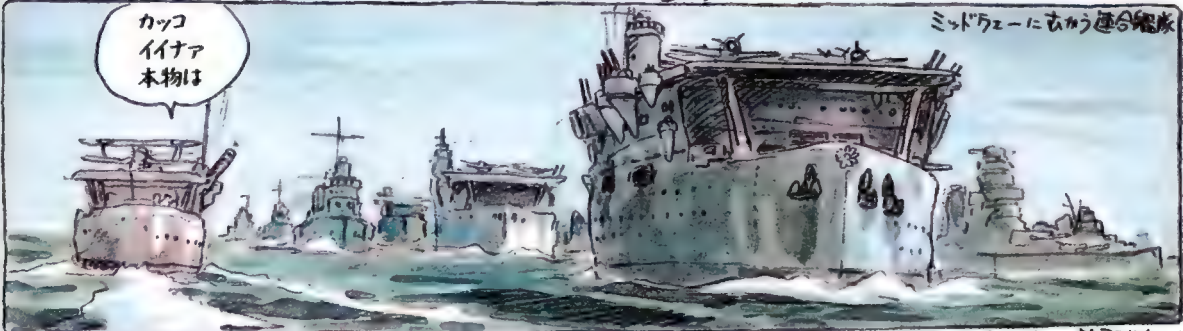
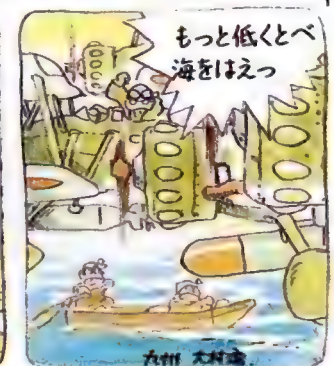
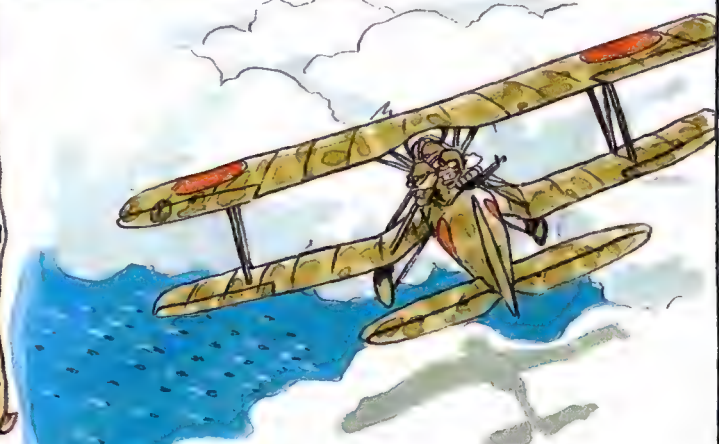
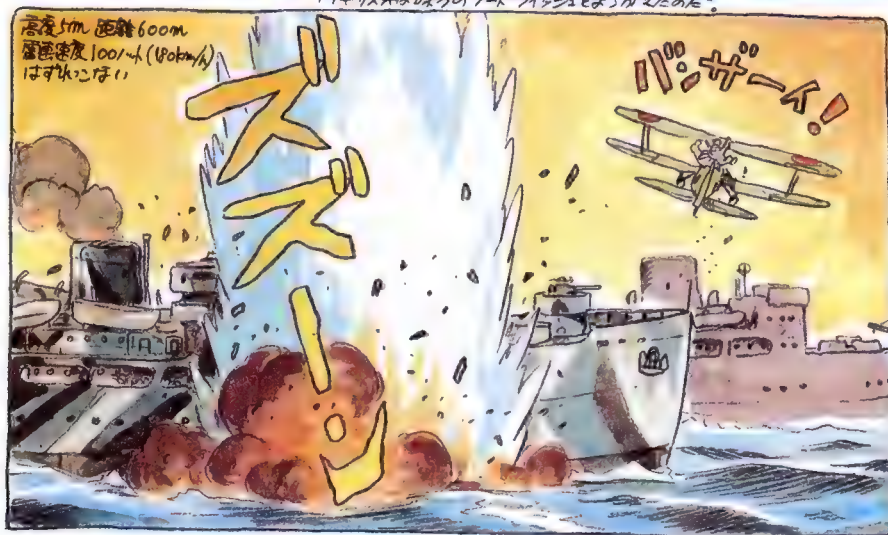
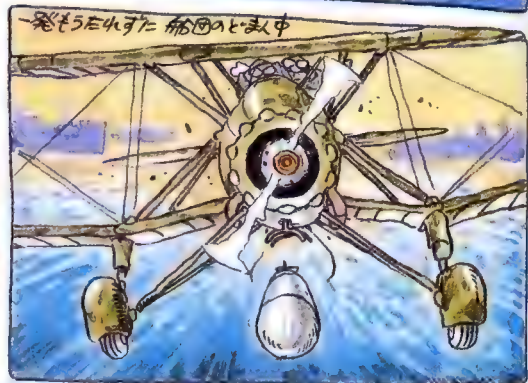
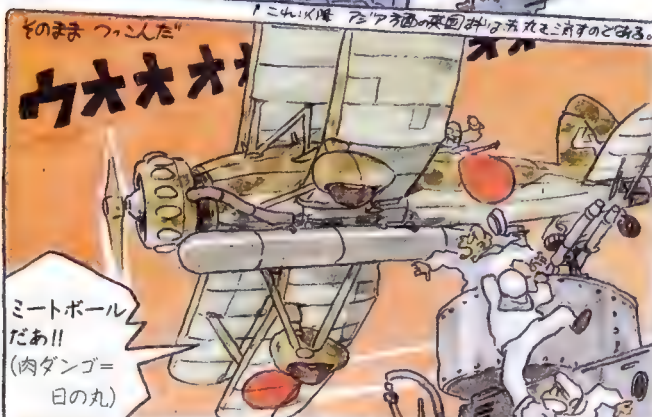
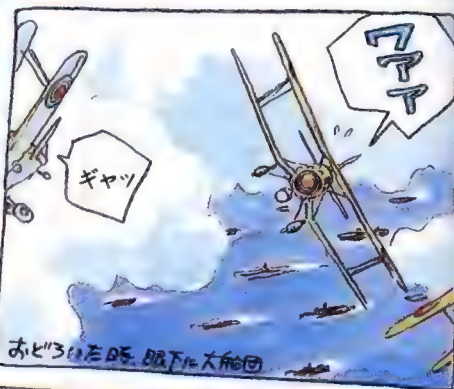
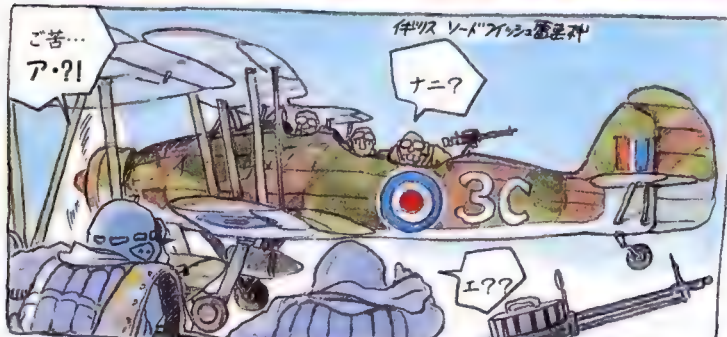
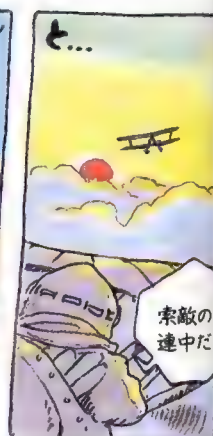
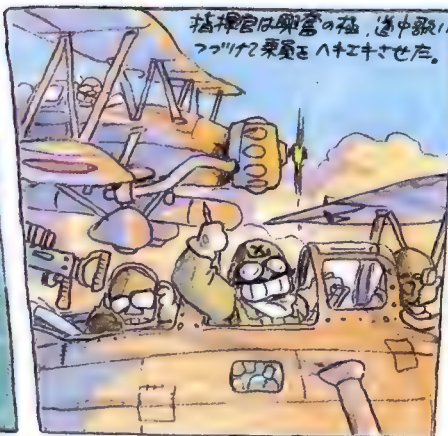
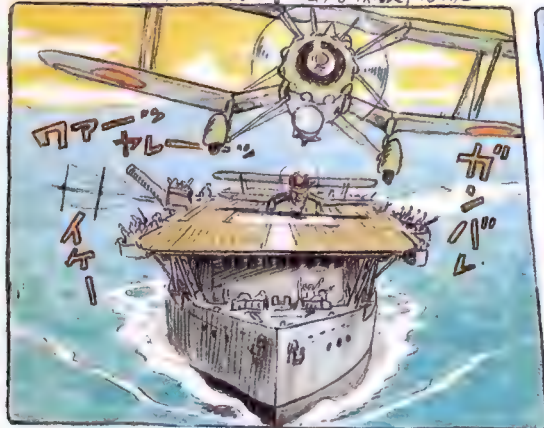
10年前このギャグをやっていた
ナニッ
赤道が見えない?!
てめえの目はフシ穴か
そ、そういえば
なんかウッスラと
赤いオビが…
1942年6月
インド洋上をヨタヨタと西進する
特設空母 安松丸と護衛の旧式駆逐艦、たった二隻の機動部隊
主な登場人物
もの狂い司令官
寿光の神さま or. ジュコーサマ
ドつきゴーグル
ド乱視 指揮官
もともと安松丸は 太平洋航路の高速貨物船として建造中だったものを、陸軍が徴用した船だった。
簡単な飛行甲板をはれば上陸支援空母になると、海軍とナワバリ争いに熱心な陸軍のあさはかな計画。
これが大失敗 高速といってもわずか15ノット、トップヘビーで不安定、甲板もせまくて
とても使える代物じゃないと
造ってから やっと判った。
で、つながれとったあれを
海軍のもの狂いオヤジが
目をつけた。
アッタ!!
コレダァ!!
なんでもイイ 空母を一隻
アフリカ沖に出せば 独国に
貸をつくれる! ナニがなんでも
やるんだ!!
ヤル
オレがヤル
ヨロセヤラセロ
あんまりウルサクわめきつづけるので、お前がやるならと、この計画が承認されてしまったのである。
安松丸全図
イソゲ!
7000総トン
全長140m
飛行甲板130m×16m
搭載機数 6機 たったの6機!
(内、甲板上2機、予備1機)
ブリッジではない 指揮所
離着艦時はたおすマスト
排気筒(ディーゼンなので)
エレベーターはない 色だけぬってある
5tデリック
この船のために 急拠考案された
着艦ユードー燈
一騎当千や
後部格納甲板
翼をたたんだ96艦攻3機
内、1機は分解して搭載
安松丸には全通格納庫はない
そこまでの大改装はしていない
前部デリック 海面上にぶら下げて 引かれ
スライドさせて格納する。前部に96艦攻2機
仮設ブリッジ
船が小さすぎて
本物の艦橋はとてもつけられなかった
兵装は25ミリMG
6門のみ!!
対潜用の空母としてなら つかいようがあった
かもしれないが、わかれ共が もの狂い司令官は
攻撃精神しか持ってなかった
ロンメルが
待ってるぞ
イソゲ!!
オソロシイことに
雨ザラシの安松丸を陸軍から
もらいうけ 1月半でなんとか
改造してしまったのであった。
トップヘビーなら
船底に石でも
なんでもつめろ!!
戦闘機や艦爆は
いらん!
雷撃や。雷撃こそ
男の花道だや
改装工事に力を発揮した
若い技官の話もミリョク的なのだが、紙面のため省略

かくて ようやく出港(書きはじめるとエピソードはかぎりなくあるのだが 紙面のせいで省略)

ミッドウェーにむかう連合艦隊

カッコ
イイナァ
本物は

安松丸は、インド洋をあらしまわった連合艦隊主力といれかわりに 西にむかった。一路アフリカへ

全力ったって たったの三機だ。残りは索敵中なのだ

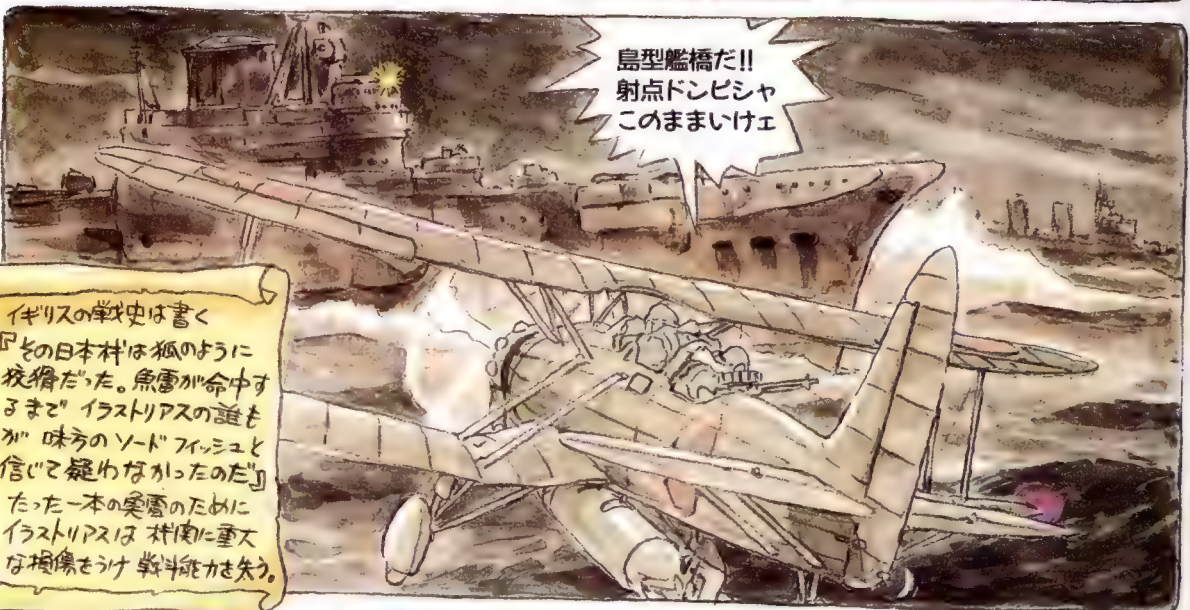
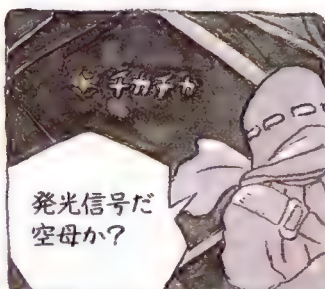
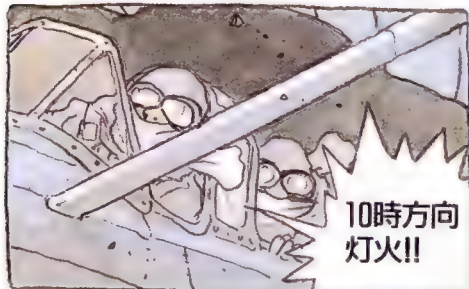
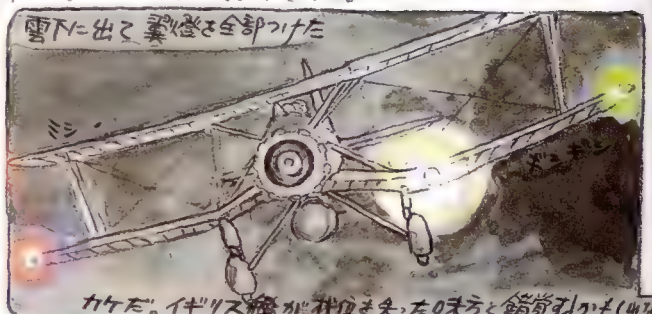
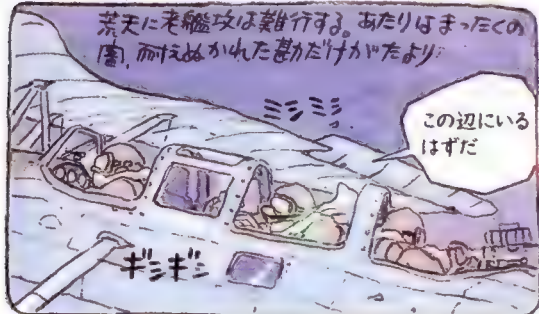
*これ以降 アジア方面の英国機は赤丸を消すのである。

*イギリス人は味方のソードフィッシュとまちがえたのだ。

その頃 安松丸の無電室には もう一機の索敵機から緊急電が入っていたのだ

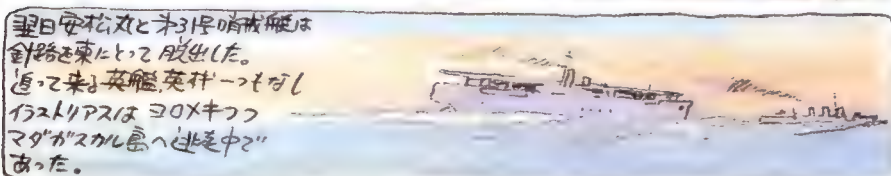
つづく

要目
全巾 14m
全長 10.85m
エンジン 890HP
最大速力 359km/h
ボールトン・ポール 動力銃塔
よほど 方向安定に苦労したらしく ヒレだらけの 胴体
ぼくの大好きな ブラックバーン・ロック戦斗機 7.7ミリ四連装の銃塔が攻撃兵器になると錯覚してつくられた かわいそうなヒコーキ。前方銃がないのだ。
ブリストル パーシュース12エンジン 空冷9気筒星型
安松丸搭載機の攻撃により 船舶の損害 沈没(7000t)1, 大破1(8000t, 数日後沈没)
1942年6月5日
安松丸
150カイリ
船団
50カイリ
200カイリ
英空母イラストリアス
安松丸につづいて 索敵機より入電『敵は正規空母1, 巡洋艦2, 駆逐艦5』
ワレ 空戦中!!
ワレ 損傷ヲ受ク
船団の南わずか90kmに 英機動部隊がいたのであった。
索敵機の通信は そこで絶えた。この瞬間 安松丸の可動機は 5機となったのである。
ただちに 対空警戒態勢に入った。
といったって、戦斗機はなし、高角砲もない。陸戦用の小銃までひっぱり出した。
攻撃隊が帰って来た
アリャ…
魚雷がついとる
バクダンや魚雷がおっこちないのは よくあった事だった。
バリ
ドガン
重すぎた。着艦フックはワイヤーをひきちぎり, 可動機数は4機となる。
なんて整備しやがるんだ!
やめねえかっ 投下器にこいつがはさまってたんだ
イギリスの対空機銃の7.7ミリ弾だ
ソウダッタノカ
スマン
イヤナニ
ガヤガヤ
ポケットから あの弾丸出したんでしょうが…
借ができましたナ…
これはおかしい…!! いいがかりだ。投下テストは搭乗員も立ちあうはずである。
指揮官は腹芸も出来ねばならぬ

日没寸前、イギリス艦載機が安松丸上空にはりついた
たった一隻の随伴駆逐艦の たった一門の高角砲が火を吹くが、もともと大正時代の冗談みたいな8cm砲が当るはずがない。
ドーン
ヘタクソッ
駆逐艦といっても大正時代の二等駆逐艦(旧称菊,770t)で、この時は第31号哨戒艇といわれていた。
まずいな 攻撃隊を呼びよせとる
ちょっと どけてきます
燃料は1時間分でイイ 軽くしてくれ
無線器その他 降ろせるものは みなおろして指揮官みずから とびたった。
ガンバレー
そのかわり一丁よけいにつみこんだ
この弾倉は全部曳光弾なのだ
腹の下にもぐりこめ!
といったって80km/hもおそい
ミートボールの晩飯だ
※機銃弾は、通常弾、焼夷弾、徹甲弾、曳光弾がまぜて込めるのだ
ドオオオ
バババ
まけるなっ
タタタ
ドカッ
ドカドカ
バリバリ
ワッワッ!!
マテー
2丁の機銃が6丁分の曳光弾をはき出した。一発の被弾もないまま イギリス機は退散する
が、母艦の機は この瞬間3機になった。
グシャ
ドテッ
回頭!! 東郷元帥の故事にまなぶのだ
正規空母と決戦して勝てるわけがない。しかし、逃げても逃げきれない。
船団
安松丸
英空母 イラストリアス
後にイギリスの戦史に 狂気のトバク と書かれた決断を彼はした。
安松丸は15ノットの全速で敵にむかって進みはじめたのだ
時を同じくして、通信室がカルカッタ放送を傍受した。ミッドウェー沖海戦のニュース
日本空母四隻を撃沈、更に追撃中…
無能共が……

大深刻の中で二人の食は一段とすすむ。どうやっても安松丸が見つかるのは時間の問題だ。しかも可動が3機では…

★結果的に大胆な変針と悪天候がイギリス攻撃隊から安松丸を守ったのである。

イギリス機が安松丸を探しあぐねている頃、日本機もイラストリアスを探しまわっていた。

翌日安松丸と第31号哨戒艇は針路を東にとって脱出した。
追って来る英艦、英機一つもなし
イラストリアスはヨロメキつつ
マダガスカル島へ逃走中で
あった。

強風でエチオピアに流された彼等は 不時着潜入、英ブレニム軽爆をうばってドイツアフリカ軍団にとび、そこでもひとはたらきするのだが、その物語はまた後日。

オワリ 1987.2.4

第10話

ロンドン上空 1918年

第1次大戦中、ドイツ陸軍が開発した

“ツェッペリン・シュターケン”は、

史上初の戦略爆撃機である。

だがそれは、飛ぶのが

不思議なくらい繊細な代物だった。

ムリヤリ搭乗させられた整備兵ハンスは、

長く忙しい夜を体験するハメに…。

初出：月刊モデルグラフィックス1989年12月号、1990年1月号
（連載第11,12回、執筆・1989年11,12月）

ロンドン上空1918年

R-IVの指揮官兼航法士兼爆撃手
バベリア出身 ドランシ大尉(40才)
イライラ
クソーッ
オンイ!!
イラ
イライラ
イライラ
イラ

先に
いくぞーッ
オオ
ゴゴオオ
この日のロンドン空襲はR級4機のみ
R-VI(R-IVより進化した型)は予定
どおり出撃していく。(の三機)

ツェッペリン シュターケン R-VI
最終生産型。こいつは18機つくられた。
260HP×4
電車型のコクピット
前後にプロペラをつけた。
二基のエンジンでプロペラひとつを廻す
バカさやめて、実用性が向上した。

そもそもドランシ大尉のR-IVは 機体として無理があったのである。
パライベルムMG
機関士が二名つきっきりで なだめるのだが
ガガガ
ヒイ
クラッチ
バギッ
二つのエンジンが共鳴して、振動でギアがぶっこわれるのである。
プロペラシャフトなんか美しく折れちゃう
二重反転じゃないぞ
また
やった!!

イラ
とべるか?
五分五分
です

上手にあつかえば
今晩ぐらいは
もちますよ
たぶん

フン じゃあ
お前も
つきあえ

ヘッ
シレジアの時計屋
の息子ハンス兵長
かくて、整備兵長ハンスは
とつぜん 搭乗機関士に
なっちゃったのである
ぼ ぼく
近眼なのに
特配の
煮食入りの
ベントウ
バコ
麦芽コーヒー
フン
オレは
乱視だ

本物のサラミだ!!
ママに送って
あげよう
イイコトもある
バタつきパン

どの国でも 搭乗員は
イイモノを食べられた
どうせ すぐ死ぬのだ
のりまき!!
オイナリさん
ドイツ本国では 食糧
難になっていて、本物の
サラミは貴重品であった。

ようやく出撃。始動車がつぎつ
ぎとエンジンをかけていく
キュンキュン

ゴオーーー
バリ
ビリビリ

ワーッ
いくぞ!!
目標
ロンドン!!
風車式
燃料ポンプ

ハンスに離陸を見届ける
ヒマなどない
全身で二基のエンジン
を監視する
離昇出力220馬力
タペットはおどり狂い
エンジンは咆哮する
いつ共振が発生する
か判らない

海岸線をこえて 少しづつ高度をかせぐ
今夜は月はない
ウオオオーン

9名の搭乗員の役割
9名中6名が機関士である!!
ハンス 機関士
ドランシ 指揮 航法 爆撃
正パイロット
副パイロット
機首機関士
燃料機関士
左ナセル機関士 (ハンスの相棒)
右翼ナセル機関士
翼上部の翼面銃座
ドランシの航法机
重力タンク 胴体内のタンクから、ここへガソリンをあげ、エンジンに送る
胴体は木金混成骨格 前半分は木製外板
後上方銃座 パラベラム2丁 燃料手と前部機関士の受持ち
下方銃座 手あきの者がかけつける
爆弾庫
ガソリンタンク8基 間が通路になっとる
1918年には✠この鉄十字ではなくなっていた 写真をみると白いワク無しかないものもある。よう判らない
箱形尾部
R-VIには無線士がのっていた。R-IVがどうだったか ぼくには判らない
★R-IVは死角の少い重爆だった
後上方へは4丁の機銃を集中できたし
前方へ2丁、下方へ1丁と重武装だった。
木製骨組に羽布張りのつばさ
巾42mだから おそろしい

ハンス
ハンス
来いっ
ヒュ—

ブッシュ
ロッドの
折損です
エエイ
ボロ
エンジン
め!!

お前の
仕事だ!!
ヘ!?

オオオーーーン
ロッド
ぐらい
すぐなおせ
そんな
アッチチ
高度
下ります
わかっ
とる!
ウワッ

つかまれ
ママーーー
ヒュ—

爆弾の
二番と五番を
すてろ!!
ヒイイ
オオオオ

三分で
なおせ!!

シリンダーが
ひとつパアです
五気筒でまわすしか
ありませんが
やってみます
まわれば
なんでも
イイ
五分
ください
四分で
やれっ

サーチライト
回廊です
変針しま
すか?
このまま行け
ロンドンは
この先だ

陸だ
イギリス
本土だ

カッ
捕捉された！
ガウ ガウ
ズン
ズーン
グワッ
近いな
腕をあげ
やがった
光域から
出ないと
やられます!!
降下しろ
グワー！
梢を
かすめた
高度を
とれ
出力が
足りません
右ナセル
オーバーヒート
寸前です
ハンス
いそげ!!
かけるぞ
クラッチを
つなげ
そっと
そーっと
落ちます
爆弾を
すてましょう!!
バカヤロ
自分も
ふっとぶぞ!!
ガヤ
ワイワイ
ハンス
まだか!!
上方
敵夜戦!!
銃座に
つけ!!
ハンス!!
ハンス!!
ウルサイナー
もう
ロンドンへの道はとおいのだ で次回へつづく

雑想ノートNO.12
宮崎駿
でかい!!
ツェッペリン
シュターケンだ
つづき
ロンドン上空1918
ブリストル
F2B ファイター
エエイ
このクソ
忙しい時に
グワーー
うてうて
近寄せるな
前方に
障害物
あります!!
グラグラ
もらった
ヴィクトリア
勲章だ
オオー
かかった♪
ドオ
バスバス
バカァ
こんな所で
鉄道を高架に
するなァ
ボッボッ
オオォーン
ヨレヨレ
ハンス
なんとか
しろォ
昇れェ
ヴァアア
なんだ
なんだ
ブタの
ヒコーキだ
ゴトンゴトン

ヒャー
あぶなかった
間にあった…
タタタタ
トタタタ
テケテケ
ヨレヨレ
気を
抜く時か！
撃ちまくれェ
オオ――ッ
ダダ
パラベラムMG
ルイスMG
バ
ドカン
ピシ ピシ
バジ
やられた
ドグ
バカァ
なおしたのに
壊すなァ
ワワ
バタタ
ダダダダダ
カン カン
コーン
カカガ
タタタ

ボッ
オオオ
やった
発火した!!

クソオ
消せ
消せ
ウオオ
ハンス
お前の
持場だ
行けェ

もえろ
落ちろ
オオー
ワァーーッ

アリッ!?

チチチ

なんだ
オイルパイプが
やられた
だけか
そこ
そこを
バイパス
しよう
ハンスはまたもや天才的な能力を発揮した

イギリス兵は勇敢でしぶとかった
タタタ
タタタ
テケテケテケ
バババババ
消すナァ

ビシ
ドイツ兵もしぶとかった

なかでも
ハンスはしぶとかった
アチチ
スパナ
タタタ
ドカジュワー
チーン

ママーッ
弾丸のとびかう中で、ハンスはエンジンをなおし、ギアを調整し、タンクのもれをふさぎつづけた
戦後、口やかましいイギリス人もドイツの機関士の優秀さには賛辞を惜んでいない

みんなが撃ち合いに
夢中になっていた時…
ワァッ
イカン

フラフラ
グヮッ

弾着を
確認しろ
ワァ
チチチ
ウァァァー
ズバン
エエイ
帰投する
まぶしくて
何も
見えません
右ナセル
オイルもれ
です!!
ガッ

穴だらけになりながらも、なんとかサーチライトをふりきって帰途についた
オーン オーン
ビッビッ
コーヒーが
はいり
ましたよ
カンカン
コーン
カーン
ハンス
まだか!
いけね
レンチ
落っことし
ちゃった
ああっ
ラジエーター
ホースが…

ツェッペリン・シュターケンのロンドン空襲はイヤガラセ以上の効果をあげなかった。
戦局はもうドイツに決定的に不利になっていたのである。

たった1機だけしか造られなかったR-IVだったが、ロンドンだけでなく両面の西部戦線にも出撃し、とうとう終戦まで生きのびたのである
感動的な乗員の努力で 航空史の一頁をかざったのであった。

ドイツ陸軍が莫大な時間と労力を注ぎこんだR級(巨人爆撃機群)は戦争にはたいして役に立たなかった。けれども、戦時中にドイツ航空技術者達が考案した種々なプランはおどろくほどの先進性にみちていて その後の航空技術の方向に多大な影響を与えたのであった。
全幅140mのこの巨人機も そのプランのひとつである
500HPエンジン20基
ドイツこそ マッドサイエンティストの本場なのだ
ハンス伍長とドランシ大尉は 退役後 二人で小さな自動車メーカーをつくり それなりに成功して 平和な老後を送ったという
ハンス
良い天気だ
ナァ
ハイ
大尉
おわり
1989.12.9

第11話
最貧前線

太平洋戦争末期、日本海軍は本土へ飛来する

B-29爆撃機を監視するために、

漁船を徴用して特設監視艇に仕立て上げ、

見張り役にした。

物資も兵員も底をつきかけた

日本の苦肉の策である。

不屈の漁民と老兵は、

大漁旗のもと米軍重爆に戦いを挑むが…。

初出：月刊モデルグラフィックス1990年2月号
（連載第13回、執筆・1990年1月）

雑想ノートNO.13
宮崎駿
1945年3月○○日
特設監視艇399号艇のマストに大漁旗がひるがえった
ドドドド
最貧前線

ウオオオオーーン
ウオオーーーン

キラキラ
キラ
ピカッピカ
ワァー
ワァーーン
ワァーーン

オーーン
オーーン
オーーン
B-29
100機
北上中
ボロ
ドドド
更に
第二波
接近中!!
ボロボロ

「第三波も北上中」
と　すげえ数
だなこりゃ

しらせても
防ぐ手だてが
ねえんじゃ
ウーム
物量の差なんて
ものでは
ないノォ
こげな所で
見張って
いても
ムダじゃな
オォ

「エンジン
ヤラレタ
サヨウナラ」
阿佐丸
高円寺丸ヨリ
入電
「潜水艦と
交戦中!!」
ナニッ!!
緊急電!!
「ワレ空襲ヲ
受ク…
中野丸」
ドドドド
つづけて
第二報
「ワレ沈没ス」
ムムッ

シリンダーヘッドの鉄玉を灼熱化して点火するエンジン。海軍の兵隊より漁民の方があつかい方を心得ていた。

無線器も漁船のものをそのまま使った

20ミリと12.7ミリの弾着はすごい水柱となる

ゴゴゴゴ
トントン
ガーン
ギーコ・ギーコ
ウルサイナァ
潜水艦が
寄って来るぞ
艇長 何を
おっぱじめ
たんだ?

甲板が
ぬけません
かね
かまわん
沈めば
同じだ

ちょい左
よし針金を
引鉄に
結べ

まるで
馬関戦争
だノオ
ヒヒヒ
気やすめ
気やすめ

明日も
コンソリは
来るか
ノオ
来る来る
ニギヤカに
お出迎え
しましょうぜ

朝…
ウオオオ

対空戦闘!!
おっぱじめ
るぞ!!!
ウオオー

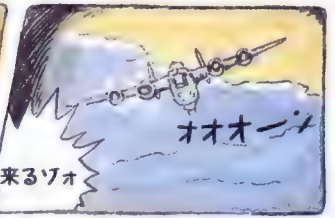
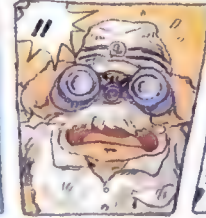
鳴らせっ
旗を
あげろ!!
漁の日々を
想い出すノォ

大漁
吉祥丸
なんか
盛り上って
来たなァ
ケムリー
バッ

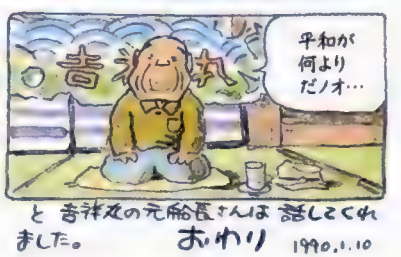
グオーン

ウオーン
ポロ
ドスッ
バッ

反跳
爆撃だ!!
ドンガラ
ガカ
機関後進
とり舵
いっぱい
ブハッ
ピョーン
オサルの
カゴヤだ
ホイサッサ
ダダダ
バシッ
ドバッ

戦争はうるさいのだ

この後すぐ南哨区も閉鎖され、吉祥丸は生き残った。
1945年8月10日（無条件降服の5日前）漁船達は徴用をとかれ、それぞれの母港に帰り、戦後の漁業の出発点になったのである。
動員された漁船400隻の内
生き残ったもの 約100隻!!

と 吉祥丸の元船長さんは 話してくれました。

おわり 1990.1.10

第12話
飛行艇時代

1920年代のアドリア海は、

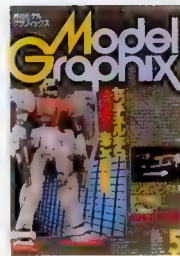
空賊と呼ばれる飛行艇乗りが徘徊していた。

真紅の飛行艇“フォルゴーレ号”を駆る豚、

ポルコ・ロッソは空賊にならず、

きままに空と海を楽しんでいたが、

ある日、強力なライバルが出現!

少女を巡って決闘が始まった!!

初出：月刊モデルグラフィックス1990年3,4,5月号
(連載第14,15,16回、執筆・1990年2,3,4月)

雑想ノートNO.14　MIYAZAKI HAYAO

飛行艇時代

キューン キュン

ドオオオ

ウオオオオーン

600馬力にチューンアップした イゾッタ・フラスキーニ・アッソ水冷V型12気筒は咆哮する。

イタリアの職人が磨きあげた木製モノコックのラインほど美しいものはない。アメリカ的合理主義などクソクラエだ

オオオーーン

ウオオ
9 空賊共には余分な燃料を節約するクセがある。稼ぎがすくなくて、ガス代がかさむリスクをおそれるからだ。
船が見えなくなったら、スグ方向を変えたにちがいない。この近くで かくれ家になりそうなのは スカファ諸島だけだ。わたしは まよわず針路を定めた。
戦斗巡航250km/h!!
速い!! ほれなおすぜ ベービー

スカファ諸島
ウオオーー

ミシミシ
ボロボロ
ヨタヨタ
オーーオ
とと… こいつは 人ちがい
島めぐりの 観光艇だ

キャー ブタよ ブタさんよ
ビリビリ
NANAMI
カワイイ〜〜
ボロボロ

こんな所で遊んでると、団体でさらわれちゃうよ〜〜

カッコイイー
キャーー
ウヒョヒョヒョ

マンマユート 出てこーい
ウオオーン

島数が少いので スグ見つかるのだ
キラリ

いた!! マンマユートの ダボハゼだ

機関銃だけは 口惜しいが ドイツ製がイイ。トルコ人の武器屋から弾丸こみで買入れた。
グオオーーーン

モグ
紅のブタだ!
モグ
コラー
人質が
いるんだぞ

こういう時は思い切りが大切なのだ。イケーッ
ウオオーン

ダダダダ

わたくしは焼夷弾も曳光弾も使わない。各銃10発づつの普通弾で充分だ。これは戦争ではないのである。
ウオオオー
ビシッ
ワアッ

後のエンジンと
ラジエーターを
やられた!!
ニヤ

弾よけだ
人質をここへ
つれてこい

これでも
撃てるかァ
ブタ野郎

よーく
聞こえてるぜ
お嬢さんよ

しかし
これがあなたを
救う唯一の
方法なんだ

ウオオーン
お前の
負けだァ
聞こえないと
思いますけど
突込んで
来るなァ

コマが足りないので一暮でケリをつける
ワアッ
人質が
どうなっても
イイのか
美少女は
世界の宝
だぞ
ダダダギュ

たたかいはおわり、マンマユート団はさっていく

おわり　1990.2.8

カーチスR3C-0 非公然水上戦斗機
（架空）

カーチスV-1400
V型12気筒
610馬力エンジン

翼幅 8.10m
全長 6.29m
全高 3.15m
カーチス航空機発動機会社製

翼面冷却をやめて
装着された
ラジエーター。
空気抵抗は増えたが
整備性は向上した。

悪漢米人 ドナルド・チャック
本機のオーナーであり改造者である。

ブローニング機銃
発射レバー

↑追加された尻ビレ

原型機 最高速力 395km/h
改造後の速力 348km/h

シュナイダートロフィーレースで活躍したスピードレーサーを改造した戦斗機。一機のみつくられた。翼巾がのばされ翼面積を増した結果 速力は低下したが 実用性は向上している。1920年代の著名なアメリカ機である。

雑想ノート NO.15　HAYAO MIYAZAKI

飛行艇時代

紅の豚シリーズ2

ポルコ・ロッソと呼んでほしい

ポルコ・ロッソの紋章は ジェノバの市章である。彼の故里であり彼は筋金入り共和主義者なのである。

←イタリア王国の紋章

これはファシスト政権のもの とても描く気にはなれない

悲劇は アドリア海 イストリア半島沖で 発生した。

オオオーーーン

マッキ M-41 戦斗飛行艇

その頃
バ・バババババ
ブスン バスン
ビハハ

エンジンを
オーバーホールせにゃ
イカンなぁ…

ついでに
パイロットの生命
の洗濯もするか

まっ白な
シーツ
美しい女達
ウヒョヒョ
ギュッ

ミラノまで
もってくれよ
エンジンちゃん

プーーーン

不時着にそなえて エンジンをだましだまし 高度を稼ぐ。 雲高1500 ようやく雲の上に出る
ブッブーーン
ブスン
ブーーン

戦斗機乗りは、本能的に見張りを怠らない。特に太陽の中は……。
前上方の視界がゼロに等しいのが、これが愛機の最大の弱点なのだ。

ウオオオ
ダダダダダ
ブスン
ワァッ
いかん!!
ウオーン
ワッハハハハ
バッバッ
フッ
やったァ
紅の豚を
しとめたぞォ
うれしいっ
これで俺も
有名悪漢ダァ
ブーン
エート
証拠を見つけ
なきゃな
あった
あった
空賊連合の
賞金は俺の
ものさ
ザアッ

敗北に言訳は不要だ

風が
しみるぜ
ハタハタ

ドドドド

ゴトン ゴトン

ミラノ ピッコロ社
MOTORO

今日あたり
来ると思って
待っとったよ
また
やっかいに
なるぜ

きれいな
船ね
おじいちゃん
近頃
こんな船を
造れる職人は
おらんよ

だれだい
あのカワイコ
ちゃんは?
アメリカに
行っとった
わしの孫じゃ
手を出すなよ

相手は
カーチスだ
あと30km/h
欲しいんだが
330キロか
ちと
高くつくぞ

オイ!!
ロールスの
ケストレルじゃ
ねえか
ヒヒヒ
出所はきくな
チューンすりゃ
700は出るぜ

有金
全部もって
くなよ
へへ…
ちっと足りねェが
昔のよしみだ
出世払いにして
やるよ

新聞は空賊の新しいエースの記事で埋められていた。
……
ポルコ ロッソは いずこ？

白いシーツ
美しい女達…

おはよう
眠れた？
あんた
徹夜したのか!?

どうかしら？
新しい
翼断面にしたの
15%は抵抗が
減るはずよ

この娘
できる!!
金属モノコック
ならイイんだけど

冗談じゃねぇ
金属のヒコーキに
乗る位なら
死んだ方がましだ
そんな事いってるから
イタリアの男は
戦争に弱いのよ

ブハハハハ
バタ
バタバタ
バタ
バタ
ドムバン

ギャー
グワアア
ヒイー
ゴオ
ガ
ビッビッ
グワワワ

イタリア人が怠け者だというのはとんでもないデマだ。一族だけの家内工場だと猛烈に働くのだ。
それにまた一族の数がやたらに多いのだ
ワイワイ
ガヤガヤ
ガンガン

あの時のフィオ（娘の名だ）の働きを思い出すと、今でも胸があつくなる。しかし、それを語るには あまりに頁数が足りない。

私は誓ったのだ。勝とう、必ず米人ドナルド・チャックのカーチスに勝とう…と。フィオの為にも、イタリアの職人の為にも

1ヶ月後 ついに紅の翼はよみがえった。
ノロノロ
つづく
1990.3.8

1929年の7月は空賊の夏と呼ばれた。イタリアとバルカン諸国の政情不安の間隙をつきドナルド・チャックあやつる新鋭カーチスの掩護を得た空賊群はアドリア海からティレニア海にまで進出 稼ぎまくったのである。

ポルコ・ロッソ

ポルコ・ロッソ
紅の豚シリーズ
最終回です
ホントか???

出発の朝

いっしょに行くだって!!

冗談じゃねぇ
賞金稼ぎなんざ
カタギの娘が
やることじゃ
ねえぜ

カーチスと
やりあうなら
ちゃんとした
整備員が
要るわよ

請求書

あんたに
勝ってもらわんと
こいつがパーに
なって一族が
路頭にまようからよ

それでも
祖父か

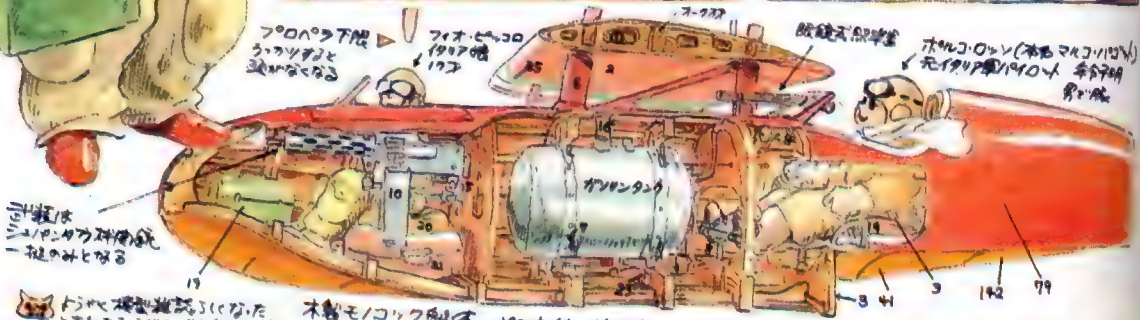
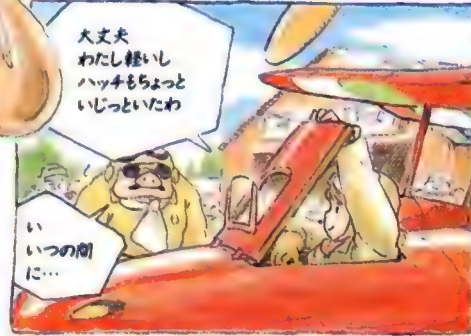
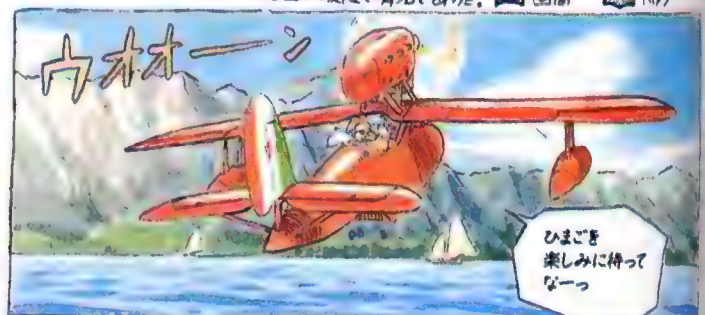
大丈夫
わたし軽いし
ハッチもちょっと
いじっといたわ

い
いつの間
に…

しゃあねぇ
一隻あずかっとけ
横流しするなよ

ヒヒヒ
フィオに
手を出すなよ

ブー
ブー
ブー

プロペラ下限
フィオ・ピッコロ
ガソリンタンク
木製モノコック艇体
1920年代のイタリア艇は凹面の艇底で有名であった。

給油によったコルフ島で
いやなニュースをきいた
ユーゴの国王がよ 空賊と密約したらしいぜ
歩合をとって黙認するって噂だ
空賊狩りをやっても
賞金は出ねぇぜ
イタリアのムッソリーニと同様ユーゴでもアレクサンドルというロクでもない男がクーデターで独裁者になったばかりであった。
この数年後にはヒットラーがのし上って来る。
イヤな時代だなぁ
ステキな
かくれ家ね
まってたぜ
紅のブタ野郎
ゾロ
カワイイ
ねぇちゃん♥
ゴミゾロ
また きたねぇのが 沢山出てきやがったな
モワー
時代は変わったのだ
お前の負けだ
ゾロ
(紙数のせいで省略)
どうせ言う文句だ
やつの飛行艇を
タタキわっちまえ!!
イイカゲン
にしなさい
あなた達
それでも
イタリアの
飛行艇乗り!?
アメリカのカーチスに
助けてもらって
よく平気ね!!!
ポルコ・ロッソは
イタリア艇の誇りと
名誉のためにカーチスと
一対一の戦いに来たのよ
お母さんが
きいたら
きっと泣くわ!
おまけに
お風呂に入って
ないでしょう
歯みがいた?
おもしれぇ
話に
のるぜ
サッソウ
ドナルド
チャックとは
俺のことさ
クソッ
もっとコマを
でかくしろ
オッ イイゾ
どアップ
フキ出しが
ちいせぇなァ
俺が勝ったら
あんたを
もらうぜ
バサッ
ポルコが勝ったら
この請求書は あなたが
払うのよ
か かおが
……
アッケ…
たちまちルールと
日どりが決められ
空賊共は ひきあげていた。
夜
テントは くさいので
野宿になった
フィオ
ねむれ
ねぇのか?
請求書を
水増ししとけば
よかったね
損しちゃった
ハハハ
ちげぇねぇ
やがて
フィオは 安らかな
寝息をたてた
イイ子だ
ほんとに イイ子だぜ

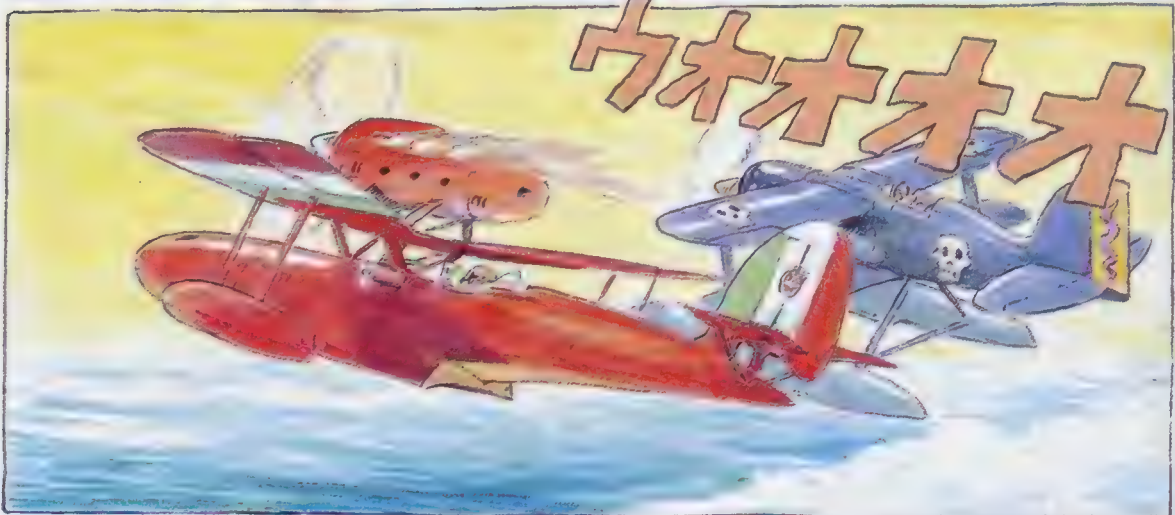
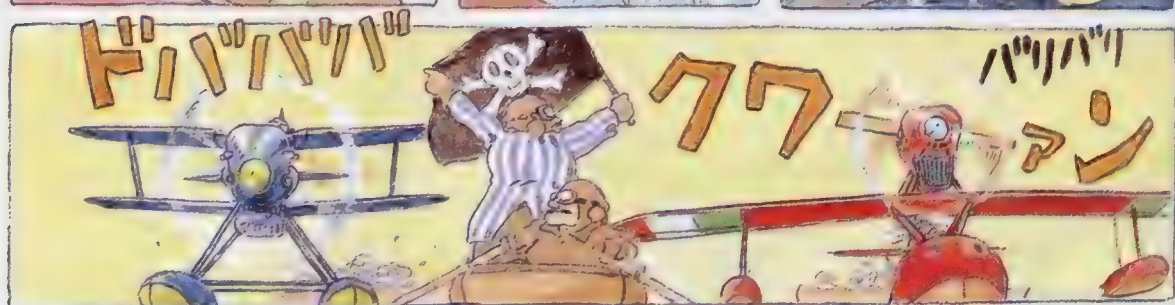
当日 スカファ諸島は 大変なにぎわいになった。地中海中から空賊、海賊、ギャング、密輸団があつまってやったのである。近所の村の連中も家族づれでやって来る始末
ワー
ワー
クワー

今でも この日のにぎわいは アドリア海沿岸で語りつがれているのである。

フィオの人気はたいしたものだった。みんなが一緒に写真をとりたがり空賊共すら歯をみがいて来たのだ。
オスナ

イタリアの職人とフィオのために

完璧な信頼

全世界の男達のために
アリゾナのママ
まっててくれよ
イタリア娘の
嫁っ子を連れ
て帰るからよ

ドバババババ
クワーーァン
バリバリ

ウオオオオオ

はじめから猛烈!!なドッグファイトになった。
す スゲェ!!
アニメーションなら この壮絶な死斗を あるいは表現できるかもしれない。
でも これは模型雑誌である。諸兄の想像力に期待するしかないのである。

速力はカーチスがややまさり
ボフ
上昇力は同等
旋回性能は愛機がまさっていた。
オ 俺 感動しちゃった
二人とも イイ腕してらぁ
こんな 空戦は二度と おがめねえぞ
ジ〜ン
ワァー
エー アイスクリーム つめたい ワイン

ついに燃料と弾丸ぎれ
引きわけなんか なしだぞ
オウ ゲンコツで 決めてやるぜ

第1ラウンド
この! この!
ドカッ
スカッ
ボスッ
中年ブタめ
バカ
ボカ
イモ カーチスめ
ザバー

第3ラウンド終了
ゼイゼイ
クソッ
次の回で ノックアウト してやるぜ

第13ラウンド終了
フィオ いまのパンチ 見たか
ゼイゼイ
ヒヒヒ

第23ラウンド
ワー
ボカッ
わたしは11回 ダウンし、やつは 7回しかダウン しなかった。 しかし 7回目の あと やつはつい に立てなかった

ワッハハハ!

イタリアを訪ねるなら ミラノのピッコロ社によってほしい その玄関にカーチスの方の飛行艇が今も かざってあるから…。

おわり 1990.4.9

第2次世界大戦の陸の王者、

ドイツのティーガー戦車には、

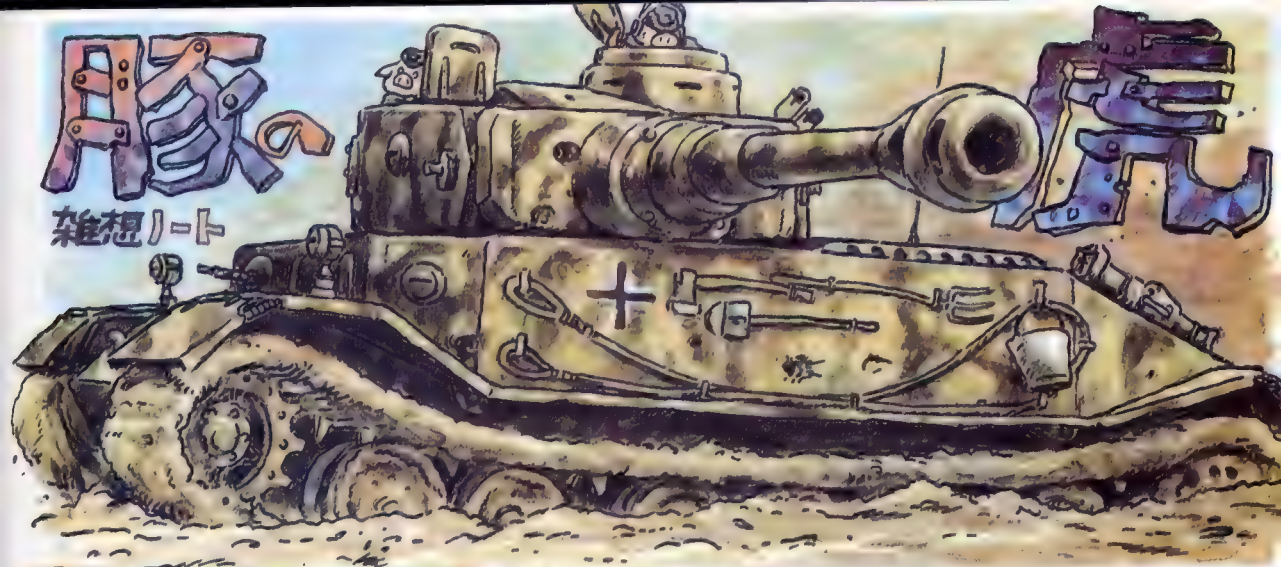
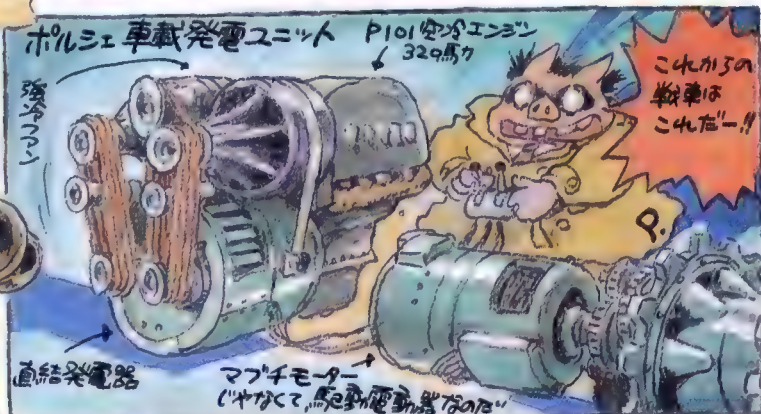
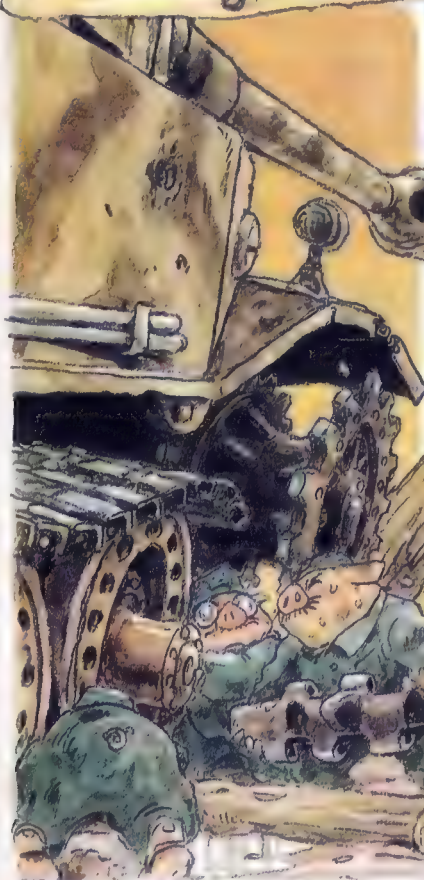
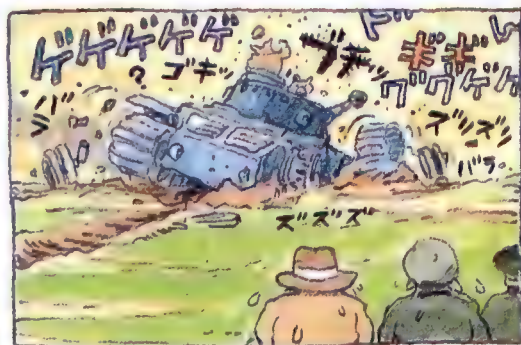
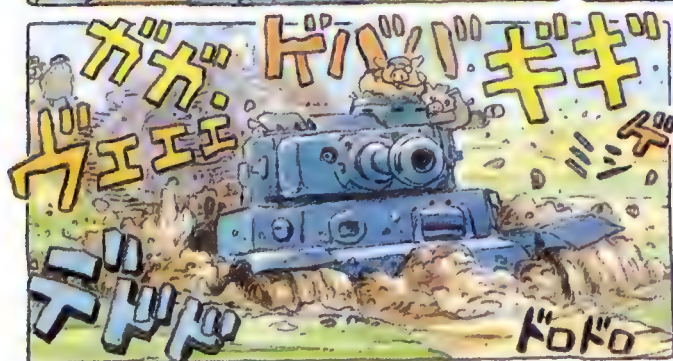
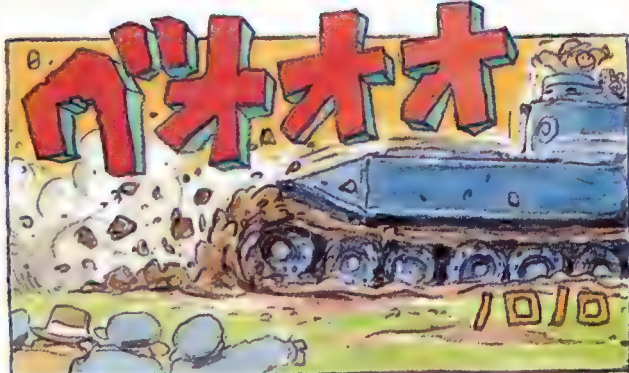
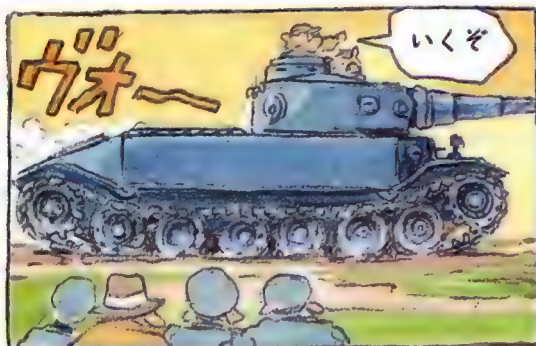
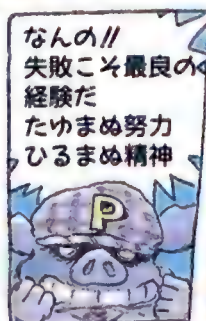
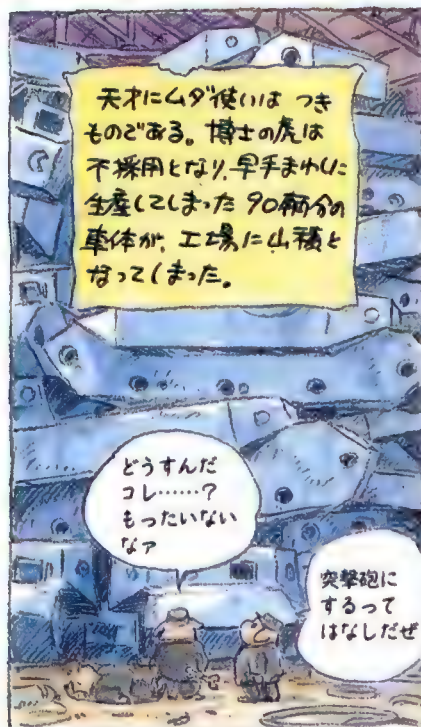
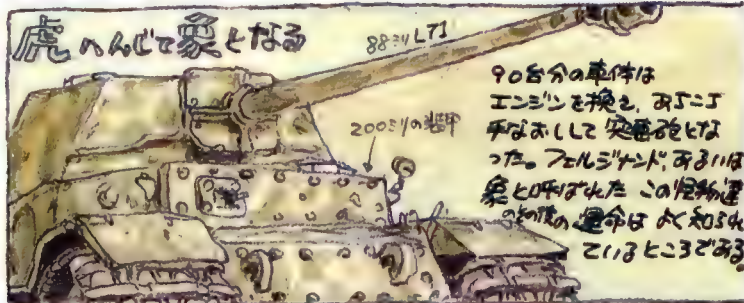
天才科学者ポルシェ博士が作った

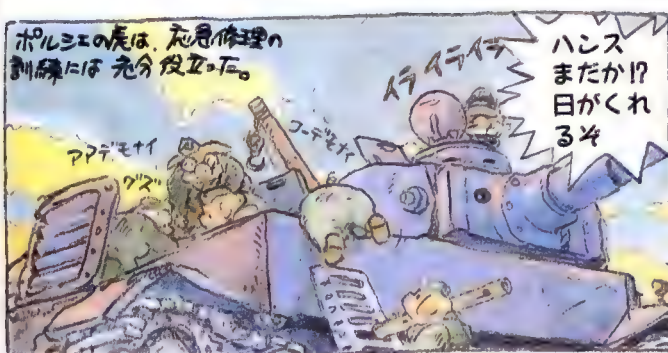
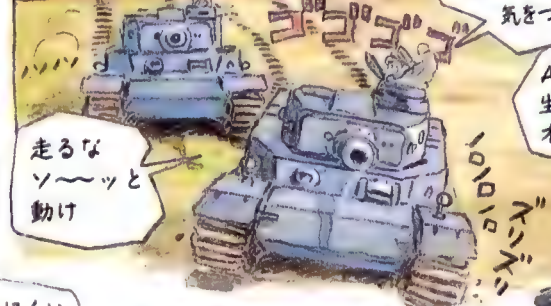
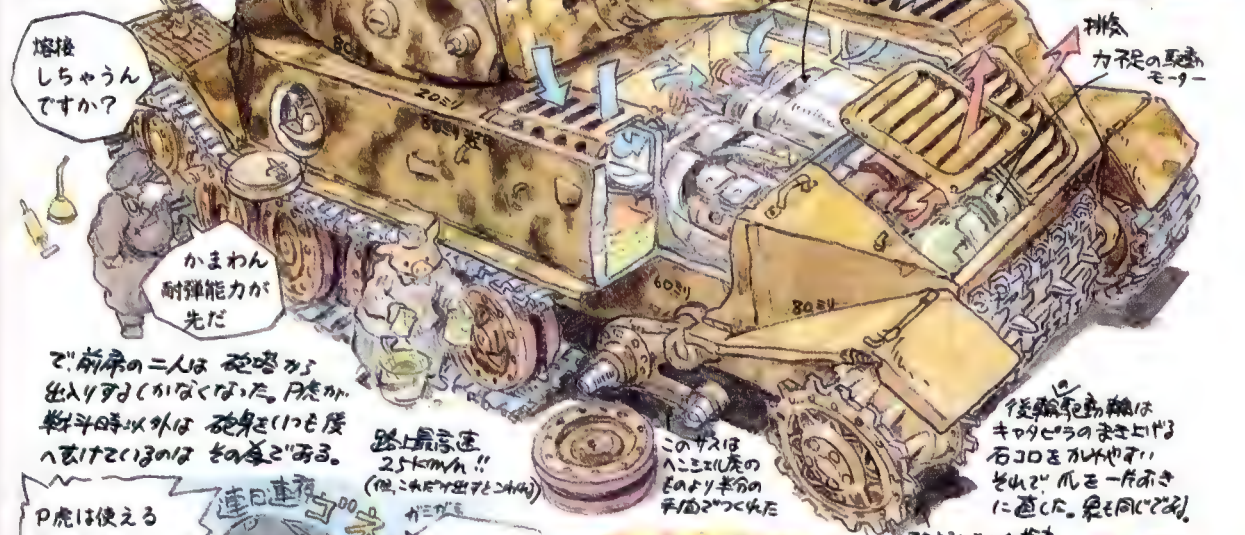
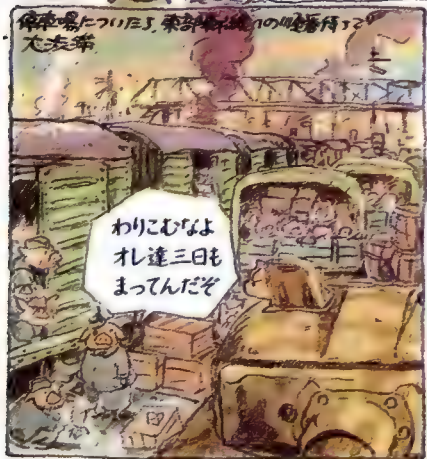
弟分が存在した。

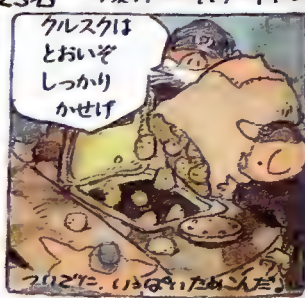
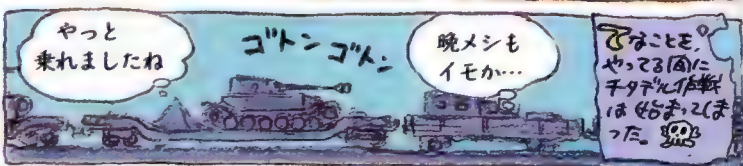
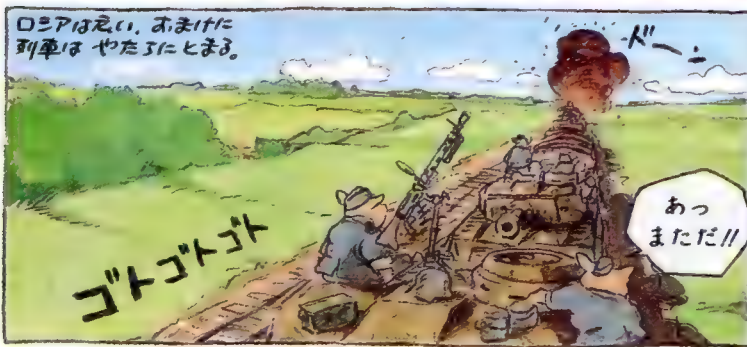
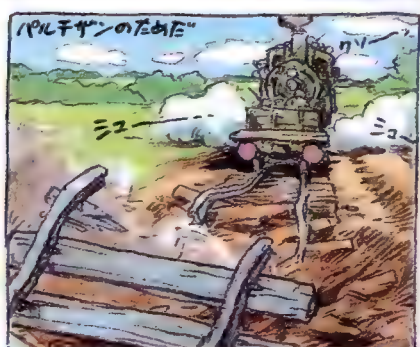
だが、その厄介な構造ゆえにトラブル続出！

整備兵ハンスは、脆弱な鋼鉄の虎の

故障と戦い続けるハメに…。

初出：『宮崎駿の雑想ノート』初版本1992年12月発行
（描き下ろし作品、執筆・1992年10〜11月）

豚の虎
雑想ノート
生玉子にのった鋼鉄の塊―それがドイツ重戦車群だった。この怪物達は動くだけで壊れるようにできていた。強力な火力と装甲の大重量が、デリケートな機関と足まわりにすべてしわよせされ、すぐ過熱し焦げ、ちぎれ、はずれ、すりきれ、埋まりこんだのである。ドイツ重戦車の戦史は重労働と忍耐の物語そのものであった。
兵長ハンス
(H)
(P)
ドイツには、2種類の虎がいた。ひとつはヘンシェル社の有名な虎で、VK4501(H)。こいつは1300輌つくられ、ドイツ重戦車のシンボルとなった。
もうひとつは、超独創的デザイナー、ポルシェ博士の虎、VK4501(P)。例によって、天才博士の道楽の産物だった。
ポルシェ車載発電ユニット
P101空冷エンジン
320馬力
強冷ファン
直結発電器
マブチモーター
じゃなくて、駆動電動器なのだ
これからの戦車はこれだー!!
P.
彼は虎を電動にしたのだ。モーターにすれば、複雑で重いトランスミッションが要らないし、スイッチひとつで前進も後進も自由自在。まさに、重戦車の鉄人28号化である。
彼は天才だったのだ。
キヤタピラ一枚で30キロはあるのだ。
かくて
できた!
発電ユニットとモーター二組をつめこんで重さ57トンの怪物ができあがった。

ここで本編は、ようやく主人公の登場をむかえるのである。

戦車整備兵長ハンス

ポルシェの虎は、応急修理の訓練には充分役立った。
イライライラ
ハンス まだか!? 日がくれるぞ
アアデモナイ
コーデモナイ
グズ
重戦車の整備はセッカチな奴にはむかない
グズ
どのパーツをとっても、死ぬほど重いのだ。象ガメのごときテンポの持主でなければならない
モゾ
あっ そうか… ここだ
なおりましたよ アレッ!? みんなねてらぁ…
ハンスの努力で P虎はすこ～しづつ動くようになっていった。おどろくべく、ドイツ整備兵の力!!!!
ゴゴゴゴ
ハハハ
コラッ ブレーキふむな こわれものだぞ 気をつけろ
走るな ソ～～ッと動け
A7V以来の生残りはオレだけだ
ズリズリ
重戦車教育学校校長 ドランニシ予備大尉 開戦で現役復帰したオヤジ
ポルシェ ティーガー
P虎 57トン
使いにくいナァ～
後輪駆動のP虎は、他のドイツ戦車にくらべ、砲塔が前へせり出している。変速器がないためだが、その為に車体上部にハッチがなく、側面に円形ハッチをつけていた。しかし……
砲塔はヘンシェルの虎にも使われたが、P虎のものは、天井に妙なでっぱりがあり、全体がペッタンコである。
100ミリ
装甲100ミリ
25ミリ
80ミリ
20ミリ
80ミリ 装甲
P101エンジン
この空冷V型10気筒の不調が致命的だった ハンスは圧縮比を下げ馬力を低下させてなんとか安定性を向上させた。
88ミリ L56砲
排気
九74の駆動モーター
溶接しちゃうんですか?
かまわん 耐弾能力が先だ
60ミリ
80ミリ
で、前席の二人は砲塔から出入りするしかなくなった。P虎が戦斗時以外は砲身をいつも後へ向けているのは その為である。
路上最高速 25km/h!!
(但、これだけ出すとこわれる)
このサスはヘンシェル虎のものより半分の手間でつくれた
後輪駆動輪はキャタピラのまき上げる石コロをかみやすい それで、爪を一枚おきに直した。象も同じである。
てきとうにかいた歯車
P虎は使える 使えるようにした A7Vよりは よっぽどましだ
連日連夜
ゴゴ
ガミガミ
俺達もクルスクへいかせろっ!! クルスクだ
闘魂
いくぞ とめるな
きまりだ!!
やったあ!
ハンス 出動準備 ロシアの平原が俺達を呼んでいる
あんまりドランシがうるさいので、P虎の出動が許されたのだ

前進!!
速力4km/h
ゆっくりいくぞ
P虎実験小隊
656重駆逐戦車連隊(臭部隊)に編入
支援車輌が足りませんぜ
本部のケチ共め、ナ~ニ戦場にいけばトラックなどゴロゴロしとるわい
P虎は2両
のこり3両は使いものにならないのでパーツ用になった
クレーン車
型式年式不明
トラック3両、型式年式不明
パーツをギッシリつんでいる
総員 23名

停車場についたら、東部戦線への増援待って大渋滞
わりこむなよ
オレ達三日も
まってんだぞ

まってる間も食わねばならない。
食糧はとまってる貨車にいくらでもある
ドロボー
自給自足ですね
われわれは員数外だからな

クルスクはとおいぞ
しっかりかせげ
ついでに、いっぱいためこんだ

ロシアは広い。おまけに
列車はやたらにとまる。
ドーン
あっ
またた!!
ゴトゴトゴト

パルチザンのためだ
シュー
シュー

空襲も始まった
タタッ
よろこべ
戦線は
近いぞ

噂じゃ
こんどの作戦も
うまくいってない
みたいですね
ゴトン
ゴトン

まあ当然だな
戦線を広げすぎ
たツケだ
負けいくさと
判ってるのに
なにもワザワザ
……

すれちがう列車は負傷者でいっぱいだ

ふたりは まだ知らなかったが、その頃クルスクの平原はドイツ戦車の墓場と化しつつあった。

ナンタラスカヤから20km。
列車はまったく動かなくなった。
はじめて砲声をきく
ズーン ズズーン

これ以上は
ヤバそうですぜ
もどりやしょう
俺達は
前進する

実験小隊だけを弧線にのこして、列車はもどっていった。
こんな所で
おろすん
ですか!?
ボッボッ

プラットホームもクレーンもない所で虎をおろすのは大仕事だ。
すぐ明るく
なるぞ
ガンバレッ
マジかヨー

この虎は信地旋回するおぼつかないのである。貨車と同じ床さ高さのはり出すしかない。
このプラットホームを、枕木とスコップだけで造ろうというのである。
ソ連軍は
すぐ近くに
いるぞ
エート
枕木1200
本として
ひとり…

たちまち朝になった
偵察にいってくる
手を休めるな
と中のエキでガメたチャリンコ

ゾロゾロ
ゾロ
ドロドロドロ
ワガ軍が
退却中
だ!!

戦闘騒音だ
近いぞ!!
屋根を
こわすんじゃ
ないよ

ズーン ズズーン ドロドロ

来た!!

敵戦車が
来るぞ!!
5分しか
ない
ゼイゼイ
戦闘
準備!!
エーッ!

乗車!!
エンジン始動
ハンス
おろすぞ!!
ワー
まだ
ムリです
ゼイゼイ
なんとか
おろせ!
このままじゃ
ただの標的だ

当時の戦車の視界が、どれほどのものか知りたい人は次のような実験をしてみよう
私はやって、警官にオコラレタ。

照準孔に
何かひっかかった!!

2号車

全然
見えません!
照準不能!

グヮッ

1号車

ワワワ!!!!
ワワワァン

その砲塔内

これらのコマはほとんど同時に発生して、順番が決められない。それが陸戦だ?

ヒー
ついてくれなかった

なんでも
イイ
うてっ

パウ

わあっ
パーツのトラック
がやられた!!

うてェ
うちまくれ

2台のP虎は身動きとれないまま、はじめての実戦を経験した。ひたすら撃ちまくるしかない

今のはさぐりだ
本格的に来るのは
これからだ
ここにいたら
全滅する
すぐ移動するぞ
ハンス
30分で
2輌共
おろすんだ
エ――ッ
3時間でも
あやしいのに
残弾を
しらべろ
補給は
ないんだ
ハラ
ヘッタ～

俺は
偵察に
いってくる
状況が
ぜんぜん
判らん
シャカ
シャカ

また重労働がはじまった
ヨレ
ゼイゼイ
ヒイ
コラ
ねるなよ
クソ
重い…

苦闘の1時間後
カガダダ
あきれるばかりの粘りで
ついに戦車はロシアの
大地におりたったのである。

ワーッ
やったあ!!
まって!!
キャタピラの
調節がまだ

ガガギギ

あ

キャタピラ
はずれ
ちゃった…
こうなると
オオゴトな
のである。

敵襲!!
来たぞーっ
シャカシャカ
もたもた
するなーッ

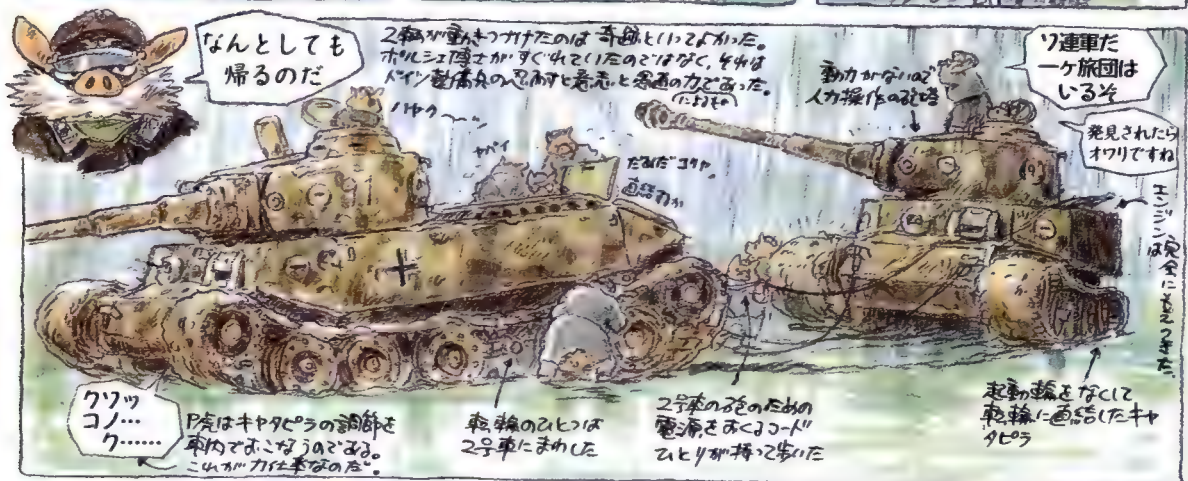
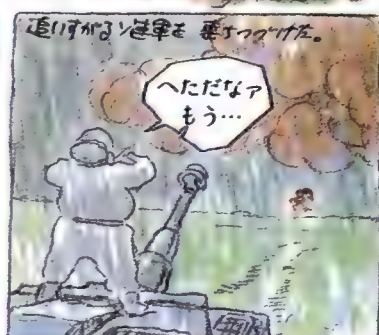
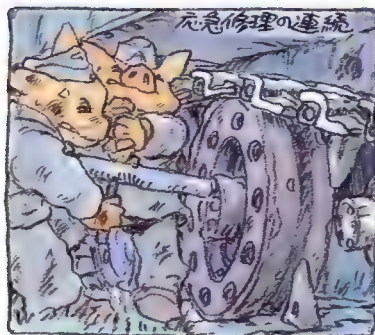
500m以上
ならこの装甲は
ビクともせん
装甲さんじょう
遠距離砲戦!
2000mで
うつぞ
よーく狙え
ムダ弾丸を
使うな
ハンス
早く
なおすんだ
エ――ッ
いまですか?

カウッ
テエッ!!

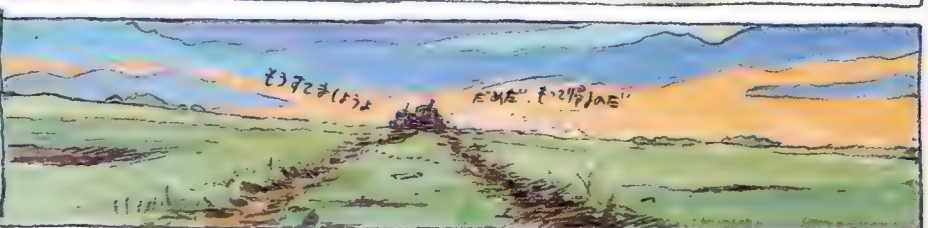
ティーガーはHもPも砲塔の旋回がおそいのである。

キャラ キャラ キャラ キャラ キャ
きたぞ!!
ザザ
距離200
はずすな
まだ
見えま
せーん
ゴゴン
ウヒャア
近い!!
この時代の戦車は、現代の
戦車とちがって、停止しなければ
正確な射撃ができなかった。
ブグッ
ワワッ
キィィィーン
やられたァ!!
コナクソッ
うてェ!!
グワッ
ズバ
キャラ キャラ キャラ
ワーッ
ヘタクソッ
ハズしちまった
クッ
グワー
ゴ…
ごめん
次弾
いそげ
はやく!!
ソ連戦車は P虎
めざして突進して来た。
機動力にすぐれるが
火力でおとるT-34
は、ドイツ重戦車に
しばしば突撃を敢
行した。彼等は勇
敢だった。
つっこんで
来るぞ
体当りする気だ
ワ〜〜ッ
ぶつかるぞ

マズイ!! だんだん ただの戦争マンガになってしまった

再び ハンス達の おそるべき努力により、その日の夕刻 P虎実験小隊は 退却を開始した。時速3〜4km、15分おきに停車点検を行いつつ、24時間ブリの食事を 歩きながらとった。

2輌のP虎は スクラップになりつつも、ソ連軍の追撃をすりぬけて本国に帰りついた。その道は やがてドイツ装甲軍の敗退と崩壊の道になったのである。

二人は またまたポルシェの新超重戦車につきあわされたのであった。オワリ
1992.11.4

雑想トーク 宮崎駿×富岡吉勝
DAYDREAM TALK

虎戦車にまつわる雑学と妄想

第13話「豚の虎」は、1992年夏に映画「紅の豚」が公開され、宮崎監督の長い夏休みが終わったあと、同年末に発売された「雑想ノート」初版本用（現在絶版）に描き下ろされた作品である。その記念として、「雑想ノート」の連載誌である「月刊モデルグラフィックス」誌上にて対談が行われた。対談のお相手は、ドイツ戦車研究家であり模型設計家の富岡吉勝氏であった。富岡氏が翻訳したドイツ戦車関連の書籍の愛読者である宮崎氏と、「ナウシカ」ファンの富岡氏との顔合わせである。そんなお二人の会話は、まるで幅広で重いティーガー戦車のキャタピラのように、ややこしくじわじわと、そして趣味丸出しで進むのだった。

GUEST PERSONALITY
富岡吉勝
Yoshikatsu Tomioka

◎1944年北海道出身。宮崎氏の愛読書である『ジャーマンタンクス』、『ティーガー・無敵戦車の伝説』、パンツァーフォー』、『奮戦、第6戦車師団』等の書籍（大日本絵画刊）の翻訳を手掛けた。欧米の戦記資料の翻訳や、海外の博物館での実車計測など、氏が20年以上前から続けられた精力的な研究により、ドイツ戦車の実像がずいぶん明らかになった。本職は模型設計家。グンゼ産業のパンターG型、Ⅲ号、Ⅳ号戦車等のスケールモデルの設計、モデルカステン社の1／35スケールの戦車用連結式キャタピラの設計及び開発を手がけ、いずれの製品もその精密感と正確さは世界的に高い評価を得ている。

エンジンなんて信用できない

――『雑想ノート』で宮崎さんがポルシェティーガーの話を描いてくださった途端に、まるで待ってましたとばかりに、英国の模型メーカー[*1]から1／35スケールのポルシェティーガー[*2]が発売されました。

宮崎◆（模型を見ながら）これが製品化されるようじゃ、もう末期的ですね。こんな物、製品になるんですかねぇ…？

ここ（機関室上面のグリル）、間違えて描いたんだよね。ここにね、機械駆動の強制冷却ファンが入ってるんですよ。それでこれがエンジンに空気を送り込んで、エンジンにもファンがついていて、その冷却気がこっちから外に出る。二組ずつここについているのね。それは本に出てるのを読んでわかったんだけども、描くの忘れた。フシシシ！　そういうことはもう無数にあって…、恐ろしいですね。しかし、こんな物売れるんですかねぇ、心配ですねぇ。

――しかし、こんなに砲塔が前のほうについてたら、操縦手席はさぞ狭かったでしょうね。

宮崎◆日本陸軍の戦車じゃあるまいし、車長が足で蹴って操縦手に指示をしたわけじゃないでしょうけどね。

この戦車は操縦手席の後ろにアームがついているんですよ。なんか蹴っ飛ばされないようにするのか、あるいは装填手（そうてんしゅ）がひっくり返って、操縦手のほうに転げ落ちないようにするのかね。なんかよくわかんないんだけども…。モックアップの写真とか、写真の変なところばっかり見てるうちにだんだん気持ち悪くなってきて…、人格が歪んでいくような気がして。フハハハ…。

小林源文[*3]さんが『モデルグラフィックス』の劇画で戦車のキャタピラを克明に描いているから、好きだなぁと思って呆れてたんだけど、自分がやるハメになって…。結局わかったんですけど、飛行機に比べて戦車っていうのは動きが少ないから、描いてて気が晴れないのね。それで貨車から降ろそうと思っているうちに降りなくなっちゃって、ページ[*4]はどんどんなくなってくるし、ああ、だめだ！って、結局動かないで終わってしまった。

この横っ腹、これ（ポルシェティーガーの模型）には工具なんかが色々ついているけど、試作型なんて何もついてないですからね。まったくモロに80ミリの装甲板がベロッとついているだけで、あれ見るとドイツ人って頭がおかしいんじゃないかと思いますね、テヘヘヘ。

富岡◆僕はこれで食ってるから、悪口言うと罰があたる。わはははっ！

宮崎◆フシシシシ！　この電気駆動ってやつは、もっと軽い車体に積んで、出力がもっとあれば実用化できたんですかねぇ。

富岡◆まぁ、こんな電車のモーターみたいな物をくっつけてたんじゃ、走り出すまでにガッチャンっていってね、ブーンって感じで時間がかかったでしょうね。

宮崎◆それでね、動き出す時ってものすごく電気を食うでしょ。

富岡◆だけどね、走ってるエレファント[*5]の記録フィルムを見るとけっこう速いんですよ。おそらくああなるまでが、モタモタしてて大変なんでしょう。

宮崎◆あの、VK30[*6]…なんとかでしたっけ、ポルシェの。あれは60km/h出るって本に書いてあるでしょ。あれなんかも加速に延々と時間をかけて

60km/h出したんでしょうね、ツハハハ。結局、その後も電気駆動の戦車っていうのは、どこの国の誰も実用化してないでしょ。

宮岡◆使い物にならないでしょうね、あんな物は。

宮崎◆だから僕はいまだにポルシェってあんまり信用してないんだけども、イヒヒッ。やっぱり変速機を作るのが大変だったから作ったんでしょうかね。

宮岡◆あのころはまだ変速機自体が完成されていなかったから、試行錯誤の段階でできただけの物ってだけで…。

宮崎◆結局、ヘンシェル[*7]のほうも変速機のことでずっと悩みますよね。

宮岡◆重たいのに、大馬力かけてね…。

——『パンツァーズ・イン・ノルマンディ』[*8]でもドイツの戦車連隊が交換用の変速機が足りないといって、大騒ぎしているようなことがずいぶん書かれていますが、やはり変速機の消耗というのが一番激しかったんでしょうか？

宮岡◆だって、年中切り替えて…。

宮崎◆見る見るうちにギアが鉄粉になっていくんです。ワハハハ、ジョリジョリになっていくんですよ。

宮岡◆だいたいがアンダーパワーだから、年中ギアを落としてフル回転させるでしょ。だから、すぐにガタガタになっちゃうんでしょうね。

宮崎◆だから僕はね、あれ（ティーガー重戦車）を戦争に使えたのはドイツ人だけだと思うんですよね。ドイツの整備兵が死に物狂いで頑張ったから使えたんですよ。

日本人[*9]はもちろん、アメリカ人だって絶対に使えなかったんじゃないかなと思いますよ。

宮岡◆飛行機にしてもね…、僕らは昭和20年代の物しか知らないけど、それだって、そりゃひどいもんですね。それ以前の機械を使って戦争をしたっていうのがねぇ。どうしてできたんだと思うんですよ、あんなエンジンでね。

宮崎◆そうですよ。

宮岡◆でもね、よく考えたら今のＦ１と同じでね。１機に３人くらい整備員がついて、飛ぶたびにバラして整備して…。それしかエンジンを回す方法がなかったんですよね。

宮崎◆今の若い人はね、エンジンってのは最初から回るモンだと思っているでしょ。チョークの調整なんかも全部コンピュータかなんかがやってくれるしね。だからエンジンってのはスイッチひとつで回ると思ってるんです。

僕の子供の時はね、エンジンってのはかからないモンだと思っていたんです。とにかく見てる前ではかからないモンだとね。バスでもなんでも、いちいちクランクを回してね…。

宮岡◆僕なんかも昭和30年代にブルーバードに乗っていた時、よくバッテリーが上がるんで、原宿あたりで停まっちゃって、クランク回してました。

宮崎◆僕はずっと乗用車が２ＣＶ[*10]だったから、6ボルトの時代は夏でも冬でも延々と手で回してました。あれは軽くてコンプレスが少ないから、ヒャーッと回っちゃうんですがね。

だから、いまだに信用してないです、車のエンジン。きっとどっかでごまかしているんだろうってね、イシシシシシ！

垂直にそそり立つクルップ鋼板

宮崎◆これねぇ、なんかやんなっちゃうんですよね。Ｉ号戦車[*11]作ってから、こいつ（ポルシェティーガー）を作るまでって、あんまり期間がない[*12]でしょ。色々な試行錯誤をやってる暇がないんだよね。作っちゃった奴は使わなくちゃいけないみたいな…。6トンくらいの戦車に乗ってた奴が、いきなり50トンの戦車に乗せられたらショックでしょうね。

宮岡◆そうですね。それにしても、あの開発期間の短さはすごいですね。

宮崎◆すごいですよね。僕ね、これ不思議に思ったんスけど、これ後輪駆動でしょ…後輪駆動っていうのかどうか知らないけども…。ということは、前輪に一応歯車はついてますけど、これはただの誘導輪でしょ？　そうすると、ここに垂直と水平の装甲板をつけるよりも、斜めの一枚装甲[*13]にしたほうが耐弾能力も向上するし、重量も軽減されるんじゃないかと思うんですけど。

宮岡◆そのころは、装甲板に斜めの角度をつけて敵弾の貫通力を減殺しようなんて全然考えてないですね。

宮崎◆ドイツ人はね、垂直におっ立てたクルップ[*14]の鋼鉄で跳ね返すんだってね、ウシシシ。

宮岡◆厚さが100ミリあるから大丈夫なんだって、ワッハハハ。

宮崎◆ここが垂直なのは、ペリスコープとかそういうこととの関連なのかな…ってことも思ったんですけど。使いにくいんじゃないかなぁ…とかね。

——あと前方機銃がつけられないとか。

宮崎◆でもマチルダ（英軍の歩兵戦車）なんてすぐに前方機銃なんかあきらめてるじゃない。…でも、戦車の前方機銃っていうのは、戦車に随伴させる兵力の足りない軍隊の物なのかなって思ったりもして。

宮岡◆あれは当たらなくてもいいんですよ。前方機銃は撃ってるといいんですって。

宮崎◆機銃手の気が休まるってことでしょ。撃ってれば敵兵が近寄ってこないんでしょうね。だからあとで（ドイツ戦車の）前方機銃は突撃銃[*15]になっちゃうでしょ。えーっとＭＰ44でしたっけ？こんなところに機関銃つけてもしようがないってんで。

——でもあの重い車体から撃つんですから、安定性がよくて前方機銃の命中精度はよかったでしょうね。

宮崎◆遠距離を落ちついて撃てばね。

『豚の虎』を執筆中の宮崎氏（'92年10月9日、新築のスタジオジブリにて）。その執筆方法は、下書きなしで水彩用紙に一コマずつ鉛筆で主線を描き、着彩していくというもの。そしてそのコマが気に入れば次のコマに進むという、およそ普通のマンガ技法からは掛け離れたものだ。これは頭の中に完全に仕上がりイメージが完成していなければ出来ない、驚くべき技法である。下は、宮崎氏の要請で担当編集者が一夜で製作した作画参考用の模型。当時はポルシェティーガーの模型は発売されていなかったため、ティーガーＩ型とエレファントの模型を合体して製作された。

富岡◆日本やドイツなんかは一応前方機銃に照準眼鏡をつけてるけど、アメリカなんかペリスコープから覗いて前方に弾をばらまくだけだね
宮崎◆弾薬の補給のことなんか考えなくていい軍隊のやることですからね。
―― 最初のM３スチュアート（米軍の軽戦車）なんてすごいですよね。５挺ぐらい機関銃をつけてて。
宮崎◆幼児性の現れですよ。ようするに西部劇の２挺拳銃でしょ。それでその戦車の上で戦車長がピストルかなんか構えちゃってね、ワハハハッ！　どうも軍隊っていうのは、その民族の幼児性ってのが出てきちゃいますね。
富岡◆そうか、あれは幌馬車の輪形陣を１台でやっちゃおう、っていうわけか！
宮崎◆まぁ大量生産で（機関銃を）いっぱい作っちゃったから使わなくちゃならないってことだったんでしょうね。日本中が信号機だらけになっちゃったみたいにね。
　でもこの（ポルシェ式の）足回りはどうだったんでしょうね。ダメだったんでしょうか。こっちのほうが作るのは簡単そうですよ。確か[*16]１／２の手間でできるんですよね。
富岡◆取り外しも簡単だったしね。
宮崎◆あの[*17]ヘンシェルの転輪を見て、バラすことを考えると頭がクラクラしますね。ちょっと大変でしょ。（ボルトをゆるめるのにも）レンチを足で蹴っ飛ばしたりなんかして。
富岡◆それにサスペンションを外すためにはエンジンを外さなきゃならなかったんでしょ。
宮崎◆そうですね。
―― 足回りだけはポルシェを使ったほうが良かったんじゃないでしょうか。
富岡◆う～ん、だから[*18]ヤークトティーガーで、また使ったりしてるよね。ただサスペンション自体の性能はヘンシェルのほうが良くて、ポルシェ式は速度を出すと振動がひどかったらしいですね。
宮崎◆結局、ポルシェのほうはかろうじて動くというだけで…。
富岡◆生産性とか、交換しやすさとか、まぁこれにも少しは利点があるということですね。
宮崎◆あまり誰も気にしないようだけど、[*19]ＫＶ１の足回りは、まぁ丈夫かもしれないけど、乗り心地とか安定性とかはあまり良くなかったんでしょうね。あれだけで支えているわけでしょ。まぁ、重い重いって言っても、これ（ポルシェティーガー）よりは軽いわけだけど。
富岡◆ＫＶ１の走ってるフィルムを見ると、なんか波打つように走ってますね。すごく速く感じますよ。
宮崎◆キャタピラの上がぬらぬらって動くでしょ。でも本当はそんなに速くないんじゃないでしょうか？　どうなんですかね。戦車って、わかんないことだらけなんだよね、実をいうと…。

「こんなものが製品になるなんて…」二つのポルシェティーガーの模型（灰色が作画参考用、明るいほうがアキュリットアーマー社製）に見入り、呆れ返るお二人。それまでの模型は大活躍した兵器が製品化されるのが通例で、試作に終わっただけの車両が発売されることはまずなかった。

ドイツ戦車の人気の秘密

宮崎◆なんでドイツの戦車ばっかりが模型ファンの間でもてはやされるのかっていうと、やっぱりこの剥き出しの幼児性が受けてるんでしょうね。
富岡◆でもなんなんでしょう。フィルムなどを見ても、[*20]Ｍ４シャーマンなんかが出てきても別にどうとも思わないんだけど、ドイツの戦車が出てくると、なんかかっこいいなって思うんですよ。なにか不気味な雰囲気でね。
宮崎◆ポーランドが作った『鉄十字』っていう、あんまり売れなかった映画があるんですが、それなんか見てるとドイツの帝国騎士団が、白地に黒い十字の揃いの鎧を着てね、今のリトアニアあたりでうわーっとポーランドの騎士団と衝突するんですよ。それがかっこいいんだよね、ウシシシッ。真っ白でね、黒い十字がバーッとマントに入ってて、揃いの兜に孔雀の羽をくっつけてね。修道士みたいなんだよね。連中は突撃する時も大合唱しながら来るんだよ。
　それに比べてポーランド軍は鎧がみんなまちまちなんですよね。まぁ、まちまちな鎧を作るっていうのは大変な努力なんですがね、とにかく田舎って感じがするんですよ、ワハハッ！　そのころから延々と、ドイツの装甲軍団っていうのは、東に向かって突撃してはやられてね。そうしないと、東方の蛮族がヨーロッパの中原を侵すって心配して。いつの間にか自分たちが、ヨーロッパの守り手みたいな錯覚を起こすんですよ。
　第２次大戦でも、ドイツの生き残りの兵隊にはそんなことをいってるやつが多いんですよね。[*21]パンツァー・マイヤーだの[*22]ルーデルとか、あの[*23]『鉄の棺』の著者とか。
―― [*24]『空対空爆撃戦隊』の著者も、もう繰り返し繰り返し、そんなことばっかり言ってますよね。
宮崎◆本当のことを言うと、僕はこっちのほう（ポルシェティーガー）が好きなんです、ヘンシェル型よりも。無骨というか…。
富岡◆そう、こっちのほうがまがまがしい感じですよね。
宮崎◆泥に埋まって試運転してる写真があるでしょ。そこで見える横っ腹は、いかにも圧延工場から出てきたばかりの鉄板をドーンとつけたっていう感じでね。まぁ、ポルシェの作ったものは…、あの[*25]キングタイガー（ポルシェ博士の作った試作型）だって役に立ってないけど。
富岡◆[*26]ポルシェは車以外はだめですね。
宮崎◆ドイツにはそういう役に立たない天才的な人間っていうのが多いですね。

宮崎氏が「富岡さんが翻訳された『ジャーマンタンクス』は、全部読んでしまいましたよ」と言えば、富岡氏も「息子が宮崎さんの大ファンで…。トトロの絵のサイン色紙をお願いします」と返答され、お互いにファン同士による対談は長時間にわたり和やかに続いた

僕はあの[*27]メッサーシュミットっていう親父だって、そうとういいかげんな親父だと思ってんだけど。そういう天才に頼って技術の力で勝とうというところ。天才っていうものを戦争中にも過大評価するっていう気風がドイツにはあるんですよね。

戦略的に負けると、新兵器を発明して技術的に勝とうとするドイツの悲劇。ワハハハッ！　それが戦後になって花開くという…。例えば第1次大戦後の金属機や第2次大戦後のロケットみたいにね。やな民族ですねぇ、ツハハハハ。

心配でならない穴のあいたお尻

宮崎◈これ（機関室上部の小さな箱状の物2個）はついてる奴とない奴があるんだけど、いったいなんなんですかね。

富岡◈ベンチレーターかなんかですかね、過熱するからこのあたりにつけたんでしょう。

宮崎◈車体の一番うしろにモーターが入ってるわけでしょ、ところがこの天井に穴があいてるんだよね。僕は敵弾が飛び込んできそうで、心配でしようがないんスけど…。よっぽど熱が溜まるんでしょうね。

——[*28]車体後部の傾斜装甲に穴をあけるより、機関室上面に穴をあけたほうがいいでしょうにね。

宮崎◈でもあのエンジンの構造からいうと、このエンジンの排熱をばあっと出して排気管もその中に入ってて、モーターの排熱も出るっていう、彼らの考えとしては排気を全部一カ所にまとめたから、（車体後部の傾斜装甲にあけられている排気グリルは）合理的だってことでしょう。

——しかし、それだったら、後部装甲板を垂直にしてこのグリルを真上に向ければいいのに…。

宮崎◈僕もそう思ったけれど、イヒヒッ。

富岡◈今、それを言われて思ったけれども、エレファントは後ろを塞いじゃって、その排気を下に出してるわけだから、モーターのあるお尻は、物凄く熱くなったはずですね。

宮崎◈[*29]エレファントの排熱はどうなってましたっけ？

富岡◈車体後部に装甲カバーをつけて後ろに出してますね。

宮崎◈エンジンは戦闘室の前に入ってますよね。乗員たちは熱かったでしょうねぇ。

富岡◈冬はいいよね。

宮崎◈夏は…、ワハハハッ。

でもこれ、ドイツ軍っていうのは（戦車は）砲弾をいっぱい持って行かなくちゃいけないっていう考えでこんなにデカくなっちゃったんですからね。なんで[*30]パンターはあんなに重いんだ？　35トンくらいで作ればいいのにって思うんだけど…。

それから戦車っていうのは、結局この車体の横腹に一番（敵弾が）当たるでしょ。

富岡◈なにかの戦車のテストで被弾率を調べたら、ここ（車体正面下部）に一番当たるっていうことがわかったんですよね。

——なぜそこなんでしょうね。砲塔を狙ってそれた砲弾が下に当たるんでしょうか？　それとも、よく射撃の本に書いてあるように、狙いは低くしておけってことでしょうか。

宮崎◈本には、砲塔は狙うなって書いてあるよね。

——どうしてでしょう？

宮崎◈小さいからでしょうね、フシシシ。

富岡◈砲塔を狙いたくなっちゃうみたいですね。生き物みたいに動くから。

——そうですね。

富岡◈やっぱり、そういう技術報告ってのを読むと、側面にあったハッチってのはとても耐弾性が低いんだってね。

宮崎◈ほうっ、そうですか。

富岡◈側面につけたものは、被弾するとその衝撃でボルトがはずれて車内にバアッと飛び散るんだって。だから、そういうものは天井につけろって書いてありますね。

宮崎◈でもドイツっていうのはこういう小改修を小まめにしますよね。なんでドイツ軍だけねぇ…。まるで後世の模型マニアを喜ばせるためか？…ってくらい熱心にやってますよね、イシシシシ。

三式中戦車を見て

宮崎◈しかし、ドイツ戦車のこんな幅広いキャタピラを見てるだけでヤンなってくるね…。

僕はね、以前、[*31]大塚康生さんと土浦の自衛隊武器学校に戦車を見に行こうって言われて行ったことがあるんだけど、[*32]三式中戦車を見て愕然としました。その情けない姿にね。

写真で見るとけっこう強そうに見えるんだけど、実物を見ると[*33]駐退器（ちゅうたいき）はむき出しになってるし、あっちこっちに（外部視察用の）スリットがたくさんあいているけど、防弾ガラスも何も入ってないしね。その横に[*34]米軍の水陸両用戦車が置いてあるんだけど、そっちのほうが装甲が厚そうに見えるんだよね。近代的に見えるわけ。

三式中戦車を見たとき、「絶大な威力の九〇式野砲を搭載した…」って解説を読んで、あれに「絶大」とか「驚異的な」とかいう形容詞をつけるのは日本の軍事関係者だけだなって思いましたよ、ワハハハッ。形容詞から腐るってことがあるでしょ、「なんとかが誇る…」とかね。自分のレベルからちょっと上だと、すぐに驚異的になっちゃう。ウシシシッ。そういう慣用句を使ってごまかしてきたわけですよ。

あの、[*35]司馬遼太郎さんがね、[*36]九七式中戦車の装甲板は硬くてヤスリがかからなかったけど、三

「ティーガー戦車に人気があるってのは、やっぱり伝説のせいだと思うんです。形にも関係あると思うけど、あーいう形を作り上げたドイツ人の思想がね…要するに…戦争に対する考え方を表してるんだと思いますね。兵器ってのは一番にリアリズムで作るはずなのに、やっぱりその民族の持ってる幼児性が表れるんですよ」

式の装甲板にはヤスリがかかった。つまり、もう日本には装甲鋼板がないんで、普通の鉄でできていたって書いてますが…。

富岡◆あれを読んでね、戦時中、戦車の装甲板を研究していた人が憤慨して、九七式みたいな薄い装甲の場合は装甲板を硬く焼き入れするからヤスリがかからないんであって、三式みたいに装甲が厚い場合には、砲弾が命中した時の衝撃を吸収するためにある程度軟質にしてあって、そのほうが耐弾能力が増すんだという反論を戦車雑誌に載せてましたね。

――ドイツ軍のIII号戦車みたいに装甲の薄い戦車の装甲板は表面に焼き入れがしてある硬い『表面硬化装甲板』[*37]だったそうですが、ずっと厚いティーガーの装甲板は、衝撃を吸収するために表面を焼き入れしない『均質圧延装甲板』だったらしいですね。

富岡◆ところがね、戦時中、九州かどっかで戦車を作っていた人がいて、その記事を読んで丁寧な手紙がその雑誌の編集部に来たそうなんです。それを読むと、戦争の末期には装甲鋼板がなかったんで、三式中戦車はやっぱり普通の鉄で作ってたそうですよ。あっははは！

宮崎◆ワッハハハ！　しかし、そんな戦車に乗って戦わなきゃならないなんて、たまったもんじゃないね…。

――ティーガー戦車にはいろいろ欠点はあったにせよ、やっぱり乗っていた連中はみんなあの装甲防御力はほめていますよね。

宮崎◆一度、あの装甲のおかげで命拾いした人はそう思うでしょうね。

まぁ、日本人は戦争には向かないってことですよ。向かないほうがいいんだけれど…。いろいろなことを知ればそう思います。職業軍人には向かないんですよ。すぐに小役人の巣になっちゃうんです。

韓国の朴大統領っていう人がいたでしょ。僕の知り合いに、あの人と陸軍士官学校で同期だったっていう絵の具屋のおじさんがいて、その人は少尉で戦争終わってるんですけど、その人にね、当時の装備を聞いたんですよ。もう戦争の末期ですよね。すると、よく聞いてくれたっていう感じで嬉しそうに話してくれたんですよ。九九式小銃で各部隊1挺ずつ九六式軽機関銃を持ってて、擲弾筒をバアーッと撃ち込んでね、撃ち込みながら走って行って、その爆煙が晴れた瞬間に敵の塹壕に飛び込むんだって。こうすれば勝てるんだって。こりゃダメだなと思ったよ、ツハハハハッ。

秀才を集めた陸軍士官学校の一線のバリバリの言うことが、これじゃダメですよ。そんなもんだったんスよね、テヘヘヘッ…。

内戦で戦ったティーガー？

――旧ソ連のナゴルノ・カラバフの内戦に、ティーガー戦車[*38]が使われているという話を、大塚康生さんから聞いたんですが、これはどんなものでしょうね？

宮崎◆大塚さんのガセネタじゃないの？　イシシシシ！　動かせっこないですよ。

富岡◆（ティーガーは）ドイツ人があれだけ苦労して動かしていたんだからねぇ。今のロシアにはT55でもなんでもゴロゴロあるのに。

宮崎◆だって、変速機をどうすんの、とかね。絶対に無理ですよ。だから、もしいたとすれば、映画の撮影に使ったやつですよ

――T55を改造した…。

宮崎◆だから足回りを見ればわかると思うんですけどね。

――大塚さんもアメリカ人の友人がテレビニュースで見たという話を聞いただけだそうですから…。

宮崎◆いやあ、これはっかりはわからないですね、フシシシッ。

――撮影用のティーガーも結構よくできてましたからね。『ヨーロッパの解放』[*39]に出て来たティーガーなんて、見たのが小学生のころだったから本物かと思いました。転輪が複合になってるのもあったりして。

宮崎◆僕なんかあれを見ても欲求不満でね。違うなぁ、なんで停まった時にあんなに揺れるんだってね。あの四角いのはIV号戦車のつもりかなぁ？ってね、フハハハハ。

――僕らにも、最近は映画などをそういうふうに見てしまう傾向がありますね。しかし、妙な知識をしょいこんでしまったばかりに、そういう見方しかできなくなってしまうというのは、実に不幸ですね。

宮崎◆昔のロシア映画で『誓いの休暇』[*40]っていうのがあったんだけど、あれも冒頭で主人公が対戦車銃でティーガーを2両やっつけちゃったりして…。いやあ、あれはI号戦車の間違いなんじゃないかと思ったりしてね、ウシシシシッ！　いい映画なんですけどねぇ、そこんとこだけが気に入らないんですよね。ワッハハハ！

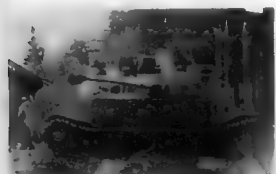
――…不幸ですねぇ。

1992年11月28日、東京・吉祥寺、二馬力にて。

〈初出〉月刊モデルグラフィックス1993年2月号
◎取材・構成：梅本 弘、卯月 緑

◇注釈◇

*1.
“英国の模型メーカーから～”
◎ガレージキット（ポリエステル樹脂をゴム型に注入して作る模型）と呼ばれる、少量生産の模型専門メーカー、アキュリットアーマー社が、偶然にも『豚の虎』が発表されたのと同時にポルシェティーガーの模型を発売した。また、その後イタリアの模型メーカーのイタレリ社は、プラスティックモデルとして同車を発売している。

*2.
“ポルシェティーガー”
◎ゆくゆく出現が予想される米ソの重戦車に対抗すべく、ドイツの陸軍兵器局が出した45トン級戦車の開発命令に対して、ポルシェ社が試作した重戦車で1942年7月に10両が完成。正式名称はティーガー（P）、VK4501（P）。ポルシェ博士お得意の、ガソリンエンジンで発電～モーター駆動というシステムが導入された。重量は57トンとなり、試験走行を繰り返したが芳しい結果が出ず量産には至らなかった。
しかし、ヒットラーとポルシェとの奇妙な信頼関係から、正式採用以前に90両分もの車体は製造されてしまっていた。
　驚いたことに、ドイツの戦車資料集『重駆逐戦車』（大日本絵画刊）によると、それまで訓練用にのみ使用されていたと思われていたポルシェティーガーが、実戦に使用されていたことが判明。模型の発売に続き、宮崎氏の妄想が現実を呼び寄せたかのような現象であった。

ティーガー（P）重戦車（写真提供・デルタ出版）

*3.
“小林源文さん”
◎戦記劇画家。その独特のペンタッチと、リアルかつマニアックな戦闘描写が人気を博している。主な著作は『装甲擲弾兵』、『鋼鉄の死神』、『炎の騎士』、『ハッピータイガー』、『東亜総統特務隊』（いずれも大日本絵画刊）等。

*4.
“ページはどんどんなくなって～”
◎『雑想ノート』の初版本（現在絶版）の刊行時に描き下ろされた『豚の虎』は、当初10ページの予定で進行していたが、とても収まりきらないということで、途中で12ページに増やされた。しかしそれでもページは足りなかった。

*5
“エレファント”
◎ポルシェティーガーの余った車体を利用して製造された重駆逐戦車。機動力に問題が残ったものの、重装甲と高性能の主砲によって絶大な戦果を上げている。初期はポルシェ博士の姓“フェアディナント”と命名されていた。

駆逐戦車エレファント

*6
“VK30…”
◎ドイツ陸軍兵器局が発注した30t級戦車の設計コンペに、ポルシェ社が参加して開発した最初の試作戦車。電気駆動式で、制式名称はVK3001（P）。

*7.
“ヘンシェル”
◎ポルシェ社と競作し、ティーガー戦車の量産権を得た製造会社。当初はポルシェに肩入れするヒットラーの意向でポルシェ型が採用される公算が強かったが、比較試験でヘンシェル型の性能が勝っていることが判明したのである。写真はヘンシェル型のティーガーI型重戦車。駆動方法は通常のガソリンエンジン式。量産型とはいえ、重量57トンの巨体を動かすのには無理があり、保守整備に大きな労力をさく必要があった。だが、その防御力と主砲の威力はそれを補うのに十分だった。

ティーガーI型重戦車（ヘンシェル型）

*8
“『パンツァーズ・イン・ノルマンディ』”
◎ノルマンディ上陸作戦を、ドイツ軍側（とくに戦車部隊）からの戦いに焦点を絞り、戦車連隊ごとに多数の写真、図版、地図を駆使して克明に詳述した記録集（大日本絵画刊）。

*9
“日本人はもちろん～”
◎1943年（昭和18年）、日本陸軍は（無謀にも）ティーガー戦車をライセンス生産する計画を立てていた。ドイツ側は日本の提案を受諾し、1台のティーガー戦車が日本向けに準備された。日本は645,000ライヒスマルクをドイツに支払ったが、戦局が混乱した時期でもあり、結局は日本に送られずに終わった。

*10
“2CV”
◎宮崎氏の愛車、シトロエン2CVのこと。1967年に氏が最初に購入した車で、その後も3台乗り継ぎ、1993年頃まで愛用していた。写真は初代の2CV（1954年式）。『ルパン三世カリオストロの城』でクラリス姫が乗っていたのはこの形式である。

シトロエン2CV（写真提供・大塚康生）

*11
“I号戦車”
◎第1次大戦後、ヴェルサイユ条約で装甲戦闘車両の保有を制限されたドイツが、1934年に条約の制限事項をぬって農業用トラクターと称して製造した最初の戦車。車重はわずか5.4トンで、機関銃2丁を装備していた。スペイン内乱が初陣となったが、フランス戦を最後に第一線から退いた。

I号戦車

*12
“あんまり期間がないでしょ”
◎ドイツは、I号戦車の開発が始まった1933年からわずか9年で、重量が約10倍もあるポルシェティーガーを開発している。その異常とも言えるパワーの原動力は、ヨーロッパ中の大国、特にロシアを敵にまわしたドイツの圧迫感や恐怖心であったのだろう。

*13
“斜めの一枚装甲に～”
◎戦車は普通、エンジンからの動力を車体の最前部にある変速機と最終減速機に伝えて駆動するため、車体前部の形状が制約を受ける。だがポルシェティーガーは後輪駆動で、しかも変速機を用いない電気駆動式であるので、変速機や最終減速機等のスペースを考慮に入れる必要がないため、複雑な面構成をとらずに一枚の装甲で構成したほうが合理的ではないか～という意見。その後に開発されたパンター、ティーガーII型は、前輪駆動でありながら前面装甲は一枚板で構成されている。

*14
“クルップ”
◎ドイツで400年の歴史を持つ兵器メーカー。高い鋳鋼技術により非常に優秀な兵器を開発し、ドイツ帝国を軍事強国にのし上げた。またその力はヒットラーの壮大な野望をも拡大させたのである。

*15
“突撃銃”
◎ドイツ軍が開発した新型火器。MP43、MP44等の形式があった。MPとはマシーネン・ピストーレ（機関短銃）の略だが、戦争末期にはStg（シュトルム・ゲベール～突撃銃の意）44と改称された。従来の拳銃弾を使用した機関短銃と異なり、機関銃弾を短くした特殊な弾丸を連射するもので、単発式小銃や機関短銃や軽機関銃にとってかわる新世代の火器であった。戦後、ソ連が開発して全世界に広まったAK47シリーズの元祖となった。
　第2次大戦末期、ドイツ軍は新型のパンター戦車の前方機銃を従来のMG34機銃からMP44突撃銃に変換する予定だった。また、この銃に曲射銃身（カーブをつけた銃身で弾道を90度変えることができる、まるでマンガの小道具のような代物）をつけて駆逐戦車の戦闘室上面に配置し、前方機銃の代用にするという珍奇な計画も立てられた。

MP44突撃銃（手前）とMG34機関銃

*16
“確か1／2の手間で～”
◎ヘンシェル社のティーガー戦車のサスペンションは、トーションバーという棒バネを車台に通して作用させるため、6センチもある車台側面に転輪の数だけ穴を開ける作業が必要であった。それに比べてポルシェ式のサスペンションは、転輪2個と棒バネを一組にしたユニットを車台側面にネジ止めするだけで済んだ。作業時間はヘンシェル

◇注釈◇

式が1台360時間かかるところを、ポルシェ式では140時間で済んだという。

＊17

“ヘンシェルの転輪”

◎ヘンシェル型のティーガーの足回りは、その大重量を支えるために転輪が重なり合うように配置された複合式転輪。例えば、地雷などを踏んで一番奥の転輪が損傷した場合、それを交換するには、まずその両隣の転輪からはずさなければならないのである。

＊18

“ヤークトティーガー”

◎ティーガーII型の車体に12.8センチ砲を搭載した重駆逐戦車。その前面装甲は25センチに達し、データ上では第2次大戦で実戦に投入された中で一番強力な戦車といえる。機動性を犠牲にしてまで、より厚い装甲、より強力な主砲を備えたその姿は、米ソとの“鋼鉄のバランスゲーム”に憑かれたドイツの狂気を感じさせる。77両生産されたうち、10両にポルシェ式サスペンションが実験的に装着された。

重駆逐戦車ヤークトティーガー

＊19

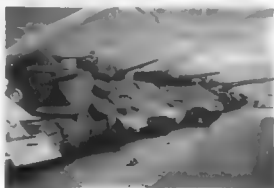
“KV1”

◎ロシアは1939年、すでに47トンの重戦車KV1を開発していた。76.2ミリ砲を装備し、生産が安易でしかも頑丈な戦車であった。ドイツは1941年にロシアと開戦してこの戦車と衝突、その強力さにショックを受け、既存の兵器概念を越えて急速に重戦車開発を推進することになる。ティーガーと同じトーションバー式サスペンションの足回りだが、複合式をとらずにその重量を支えている。

KV1重戦車

＊20

“M4シャーマン”

◎アメリカ軍をはじめ、広く連合国軍に供給された主力戦車。第2次大戦の連合国軍の物量作戦の象徴ともいえる。一対一の対決ではパンターやティーガーに劣る性能だったため、数に物をいわせて戦った。その分、数を作れないドイツはその狂信的ともいえる技術主義に走って行くのである。

M4シャーマン中戦車（中央）

＊21

“パンツァー・マイヤー”

◎武装親衛隊員、クアト・マイヤー。SS第1戦車師団『ライプシュタンダルテ・アドルフ・ヒットラー』、SS第12戦車師団『ヒットラー・ユーゲント』などのエリート戦闘集団の指揮官として東部戦線、そしてノルマンディの激戦を戦い抜き、“パンツァー（戦車の意）マイヤー”の愛称で部下から敬愛された。著書に『擲弾兵［パンツァーマイヤー戦記］』（フジ出版刊）がある。

＊22

“ルーデル”

◎ハンス・ウルリッヒ・ルーデル。ドイツ空軍の急降下爆撃機Ju87（シュトゥーカ）を駆り、東部戦線で2500回以上の出撃記録を持つ。戦車撃破数は500両以上を数え、30回も撃墜されるが生還したという不死身のパイロット。そんな彼の偉業に対し、「偉大なエースが死に急ぐことはなかろう」と、戦争末期にヒットラーは飛行停止命令を出したが、それを断って再び空に戻った猛者であった。

＊23

“『鉄の棺』の著者”

◎書名は『鉄の棺［Uボート死闘の記録］』（フジ出版刊）で、著者はH・ヴェルナー。その内容は、海の狼として連合国艦船を震え上がらせたドイツ海軍の潜水艦・Uボートの栄光と悲惨な記録である。最盛期には843隻が活動していたが、779隻が撃沈され乗員の75パーセントが戦死したといわれる。ドイツの海の男たちにとって、Uボートは正に『鉄の棺』だったのである。その不屈の闘志は、何処から湧いて出るのであろうか…。

＊24

“『空対空爆撃戦隊』～”

◎ドイツ空軍の戦闘機エース、ハインツ・クノーケが記した、連合軍爆撃隊に対する迎撃作戦の全貌（大日本絵画刊）。数度にわたる撃墜と負傷にもめげず、敗戦の日まで果敢に戦い続けた。その思想は、共産主義を激しく憎み、アジアからの遊牧民の侵入からドイツだけが生き延びるためだけではなく、西欧全土を守るために戦うという、ドイツ民族の血統を正当に継承したかのような、驚くほどに実直なものだった。

＊25

“キングタイガー～”

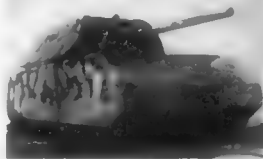
◎ティーガーI型重戦車の後継車両として開発された重戦車。重量は68トンに達した。制式名称はティーガーII型だが、その強力さとスマートな外形から連合軍将兵からはキングタイガーと呼称された。デザイン的にはティーガーの後継型というより、パンターの拡大版といった感が強い。最終的に489両しか生産されず、戦局の挽回には貢献しなかった。宮崎氏は、わざわざII型を苦労して作るより、パンターやティーガーI型を増産したほうが良かったのでは？との疑問を呈している。

車体の製造はヘンシェル社が行ったが、ここでまたしてもポルシェ博士が登場する。砲塔は同時期に進行していながら開発が遅れていたポルシェ社のティーガー後継型（VK4502）用に作られたもの50基が流用された。だがその砲塔前面は“芸術的”な曲面形状だったため、敵弾が当たった時に下にすべって装甲の薄い車体上面を貫通することが判明。結局、その後の車両では砲塔前面を一枚装甲で構成したヘンシェル型の砲塔に交換されてしまった。

ティーガーII型重戦車（ヘンシェル型）

＊26

“ポルシェは～”

◎ヒットラーの唯一の功績といえる国民車、フォルクスワーゲンの開発はポルシェ博士が行った。それは当時のドイツ国民だけにとどまらず、現在でも世界中の人々に愛されている。しかし、戦争で切羽詰まった状況にもかかわらずヒットラーはポルシェに好き勝手な研究を認め続け、しまいにはマウスという鉄の化け物を作るに至った。重量は188トン、12.8センチと7.5センチ砲を載せ、相変わらず駆動方式は電動式を採用していた。ヒットラーとポルシェは、全ての敵弾をはじき返しながら進む無敵の超重戦車を夢見たのだろうか…。科学技術が結んだ二人の関係というのはまったく計り知れない。2両の試作車が作られただけで終わった。

試作超重戦車マウス

＊27

“メッサーシュミット～”

◎ヴィリ・メッサーシュミット。1898年生まれ。ツェッペリン飛行船を見て空への道を志し、15歳でグライダーを設計、操縦したという。ドイツ空軍を代表する傑作戦闘機、Me109や、世界初のジェット戦闘機Me262などを生み出した技術者。卓越した設計能力をもっていたが、その性能追求のためにはテストパイロットが命を落とすこともいとわないといった性格だったようだ。メッサーシュミットに限らず、当時のドイツの航空機界には飛行機オタク的な技術者が多く、戦争に乗じて奇抜な研究を進めていた。だが、その中の革新的なアイディアが、戦後の航空機界の飛躍的な進歩に大きく貢献しているのも事実である。

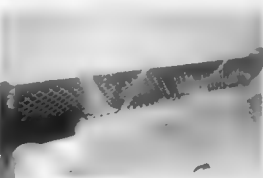
＊28

“車体後部の～”

◎ポルシェティーガーが後方から攻撃を受けた際、傾斜部に被弾しやすく、さらにそこに放熱用のスリットが開いているのでより被害が大きくなる。厚い後部装甲板に苦労して穴を開けるより、薄くてしかも被弾率の低い機関室上部に放熱スリットを設けたほうが簡単でいいのに…という意味。

＊29

“エレファントの排熱～”

◎ポルシェティーガーの車体を改造して製造されたエレファントでは、発電用エンジンは車体前部に移動されたので排熱グリルは前部上面に設けられた。後部にある駆動モーターの排熱は車体後面から行ったが、スリットを開けず写真のように開口部を装甲カバーで覆って処理している。前線からの報告では、上面の排熱グリルは上方から

下側から見たエレファントの排熱カバー

◇注釈◇

の敵弾の被害を受けやすく、また雨水の侵入によって発電機がショート、炎上することもあった。発電用エンジンと駆動モーターにはさまれた車内の温度はかなり上昇したという。

＊30.
"パンター"
◎1941年に始まったロシア侵攻で、ドイツ軍戦車はT34戦車に苦戦を強いられた。そこで捕獲したT34を徹底的に研究し、それに対抗しうる新型戦車パンターを開発した。そのため、車体のデザインはT34の影響を受け、それまでのドイツ戦車の多面構成から大きく変化し、装甲板を傾斜して組み合わせる方式が採られた。機動力、防御力、攻撃力のバランスのとれたドイツ軍最良の戦車と言われている。7.5センチ砲装備、重量は43トン。

パンター中戦車

＊31.
"大塚康生さん"
◎宮崎氏の先輩にあたるアニメーターで、共に数々のアニメ制作に参加。『ルパン三世』の最初のテレビシリーズの作画監督を務め、ルパンのイメージを定着させた。写真はルパン制作当時の大塚氏の愛車フィアット500で、これがアニメに登場して好評を博した。隣のシトロエンは前出の宮崎氏の愛車。『カリオストロの城』では両車がチェイスを繰り広げた。また、大塚氏は模型と軍用車両の研究家としても世界的に有名。「雑想ノート」連載の仕掛け人でもある。

大塚康生氏のフィアット500
（写真提供　大塚康生）

＊32.
"三式中戦車～"
◎アニメ制作会社、東映動画の同僚だった大塚氏と宮崎氏は、1964年12月30日に土浦の自衛隊武器学校を訪問、数々の兵器を見学した。そこには国産第1号の八九式戦車と、戦争末期に作られた三式中戦車が展示してある。

日本陸軍は、当時の戦車の世界的な水準である75ミリ砲装備の戦車を、昭和19年になってやっと量産にこぎつけた。しかもその主砲は戦車砲として開発したものではなく、野砲を改造したものだった。実用性にとぼしく、内地に少数が配備された時点で敗戦となった。写真に映っているのは若かりし日の宮崎氏。

式中戦車（写真提供　大塚康生）

＊33.
"駐退器はむき出し～"
◎大砲から砲弾を発射する際、相当な衝撃と反動が生じるので、それを相殺するために砲身を後座させる。駐退器とは、後座した砲身を油圧で元に戻す働きをする装置を指す。第2次大戦の後期における世界の戦車砲は、駐退器を全て砲塔内部に収納しているが、三式中戦車の主砲は九〇式野砲を転用するというその場しのぎの計画のため、砲身の下部に駐退器が残ってしまっている。その点からも日本陸軍の無計画ぶりを垣間見ることができる。

＊34.
"米軍の水陸両用戦車"
◎武器学校に展示中の米軍の水陸両用戦車LVT（A）4。第2次大戦中、ヨーロッパや太平洋諸島で展開された上陸作戦に必ずこの手の車両が登場する。実質的には戦車というより上陸用舟艇といったほうがよいのだが、日本の戦車よりも強そうに見えるから不思議である。

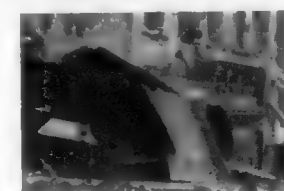
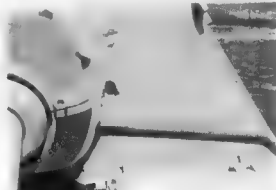
LVT(A)4水陸両用戦車（写真提供　大塚康生）

＊35.
"司馬遼太郎さん～"
◎数々の歴史小説で多くの国民に希望を与え、その晩年は随筆や講演などで文明批評を続けて来られた作家、司馬遼太郎氏。司馬氏は、学徒動員で陸軍に入隊、戦車中隊の将校として敗戦を迎えた。なぜ装甲の薄さを精神で補わねばならぬような戦車に乗って戦わされるのか、そしてなぜ日本はそういう愚行に走ってしまったのかを考え続けた司馬氏は、戦後に文学へと復員を果たし、自分の感じた日本観をペンをもって追求し続けた。しかし1996年2月に逝去され、日本中の多くの読者がその死を悼んだ。宮崎氏は、司馬氏の生前に司馬氏、堀田善衛氏との鼎談（『時代の風音』朝日文芸文庫）を、また急逝される直前には週刊誌上で対談をされている。

＊36.
"九七式中戦車～"
◎日本陸軍の主力戦車。しかし、性能的には世界の水準に達しておらず、終始苦戦を続けた。米軍のM3軽戦車にも歯が立たなかったといわれる。戦車将校であった司馬氏もこの戦車に乗っていた。写真は昭和19年に司馬氏が入校した旧満州四平戦車学校で訓練中の九七式中戦車。（写真提供は、司馬氏と同期の藤田庄一郎氏による）

司馬氏の所属していた戦車第1連隊が、戦争末期に本土決戦のため関東平野に呼び戻されて駐屯していた際、数台の三式中戦車が、他の中隊または連隊に配備され、それを司馬氏が試しに操作する描写が、氏の著作『歴史と視点』（中公文庫）所収の随筆『戦車の壁の中で』に登場する。それまでの九七式の鋼鉄の装甲にはヤスリがかからなかったが、三式にはかかってしまったという。ただの鉄でできた戦車とは一体なんなのだ？…司馬氏はそれをご自身の太平洋戦史にとって、もっとも重要な事実のひとつであると書いている。同書には、戦車に対する憎悪を通じて日本の軍部批判をする随筆が3編収録されている。

九七式中戦車

＊37.
"「表面硬化装甲板」～"
◎表面硬化装甲板は焼き入れをした鋼鉄製の装甲板で、硬度を上げて耐弾性を高めたもの。被弾の時、割れたりヒビが入るのはそのため。それに対抗して被帽付徹甲弾が作られている。ティーガーの装甲は、粘り気のある鋼鉄で作られ、バターをえぐったような弾痕が残るのはそのためである。

被弾して割れたパンターの砲塔

敵弾をはじき返したエレファントの前面装甲

＊38.
"ティーガー戦車が使われて～"
◎アメリカのニュース専門テレビ（CNNまたはCBS）で旧ソ連の内戦の模様が放映された時、戦後型のT55やT62等に交じってティーガーと思われる戦車が映ったという話。日本でもたまたまそのニュースを見た人が存在する。ボスニアなどの内戦では、T34戦車が現役で使用されている例がある。

＊39.
"「ヨーロッパの解放」"
◎旧ソ連が1970年に制作した大国策映画。5部構成で、1943年のクルスク戦から1945年のベルリンの陥落までが描かれている。さすがにソ連映画だけあり、地平線まで続くかのように思われる戦車の群れの空撮や、大量のエキストラの動員などスケールは巨大である。また、文中にも出た改造ティーガーは、過去の戦争映画に登場したティーガーもどきの中では一番の出来であった。しかし、いかんせん上映時間が長すぎ、冗長な点は否めない。

＊40.
"「誓いの休暇」"
◎こちらも旧ソ連製の映画だが名作である。物語は、あるソ連軍の若い兵隊が、対戦車銃でティーガー戦車を2両撃破、その功績で1週間の休暇をもらい、故郷の母親に会いに行く。その道中に様々な出来事が起こり、そして…というもの。小品ながら非常に完成度が高い感動作なのだが、この対談の出席者と編集者のように深みにはまった知識を持つと、どうしても歪んだ見方をしてしまうのである。「対戦車銃でティーガーの前面装甲を撃ちぬけるわけがないよ！」…といったふうに…。

**「雑想ノート」を全て
お読みになって、この物語が
ウソなのかホントなのか、
さっぱりわからなくなった…という
感想を持たれた方も多いのでは？
最後に、少しだけ種明かしを
いたしましょう。虚構と現実が
入り混じった、雑想「裏」ワールド
にご案内します。**

第1話
知られざる巨人の末弟

◎「この話は7～8年も暖めてきたものなんです。それを、縮小凝縮して描いたんです。僕は、巨人機っていうのが本当に好きなんです。ユンカースのような飛行機って好きですね。翼に席があるっていうのは、幼い頃から空に憧れている者にとっては夢ですよ。少年の日の夢です。今の飛行機のように小さな窓しかなくて、ベルトで縛りつけられて運ばれるようなのは、くだらないことなんです」

巨人機好きの宮崎氏が、連載第1作に選んだ機体は、ドイツのユンカース社が作った実在の旅客機、G-38だった。物語はその機体をヨーロッパの小国、ボストニアが購入するのだ。だがボストニアは架空の王国で、ボスニアとエストニアの合成語である。日本がG-38を購入したのは事実で、コレヒドール要塞爆撃用の超重爆撃機の必要性から、陸軍がドイツから製造権を買い、三菱が製造、九二式重爆撃機として正式化された。

第2話
甲鉄の意気地

◎「この話は、南北戦争中に実際にあった話なんですよ。小説よりも現実のほうがずーっと面白いっていうことですよね。訓練も受けていない素人が、意気込みだけで殴り込みをかけたという、無茶苦茶でバカバカしいところが好きなんです。黛治夫という人が書いた本の中にあった話なんですけど、好きなんですよね」

このエピソードは、日本での武蔵と小次郎の巌流島の戦いと同様に、アメリカでも有名なもので、モニターとメリマックのプラスティックモデルも発売されているほどだ。海軍大佐の黛治夫氏は、日本海軍の砲術の権威であった。宮崎氏は、黛氏の著作「海軍砲戦史談」の中に収録されているエピソードを読んで構想を練られたそうだ。

第3話
多砲塔の出番

◎「戦車っていうのは、とっても血なまぐさい物ですね。同じ武器として造られた物でも、飛行機や船と違って戦うことだけにしか使えない物でしょ？むき出しの敵意って感じですよね。多砲塔といっても、1つより他の所にもいっぱいついていたほうが強そうだし、強いだろうと思ってつけ　みたんです。で、使ってみたら、そんなに強くなかったという、今から思うとアホらしいことを真剣にやっていた心が好きです。この話は、映像にしてみたくて、暇ができると絵コンテを切ったりしちゃうんですよ。ボルサリーノをかぶったブタが、戦車に乗ってやって来て酒場の前で止まるんです。そして、その酒場の中に入って行くと、人間の女の子～物語中ただ一人の人間の女の子なんですけど～歌を歌っている…。冒頭は、そうやって始まるんです。カントリーロードに合わせて戦車が暴走するっていうのをやりたいんです！」

このエピソードは、他の作品と違って最初からファンタジーとして構成されている。欄外に書いてあるスポンサー募集に対し、当時実際に名乗りを上げた会社があり、アニメ化が進行していたが、悪役大佐の性格を巡って演出家と方針が合わなくなり制作は中止された。宮崎氏のコメントから、ブタが少女に恋する点、カントリーロードを劇中歌として使用する予定など、後年制作された『紅の豚』や『耳をすませば』にイメージが移植されているのがわかる。

第4話
農夫の眼

◎「アンドレ・マルローのスペイン内乱の小説を読んで、この話が気に入ったから、どんな飛行機だったのかな？と思って調べてみたら、ポテーズ540だったんです。変な形の飛行機ですね。この時代のスペインというのは、ファシズムに押されてろくな飛行機がなくて…。これはフランス製の飛行機なんですよ」

反ファシズムの作家、アンドレ・マルローは、スペイン内乱で自ら爆撃機を指揮して作戦に参加している。その時の様子が、彼の小説「希望」に登場する。また彼は「希望」をベースにした映画制作も行い、実際にポテーズ540を使用して農夫を乗せての爆撃シーンを撮影している。日本では1962年「希望―テルエルの山々」として初公開され、その後は幻のフィルムとなっていたが、1992年に『雑想ノート』初版本が発売されると、偶然にも再公開され、小説（新潮文庫刊）も同時に再販された。この作品から4頁に増えたのは、描きたいことが膨らんできたためで、なんと宮崎氏は「原稿料は同じでいいですから、もう1頁もらえませんか」という実に涙ぐましい要望を編集部に懇願されたのであった。

第5話
竜の甲鉄

◎「これは、艦首に竜をつけた甲鉄艦が黄竜旗をはためかせて進む姿を描きたかったんです。旗のデザインは、後から資料が見つかってわかったけど、全然違ってました（笑）。これは、珍しく長寿を保った船でしたね。でも、船の寿命の短い長いも運命ですからね、その船の持った…。だからこそ、そこにロマンがあるんじゃないでしょうか？　（日清戦争中の）鎮遠の提督と艦長、定遠の艦長は、最後に自決するんですよ」

黄海海戦で定遠は撃沈、鎮遠は捕獲されて日本海軍に編入され、日露戦争にも参加した。海戦の翌年、長崎に立ち寄った鎮遠は一般に公開され、竜の甲鉄を一目見ようと数万人の市民が訪れたという。

写真は、宮崎氏がミラノに行った際、科学技術博物館で発見した黄竜旗。「ダ・ヴィンチを見に行ったら、なぜか説明ナシでぶら下がってたんですよ。こりゃ…近代海軍の旗とは思えないですね、フハハハ！」

第6話
九州上空の重爆炸機

◎「最初は、珍妙な飛行機だと思ったんですけど、描いて行くうちにだんだん好きになりました。特に斜め後ろからのアングルがいいですね。以前、上海の方に行った時に、冬場で野菜がなかったんでしょうね、毎日ニンニクの茎の炒め物ばっかり食べさせられたんです。だから、きっと兵隊たちもこれを食べていたんだろうなぁと思っているんです」

作品中にもあるように、本エピソードは日中戦争での中国空軍の戦史「中国的天空」（中山雅洋著、サンケイ出版刊）の中のわずか2頁ほどの記述をもとに執筆されている。紙片爆撃に飛んだ2機のマーチンB-10の機長は徐煥昇と佟彦伯で、その飛行経路は水俣付近から球磨川沿いに宮崎県に侵入、延岡付近で反転したものと思われる。しかし投下したビラの多くは山間部に落下し、また特高警察が直ちに回収したため、日本国民の目にはほとんど触れなかったという。

「『中国的天空』を読んで、日本本土を史上初めて侵した中国爆撃機が、平和を呼びかけるビラをまいたっていう話に感銘したんだけど、その後に調べた人が、そのビラ爆撃の後、中国政府は『中国爆撃機が京阪神地区を火の海にした』って発表して、みんな爆竹を鳴らして喜んだっていう資料を見つけてきまして…。やっぱり中国の人も、ほんとは爆弾を落としたかったんだなぁって思ってね…。戦争ってそんなモンですね」

戦後にソ連軍が撮影したベルリン・ティアガルテンの高射砲塔。左の建物は管制塔であろう。降伏時に破壊された連装の12 8センチ砲の砲身には撃墜マークが記されている。（右ページ）イタリアにおいて清国北洋艦隊の黄竜旗と邂逅した宮崎氏。長年の疑問が氷解した瞬間である。

第7話
高射砲塔

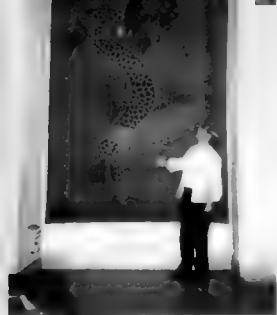
◎「（雑想ノートの執筆は）それはもう楽しいですよ！　ウソをいっぱいつけますからね。特に、ウソの飛行機を描いてね、それを飛行機マニアを自認してる人がそれにまんまと騙された時とかね。高射砲塔の話でドイツのいーかげんな街を描いたら、ホントにそこにあると思って訪ねようと思った人が現れたりするとね、騙した!!っていう喜びがあって…」

という宮崎氏の言うとおり、高射砲塔の街は架空のものである。だが、高射砲塔は実在した。中でも大規模だったのはベルリン市内のティアガルテンの動物園の敷地内に建造されたもの。13階建てのビルのような外観をもち、中には15,000人を収容できる防空壕、病院、倉庫と、ベルリン中の宝物を貯めこんだ貯蔵室もあったという。

第8話
Q.ship

◎このエピソードだけはウソだろうとお思いの方が多いとおもうが、これは全くの事実である。当時、イギリス海軍は約180隻のQシップを派遣し、撃沈したUボートの総数は14隻だった。中でもゴードン・キャンベル大佐は、3隻撃沈のエースだったという。ゴードン大佐の愛船、ファーンボロー号は1915年10月から17年2月まで作戦に従事し、最後は魚雷を受けるもなんとか港に帰着した。しかし、戦後に修理され再び平和な航海に戻ったそうだ。当時のイギリス海軍の水兵たちは、英国民の伝統である競技的射幸心が強く刺激されたとみえ、ドイツ海軍を罠にかけようとQ作戦に進んで志願した。Uボート1隻撃沈ごとに乗員には1,000ポンドの報奨金が支払われたといわれている。

第9話
特設空母　安松丸物語

◎「安松丸物語みたいなやつはねぇ、なんで描いたかっていいますと、イギリス人やアメリカ人がいいかげんな戦争映画を作るでしょう？　でも僕はドイツ人が作った物のほうが納得できるんですよ。小説にしてもね。だから『ナバロンの要塞』とかね、あーいう

の大キライなんです、頭にきて！　そーいう意味じゃ『史上最大の作戦』も『バルジ大作戦』もキライなんです。実際はあんなモンじゃなかったって思いが自分の中にあるからね。それだったらむしろ僕は、ロシアが作った不細工な『ヨーロッパの解放』のほうが、より戦争の感じが出てるんじゃないかと思います。で、勝ったヤツらがね、安心してああいう下らない映画を作ってウソつくんなら、オレだってウソくらいつけるゾ！っていうね、下らない職業上の対抗意識から描いたのが安松丸で。でも、やってみてね、なんかちょっと薄ら寒かったですね。だから、あんまりやんないほうがいいなと思ったり…

最近、"もしこうだったら"っていう戦記物がずいぶん書かれているけど、実はやっぱりね、小学生の時に思ったことをそのままちょっと知識で味付けしただけで、ほとんどリアリティーがないんですよ。読んでて面白くない。やっぱりあれは『連合艦隊ついに勝つ』（高木彬光著、角川書店刊）くらいにとどめておいたほうがいいです。どっかで皮肉に笑いながら作らないと。なんか、かっこつけてやるとね、下らなくなる」

このエピソードから、コママンガ形式、しかも前後編で執筆されている。これは宮崎氏のコメントの通り、全くのフィクションである。多くの架空戦記小説は、その設定を大きく広げ過ぎて収拾がつかなくなるものが多いが、本編は歴史の狭間を巧妙についた、架空戦記の本道を行くものといえよう。ちなみに特設空母の名称である"安松"は宮崎氏の住む埼玉県の町名からとられている。

第10話
ロンドン上空1918年

◎「（雑想ノートは）ようするに妄想の産物なんです。それから趣味ですから、例えばツェッペリン・シュターケンっていうのはどういう飛行機かってね、ずーっと頭にひっかけたまま、何もしないでいるでしょ？　そのうち縁があったらその本が手に入るだろうと思ってたら、やっぱり縁があって（笑）。ま、モデルグラフィックス関係の人が多いですけども、その本がころがりこんでくると。そんなふうなことで描いてるんです。基本的には描き終わると、それについてずーっと持っていたこだわりが消えてしまうんです…。で、描き終わった時に初めてね、例えば"ツェッペリン・シュターケンってこういう飛行機だったのか"っていうことが良くわかったりなんかしてね。わかった時には終わりという。食べちゃった！ってカンジでね。もう済んじゃうんですよ、気持ちが…」

『雑想ノート』のネタは宮崎氏が昔に見た雑誌の口絵や、古本屋で立ち読みした戦記本等のうろ覚えの記憶が元になっている。それを補足するために編集者が資料収集を行った。中には執筆後に資料が発見されることも多く、このエピソードの時もそうであった。

今回登場の爆撃機は、ドイツ軍特有の多角形によるモザイク状の夜間迷彩（ローゼンジパターン）を施していた。それに関して愉快なエピソードがあった。映画『魔女の宅急便』公開時の特別番組で宮崎氏は、レポーターの女性に「今の心境を色で表現すると何色ですか？」と質問されたが、その解答が実に珍妙なのだ。「第１次大戦のドイツ軍用機はピンクや青や緑色なんかを組み合わせて塗っていたんです。遠くから見るとそれらが混ざりあって灰色に見えるんですよね。今の心境はそういう灰色ですね！」………。

ツェッペリン・シュターケンのＲⅣ型は、約30種作られたＲ級の中でもましな性能だったようだが、それは劇中にもあるように機関士の腕によるところが大きかった。飛ぶのが不思議な巨人機だったが、連合軍はその存在を脅威と感じ、戦後に全てを解体させ、その後は製造も禁止した。そのため第２次大戦でドイツは大型機開発に遅れをとることになる。

第11話
最貧前線

◎「『最貧前線』を描く発端になった話を最初に読んだのは10数年前でした。それ以来なんにも調べないで、あれどうだったんだろうなぁ…と思いながら、ずーっと来ただけで。（執筆のスタイルは）ちょっと分けてやってるんですけども、やってるうちに少しずつわかって来たのは、人間で描きたいものもあるってことですね。ブタにしたくないものもあるんです。僕は『最貧前線』は、やっぱり人間で描きたかったんです。これはね、描き終わってもまだ終わってないんです、気持ちの中で。…誰かが映画にしてくれればいいんですけど。僕がこれを映画にするのは、もう、ちょっと時間がかかって億劫でできないけど…。こういうふうな、つまり"絶対に死なないぞ！"と、なんとか犬死にをしないで、"また魚をとるんだ！"っていうね、そういう人達が出て来て、それをまっとうする話をね、僕はやってみたいと前から思ってたんです…。まァ、それはできませんけど…。これについてはね、どこか心残りがあるんですよ。もうちょっと頁があればよかったなぁ…っていうのがね…。あと１頁あれば、ずっと楽にもっといろんなことが出来たんだとか、そういうこともありますけど（笑）」

宮崎氏の本作への思い入れは上記のように強く、もしもアニメにする時には、「海の上にいるということを表現するために、常にカメラを上下動させるんだ」というプランを話してくださった。宮崎作品のファンでもある漫画家、大友克洋氏も「最貧前線」の映画化に期待をよせているお一人である。

「吉祥丸」の名前の由来は単純で、宮崎氏のスタジオがJR中央線の吉祥寺にあったから。敵襲を受けて沈没する三鷹丸の名前の由来も同様で、吉祥寺の隣駅が三鷹なのだ。だから艇長さんが「お隣だ！　助けに行くぞ！」と叫ぶのである。

宮崎氏の妄想はしばしば現実を招くことがあるが、『「聖戦」の名のもとに』（千田夏光著、労働旬報社刊）によると、焼津漁港所属で「第一吉祥丸」が実在していたことが後に判明。宮崎氏も不思議がっておられた。

第12話
飛行艇時代

◎「『飛行艇時代』はね、よーするに１話で終わらせておきゃよかったんですね、ありゃね！　バカでね、つい続きを描いちゃったから、なんか逆に終わんなくなっちゃったんです、気持ちの中で。終わんなくなっちゃった上にね、『雑想ノート』にしちゃあ中途ハンパになっちゃって…。だから映画（『紅の豚』）にしてみようと思ったんだけど。まぁ、映画（アニメ）っていうのは、実際には"映画"ですから、趣味で描いてくワケにいかないんで、ヒドイ目に会いました。あーいうことをやっちゃいけないっていうのは、終わった後の結論でございます、ワハハハハッ!!　戦闘飛行艇だけで終わらせようと思ったんですよ。"こういうのがあるぜ！"っていう話で。それで良かったんだと思うけどね…。なんかこう…つい、やりたくなったのがいけなかったんスね。魔がさしたんです…、ああいうのは…。

まぁしかし、この飛行機はぜんぜん資料を持ってない！　名前もインチキだからね！　ワハハハハッ！　小学生の時に見た写真が一枚なんですよ。なんて不思議な物があるんだろう!?　と思ってね。で、カッコいいなー！って思った。とにかく横から見た写真が一枚でね。それ以来お目にかかってないんですよ。…こういう飛行艇に乗って飛んでみたいっていうのが…あの…少年の日の夢なんだよね！　こういう飛行艇、自分で持てたらいいなあっていう…。テヘヘヘヘ！」

映画『紅の豚』に関しては多くを語らない宮崎氏。当初は単に旅客機の機内上映用の小品を考えていたが、それが一般公開を前提とした長編に方向転換し、ご自分の趣味が映画に反映されることになってしまったことに心残りがあるようだ。映画の資料によると、第１回の執筆の前後に映像化の企画が進行しており、第２～３回はそのプレゼンテーション用のストーリーボードの役割を果たしている。（第１回では主人公はマルコ・パゴットであったのに、第２回では「ポルコ・ロッソと呼んでほしい」と自ら名乗っている）

物語のモチーフになったのが、小学生の時に見たたった一枚の写真の記憶であるという点に驚かされる。その機種は、マッキM.33という水上レーサーである。1925年に行われたシュナイダー杯という水上レースの第８回大会において、マッキM.33は実際にカーチスR3Cと競争したが、カーチスが優勝しマッキは３位に終わっている。

第13話
豚の虎

◎「戦車同士の戦いっていうのは、（映画や劇画のように）スピーディーじゃないと思いますよ。だいたい砲塔の中で自分がね、装填手になったことを考えればいいんです。で、車内の両脇の砲弾ラックに何発かずつ入ってますよね。でも砲塔の向きによっては、弾のあるほうのラックに行けないことはいくらでも起こるワケでしょう？　で、その時にどうしたんだ!?っていう…。砲塔の回転速度も含めて僕は、戦車戦っていうのはそうとう考えていることと違うんじゃないかな？って思います。そこらへんがね、どうもね、マンガ描いててもうまく表現できるかどうかワカんないけども…それで『豚の虎』っていうのを描きたかったんですよ。基本的にはそんなにカッコいいモンじゃないんだっていうことなんだけど…」

この作品は、『雑想ノート』の初版本の発売時に宮崎氏の要望で描き下ろされたものである。『紅の豚』の公開も成功に（宮崎氏にとっては不本意かも…）終わり、スタジオジブリの新社屋も完成、肩の荷が下りた安堵感からか、映画製作中のストレス解放のはけ口をタイミング良く描き下ろしにぶつけられたのだ。その申し出に編集者は逆に驚いてしまった。しかも、頁が足らないということで増頁というオマケもついたのであった。

宮崎駿
miyazaki hayao

1941年1月5日、東京都出身。飛行機会社の役員だった父親や、
戦記好きの長兄の影響下、読書や漫画を描いて幼年期を過ごす
1963年、学習院大学を卒業し、アニメーション製作会社東映動画に入社。
数々の長編映画に参加後、1978年に『未来少年コナン』を演出し注目を集める
以後、『ルパン三世カリオストロの城』で初の劇場作品を監督、
『風の谷のナウシカ』、『天空の城ラピュタ』、『となりのトトロ』、
『魔女の宅急便』と立て続けにヒット作を生み出した。
1992年には本誌第12話『飛行艇時代』を原作とした
映画『紅の豚』が公開され、大ヒットとなった
1997年夏には、過去最大の監督作品『もののけ姫』が公開された

［著作］
風の谷のナウシカ
シュナの旅
トトロの住む家
時には昔の話を（共著）
もののけ姫、他

宮崎駿の雑想ノート
【増補改訂版】

発行日／1997年8月4日　初版第一刷

著者／宮崎 駿

発行人／小川光二

発行所／株式会社 大日本絵画
〒101 東京都千代田区神田錦町1-7 tel.03-3294-7861（代表）

編集／卯月 緑

企画／株式会社アートボックス
〒162 東京都新宿区納戸町3 tel.03-3235-2761

造本・装丁／寺山祐策＋関口八重子

印刷・製本／大日本印刷株式会社

ISBN4-499-22677-5 C0076 ¥2800E

定価(本体2,800円+税)

Hayao Miyazaki's Daydream note

1937年(昭和12年)2月9日 スペイン地中海戦線
ひとりの農夫が義勇航空隊の基地にたどり着く。ファシスト軍に占領されたテルエル近郊の自分の村を脱け出し戦線をこえて通報に来たのである。やつらの秘密の飛行場があると…
小さいの六つ 大きいの 六つ以上いるだ
村の近くに散在する森のひとつにかくされているという。農夫は文盲だった。地図が読めない。いったいどの森なのだ…。農夫は飛行機に乗って道案内すると申し出た。指揮官は攻撃を決意する。
攻撃は早朝の奇襲しかない。援護の戦闘機は望めないのだ。村々からトラックが集まって来る。
ヘッドライトとオレンヂの木を燃すタキ火を目印にポテーズは離陸する。文盲の農夫をのせて
三機のポテーズは闇から白明へととぶ
明るくなって来た 各銃手は銃座につく やがて朝陽がさす
ファシスト軍の ハインケルHe-51 平凡な機体だったが、ポテーズには脅威だった。
射手達は手袋をきらい素手で射撃するのを好んだと書かれてある
正副操縦席は直列である
正規の乗員は5名となっているが7名位は乗っていたらしい。
ルイス旋回機銃 この豆鉄砲に射手達はウンザリしていた。せめてブローニングならと嘆いている。
銃口がのぞく穴にはガラスがない 鳥カゴ型銃塔 モチロン人力
マガジンラック
こんな処にガソリンタンクがあったかどうか これは推測である
しまった気化器の空気取入口を描き忘れた!!
腹部銃座は一番墓たれやすい銃座である。96陸攻でもB-17でも同じ事が報告されている。銃手が負傷すると無キズの者がすぐ交代して墓ち続けた。
クソッ!!俺たちゃズーッと後までこいつを使わせられたんだ!!
←日本軍留式旋回銃 (ルイス)
木がメリメリッと裂ける音…と被弾の様子をマルローが書いている 木製の胴体
ファシスト軍の識別マーク。有名な独のコンドル部隊も同じである。
フィアットCR-32
テルエル上空で、編隊は雲の下へ出た。
おやじさん 村だ!!
エッ エエ?!
ど どこ…!?
農夫はガク然となる
自分の村が判らない!! すみからすみまで知りつくした土地なのに
秒速50m、横をかすめる風景は自動車からの眺めに
ポテーズは地上スレスレへと降下していく。農夫にみなれた眺望を与えるために… どの森だ!?
「もし人間が見ること、探すことのために死ぬことがあったら、この農夫は死んでいただろう」とマルローは書く。見開かれた眼から涙がこぼれほおをつたい、アゴはケイレンしている。時間がない、敵機にとび立つ間を与えてしまう
そして、ついに 農夫は気がつく

定遠の装甲
定遠型の砲塔の天蓋には
将校塔がない。砲側の照準しかない時代なので
おそらくこの辺に照準窓があったと思う
305ミリ
装甲
クルップ20口径
30サンチ砲
砲が斜めのレールを
後退して 発砲の反動
を吸収する。
76ミリ
装甲甲板
356ミリ舷側装甲
石炭庫
ボイラー室
このカゲに司令塔が
ある。装甲200ミリ
305ミリ
356ミリ
艦載水雷艇
この頃の主力艦は
つんでいた
後部15サンチ副砲
装甲甲板76ミリ
356ミリ
シタデル CITADEL
前部防禦甲板
後部防禦甲板76ミリ
石炭庫
弾薬庫
ボイラー室
機関室(もちろん蒸気機関である)
シタデル
衝角
1866年リッサの海戦で劣勢のオーストリー艦隊がイタリア艦隊を体当り攻撃で破って以来 つけられるようになった。実際にはその後使われた例はなく、衝突事故の時に仲間を沈めるだけなので、やがて廃止されていく。
防禦甲板の効用
防禦甲板
というわけである
この時代魚雷は実用化が始まったばかり。まだジャイロによる進路維持器がないので仲々まっすぐ走ってくれなかった。航走距離もたった300mである。
シタデルとは 艦の主要部を中央に集め、分厚い装甲でおおった鉄の箱である 機関、ボイラー、弾薬庫、砲塔を集中防禦する 19世紀の末に流行した方式で、今日の常識からすると まことに奇妙なカッコウだが、全艦くまなく装甲すれば重くて沈んじまうのだから、軽量強固な最新式装甲だったのである。
砲塔を両舷に並列させて 主砲4門の全火力を 前方へ集中し、するどい衝角をかざして 敵につき進んでいく艦として 定遠と鎮遠は建造され、実際にも黄海海戦では「常に艦首を敵に向けヨ」との命令に従って戦った。
正式の海軍旗とちがいます(筋が足りない)
!! でっかいな ワーイ
32サンチ38口径
カネー砲
これは砲塔ではない
露砲塔といい、シッポだけカバーでおおうのである
舷側装甲ナシ
防御甲板40ミリ
アームストロング
12サンチ砲11門
この円筒の基部は300ミリの装甲アリ
海防艦 厳島 4335t 16ノット
インフレキシブル(1876年進水)の舷側装甲
定遠のシタデルは 列強の主力艦に較べればまだかわいいものだった。左は定遠のモデルといわれる英国戦艦インフレキシブルのシタデルの断片である。鍛鉄鈑の厚さは各々30cm クッションとしてはさまれた木の厚さは1メートル強ある。高張力鋼のないこの時代の装甲は鍛鉄で鋼にくらべればモロイものだったが、砲弾の力をはるかに上まわり、砲弾では主力艦は不沈であると思われていた。
この戦車は関係ナシ
(グチ) 先月のポテーズといい どうもかきにくい艦でまいってしまった。まるでタライである。すきなんだけど…
19世紀末の軍艦ならフランスが最高である。清国がドイツでなくフランスに発注してたらさぞかし壮烈な甲鉄艦が生れたのにと残念でアル。(その想像図)
甲鉄艦 凶悪
定遠、鎮遠のシタデルを貫ぬく砲の開発を日本海軍は仏人ベルダンに依頼した。ズングリした20口径のクルップ砲より はるかに長砲身のカネー式32サンチ砲がそれである。松島、橋立、厳島という観光案内みたいな名の海防艦にカネー砲を一門づつ載っけて 定遠の356ミリの舷側装甲をぶちぬこうというわけだった。
4000トンクラスの海防艦にやたらに重くて強力な砲を載せた結果はどうなったか?
強装薬(戦斗時と同じ装薬)でブッ放すと、艦内震動して故障続出。横にむけて発射すると針路が変ったという伝説が残っている。
かんじんの決戦でカネー砲は4〜5発は射ったとか、いや1発だとか、記憶にないとか…… 勿論 命中したという記録はない。要するに役に立たなかったのである。
アームストロング速射砲
日本の艦艇は当時の最新式砲 アームストロング社の速射砲をいちはやく採用していた。アームストロング砲で日本海軍は勝ったのである。従来の砲の8倍という発射速度を実現した15サンチと12サンチの速射砲で 清国艦隊に砲弾の雨を注いだ! 勿論 1発も定遠と鎮遠の装甲を貫ぬいた弾丸はなかった。
左舷砲戦中の厳島
ウリヤッ
40口径
12サンチ
アームストロング砲
尾栓と駐退機の改良で
1分間に12発 発射可能
下っ腹がふくらんだ船体はタンブルホームとよばれ この頃のフランス艦の特長である
もっとも 現実の海戦では 硝煙や艦の動揺、照準のための目測で そんなにうてるわけではない

1938年(昭和13年)5月20日 薄暮
東シナ海に近い寧波(ニンポー)の粗末な飛行場に、二機のマーチン重爆がこっそり着陸した。上海、南京はすでに日本軍に占領され、9機のマーチンも この2機をのこして他はすべて失われていた。
搭乗員達は 黙々と ニンニクの茎の炒めもので夕食をとる。
(注) おかずについて中山氏は言及していない。これはぼくの確信的推測である。
この二ヶ月間、奥地で秘密に訓練して来た成果がいよいよ試されるのだ。
その間に、マーチンの両翼のタンクに燃料が注入される。勿論ギリギリ満タンに。手動ポンプでは骨の折れる仕事である。
つりに出発の時が来た
二基のライトサイクロンエンジンを轟かせてマーチン139Wは 宵空へと消えていった
目的地は日本本土。初の日本空襲!!
大陸国中国のパイロットにとって夜間の洋上飛行は緊張の連続である。暗い照明の中で、ナビゲーターの顔ははりつめている。
銃手兼無線士は 遠ざかる中国をみつめている
日本軍に夜間戦斗機はない(中国軍に夜間爆撃機がないから)が、見張りに専念する。無線の仕事は当面ないのだ
パイロットは 闇に目をこらすために計器盤の照明を最低限にしぼり込む。カウリングの動かない計器が見にくいのが気がかりだ。
夜の東シナ海を一路日本へと二機はとぶ
カタログどおりなら マーチンにとって九州南部は航続距離ギリギリなのだ。
編隊を組むためにオートパイロットは使えない
この せまい機首では ナビゲーターはたいへんだったろう
消炎排気管
マホービンのお茶
水がわりにお茶をのむ中国では マホービンが日本より早く普及していた。
翼内メインタンク
中央翼に左右二つづつ
防弾ゴムは まだない。
正規の乗員数は 4名だが この爆撃行では 3名づつで 一名減らしている。少しでも航続力をのばすためだったのだろう。
日本軍
南京
上海
長江
約900km
寧波(ニンポー)
東シナ海
出発から およそ3時間半、九州上空予定時刻
眼下は一面の雲だ。搭乗員は 必死に目をこらす
突然 雲のきれ目に またたく沢山の地上の灯が見えた
日本だ!!
ゆるやかな弧をえがいて 二機は 爆撃体勢に入る
爆撃照準器は使わない
ナビゲーター兼務の爆撃手は ただ爆弾倉の扉のハンドルを握りしめている。各個に機長が叫んだ「ひらけ!!」
当時 蛍光灯は勿論、水銀灯も信号機もなかったから 本物の星のように見えたはずだ

高射砲塔
128ミリ 40年式 連装高射砲は
1門あたり 4〜5秒に1発の速度で
26kgの榴弾を 高度14800メートル
まで撃ち上げるという おそるべき
半自動砲であった。
88の大兄貴である。
こいつが ひとつの塔に8門
6塔で 計48門を集中させて
るのだから よほどのもの好き
でないと町の上空に侵入
する気はおこらない。
低空で近づけば 死角なしに
はりめぐらした 192門の20ミリと36門の
37ミリ砲の弾幕にとび込むことになる。
ところが 当局は気がついたのだ。
なんというコンクリートと鋼材の無駄だと。
要するに 魚雷工場を疎開させれば すむじゃ
ないかと。だが おそすぎた 既に三つの砲塔と
二つの管制塔は完成間近かになっていたのである。
射撃管制塔
37ミリ×6
まず アメリカ人が やって来た。
白昼の強襲。400機のB-17が
キール軍港をめざし、内60機が防
空戦斗機の目をくらまして まんまと
リュースバルク上空に侵入したので
ある。1機当り12丁の12.7ミリブローニ
ングMGに 250kg爆弾を8発ずつ
かかえて、勿論 目標は魚雷
工場への精密爆撃で
ある。
28ミリ全砲列が 射距離15000mで砲撃開始。初弾から
悦味なほどの至近弾。そのまま かっきり4分半撃ちに撃った。空中は
断と爆煙に充ち、爆弾投下前に 2機が はやくも火を発
した。アメリカ人の不運は 照準を受けもつ先頭機が やられ
たために、投弾が数秒おくれたことであった。爆弾は
町の散歩道として親しまれた森をほりかえしただけであった。帰途 上空で更に5機が喪失。帰途途上におちたもの2機。
損失率なんと20%!!
次にイギリス人が来た。
モスキートで低空スレスレに……16機
あの化物の塔をなんとか
しなければ…、トゲぬきを
イギリス人がかって出た。
巡洋艦の片舷斉射と同じ
火力を持つ ロケット弾装備
のモスキートで 森をかすめ
て殺到する。
損失率なんと81%
今度は機関砲回廊
の出番であった。37ミリと20ミリ
の火の中に突進した木製機
の運命は もっと悲惨だった。
帰りついた モスキートは
たった3機。塔はみな
ロケット弾をくらったが
損害はわずか。コンクリー
トの壁は ドイツ的頑丈さ
を証明した。
＜射撃管制塔＞
最終的に砲塔を
完成させる力は
宣伝省から やって来た。
絶好の宣伝材料
「かくもスゴイ高射砲
塔で 全ドイツの都市
は武装するのだ!!」
というわけで、
無駄は かとごで
ベルダ、ドーラ、アンナの
三高射砲塔と
ローザ、ワンダの
二つの管制塔
は完成したので
あった。
しかし、その時に
は 魚雷工場の
疎開計画は
着々と進められて
いたのである。
高射砲兵はぼ
やいた。いったい
何を守るのだ
このど田舎の中世都市をか…!?
ローザ塔の
測距儀
装甲厚150ミリ
今やリュースバルクの高射砲塔は 全ドイツ防空隊のカガミとなった。
魚雷工場は もうとっくに いなくなったのに
高射砲塔は アメリカとイギリスの飛行機を
ひきよせる シンボルになってしまったのだ。迷惑
なのは 市民の方で、火のついた飛行機は
降って来るわ、俯角をつけて撃ち出される 機関砲
弾は とび込むわで 美しい町並は メチャクチャになっていくのである。
PORK LOVE

このボートは Qシップではない
このボートは Qシップの主兵装である。ハッチの上に短艇をのせるのは当時あたり前のことだった。
オスナヨ!
ヒソヒソ
これがQシップだ
日本では囮船と訳されている
要するに小型の沿岸貨物船（帆船も使われた）に大砲をかくして、Uボートの攻撃を待ちかまえるという代物。
Uボートが油断して魚雷は勿論、砲弾も節約したくなるような船が選ばれた。
このブリッジ本当のブリッジ（橋）大きくして
仮国の船会社の旗
当時の汽船はみな石炭をたく蒸気エンジン船だった
エントツの印も船会社にあわせてぬりかえる
航路によってはあやしまれんように中立国の旗をたてた。もちろん、ワザとボロの色あせた旗を使った
ノールウェー旗
このデッキハウスの正体は右図のごとし
前部ハッチ上の短艇．その正体は左図のごとし
LAPUTA
女装した者がいたかどうかは定かでない。
船名もせっせと変えた
船倉にはしこたま木材をつめ込んだ
被弾した時に浮力を得るためである。
変装は念入りにおこなわれ口ヒゲまでつけた指揮官もいた。
上から
のぞくなよナ
後部デッキハウスの75ミリ砲
よその国の旗をたてても、国際条約に違反するわけではない。だまし、だまされるのも戦術の内と認められていたのである。ただし、砲火をひらく直前に、その旗は降ろさねばならない。Qシップでも、ドッカーンとやる前に イギリスの海軍旗ととりかえたはずである。
イギリス海軍旗
いざとなれば
パカッ
というわけである。
10.5サンチ砲
本当だぞ!!
勿論 乗組員は 船長以下すべて海軍軍人から選抜され、彼等は 民間人に変装して、ひたすら イギリス近海を いったりきたりして、エサが かかるのを 待ったのであった。
↑つかれると つい字が右下りになるのである。ゴメンナサイ
キムイ
何処にUボートがいるか判らないのである。大砲を持った武装商船もいたから、Uボートも けっして油断しなかった。
いざやってみると
なかなかUボートが 見つけてくれなくて
空しいさすらいの日々がつづいた。それがQシップ乗りの生活である。
第二次大戦に較べると 夢のように楽だった と デーニッツ提督が回想しているように。この頃の潜水艦は まっ昼間 堂々と水上を航行して エモノを探しまわることが出来た。1918年になるとずい分 対潜用の飛行機がとびまわり始めるが、なんせ レーダーがないのだから、楽なものだったのだ。
Uボートの砲は はじめ8.8サンチ位だったが、10.5サンチから15サンチと次第に強化されていく
ハッチが司令塔の一つだけだったので砲弾運びは楽ではなかったと思う
防潜網とか障害物にひっかからないようにはるワイヤー 空中線もついていた
いくら手元の写真をみても Uボートのマストのしまい方が判らないので かかないことにした。例によって資料的価値はないのだ ワッハハハ…。
第一次大戦のUボートは、セッセと機雷をバラまいて歩いた
機雷のおとし穴 この中にたてにはってある
▼ついに 待ちに待った時が来た！
Uボートの砲撃は 威嚇射撃から始まる
ド
アレー
ワーイ
マラサッ
乗員が逃げる時を与えてくれるわけだ かねて打合せどおり、パニック班は これみよがしに あわてふためき退船する
近づいて
しとめろ
ニゲロ
Uボートは 接近しつつ おもむろに浮揚
ドカン
ズーン
遠くから撃ち始めると水中に逃げられる可能性がある。ギリギリまで待つ。
ウリャッ!!
アッ
ドカバカボカーーン
アレー
ヤロオ…
イヌコロめ
ブクブク